HITACHI

FLORA 270W MF1

FLORA活用百科

マニュアルはよく読み、保管してください。
・製品を使用する前に、安全上の説明をよく読み、十分理解してください。
・このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

はじめに

重要なお知らせ

・本書の内容の一部または全部を、無断で転載あるいは引用することを禁止します。
・本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
・本書の記述内容について万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
・本製品を運用した結果については前項にかかわらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

パソコンの信頼性について

ご購入いただきましたパソコンは、一般事務用を意図して設計・製作されています。生命、財産に著しく影響のある高信頼性を要求される用途への使用は避けてください。このような使用に対する万一の事故に対し、弊社は一切責任を負いません。
高信頼性を必要とする場合には、別システムが必要です。弊社営業部門にご相談ください。
一般事務用パソコンが不適当な、高信頼性を必要とする用途例
・化学プラント制御、医療機器制御、緊急連絡制御など

規制、対策などについて

■ 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■ 電源の瞬時電圧低下対策について

本装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格を満たしております。しかし、バッテリーを接続していない場合及びバッテリーが満充電でない場合、本規格の基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。(社団法人　電子情報技術産業協会のパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示)

■ ENERGYSTAR® について

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。
『国際エネルギースタープログラムは、コンピューターをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピューター、ディスプレイ、プリンター、ファクシミリ、複写機、スキャナ、複合機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク (ロゴ) は参加国間で統一されています。』

■ PC グリーンラベル制度について

本製品は、JEITA「PC グリーンラベル制度」の審査基準 (2006 年度版) を満たしています。
詳細は、PC3R の Web サイトをご覧ください。
→ http://www.pc3r.jp

■ J-Moss グリーンマーク表示について

本製品は、資源有効利用促進法、及び JIS C 0950 が規定するグリーンマーク表示の基準に適合しています。
適合状況は、下記 URL をご覧ください。
→ http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/flora/policy/environment/index.html

■ 輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。この装置に付属する周辺機器やソフトウェアも同じ扱いになります。
なお、ご不明な場合は、弊社「お問い合わせ先」にお問い合わせください。

■ 音楽 CD 再生について

ディスクレーベル面に マークの入ったものなど JIS 規格に合致したディスクをご使用ください。規格外 CD を使用された場合には、再生の保証はいたしかねます。再生できた場合であっても、音質は保証いたしかねます。
なお、規格外 CD を再生した場合、色々な不具合が発生することがあります。

■ 液晶ディスプレイのドット抜けについて

表示するパターンによっては、微妙な輝点 (指定の色と関係なく光る) や黒点 (指定の色が表示できない) が見えたり、罫線や文字の一部が欠けることがあります。ただし、輝点や黒点の数については、弊社の規格によって制限しています。ご使用中、著しく増加することはありません。(社団法人 電子情報技術産業協会のパソコン用液晶ディスプレイのドット抜けに関する定量的表記ガイドラインに基づく表示)
詳細は FLORA ホームページ内の仕様表をご覧ください。
→ http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/flora/index.html

■ バッテリーパック使用に関するお知らせ

・ 安全性の観点から、パソコンではバッテリーパックに対する過充電、過電圧、温度異常、過放電、内部短絡、放電電圧異常、充放電回数等、さまざまな監視制御を行っています。これらの制御はバッテリーパック内の制御回路だけでなく、パソコン本体側の制御回路、制御ソフトウェアとの密接な関係の下で行われています。
　当該パソコン本体に関する詳細の設計 / 製造情報が無いにも拘わらず、バッテリーパックに改造を加えることは、その後の使用に危険が伴います。
・ バッテリーの残容量は、パソコンのシステムの動作と密接な関係にあります。さまざまなバッテリーに関する情報を元にバッテリーの残容量は計算されています。
　また、バッテリーの残容量に合わせて、パソコン本体内でもさまざまな処理が行われています。当該パソコン本体に関する詳細の設計 / 製造情報が無いにも拘わらず、バッテリーパックに改造を加えることは、パソコンの誤動作等の可能性があります。

・パソコンの使用にあたっては、パソコンメーカー指定のバッテリーパックを正しい使用方法で使用する必要があります。誤った使用を行った場合、火災、破裂、発熱などの恐れがあります。また、バッテリーパックの液漏れや性能 / 寿命の低下につながる可能性があります。
・改造バッテリーパック等の中には、バッテリーパックのケースや内部の基板等はパソコンメーカー純正バッテリーパックの部品をそのまま使用し、内部充電電池のみを交換したものもあります。
　更に、内部充電電池も純正バッテリーパックと同じ電池を使用しているケースもあります。この場合、外観やパソコンのユーティリティーを使用してバッテリーパックの情報を確認しても、見分ける事ができない可能性がありますので、過去の使用状況が不明なバッテリーパックの使用には注意が必要です。
・非純正バッテリーの使用により、万一事故等の問題が発生しても、保証の範囲外となります。(社団法人　電子情報技術産業協会のノート型パソコン用「非純正バッテリーパック」に関するガイドラインに基づく表示)

■ 電波について (無線 LAN 内蔵モデルの場合)

本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局 (免許を要する無線局) および特定小電力無線局 (免許を要しない無線局) が運用されています。次項に注意してください。
・本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことをご確認ください。
・万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更して、電波干渉をしないようにしてください。
・その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合は、弊社のお問い合わせ先にご連絡ください。

使用周波数帯域	2.4GHz
変調方式	OFDM 方式、DS-SS 方式
想定干渉距離	40m
周波数変更の可否	全体域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

(IEEE802.11a(J52/W52/W53)/b/g)

・IEEE802.11a の規格による通信は、電波法により、屋外での使用が禁じられています。
　(屋内のみ使用可能です)

■ 無線 LAN 製品ご使用におけるセキュリティに関するご注意 (無線 LAN 内蔵モデルの場合)

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物 (壁等) を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

●通信内容を盗み見られる
　悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
　　・ID やパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報
　　・メールの内容
　等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

●不正に侵入される
悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
・個人情報や機密情報を取り出す (情報漏洩)
・特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す (なりすまし)
・傍受した通信内容を書き換えて発信する (改ざん)
・コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する (破壊)
などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。
無線 LAN 機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。
従って、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線 LAN カードや無線 LAN アクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線 LAN 機器のセキュリティに関する全ての設定をマニュアルにしたがって行ってください。
なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。
セキュリティの設定などについて、お客様ご自分で対処できない場合には、お問い合わせ先までご連絡ください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

お使いになる前に

このたびは日立のシステム装置(以下、パソコン)をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。次の内容と各マニュアルの内容をよくお読みになり、安全に正しくお使いください。

基本ソフトについて

このパソコンには、次の基本ソフト(OS(オーエス)またはオペレーティングシステム)がインストールされています。インストールされている以外の OS は保証外です。

・ Microsoft® Windows® XP Professional Operating System (以下 Windows XP または Windows)

お問い合わせ先

■ パソコンの操作や使いこなしについてのお問い合わせ

HITAC カスタマ・アンサ・センタにお問い合わせください。技術的なお問い合わせについて回答いたします。ただし、各言語によるユーザープログラムの技術支援は除きます。

■HITAC カスタマ･アンサ･センタ(HCA センタ)
TEL: 0120-2580-91(フリーダイヤル)
受付時間 : 月曜日～金曜日 9:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00(土・日・祝日・年末年始を除く)
＊電話での対応は国内に限らせていただきます。

■ Windows XP のお問い合わせについて

インストールおよび各種設定項目などのお問い合わせについては、有償となります。
下記までお問い合わせください。

■Windows XP のお問い合わせ
メールアドレス：supportservice-soft@itg.hitachi.co.jp
ホームページアドレス：http://www.hitachi.co.jp/soft/service/index.html

■ 故障や保守サービスについてのお問い合わせ

トラブルが発生した場合は、本書の 13 章をご確認ください。故障と判断される場合は、日立コールセンタまたはご購入先にお問い合わせください。併せて保守サービスのご案内をいたします。

■日立コールセンタ
TEL: 0120-8824-40(フリーコール)
受付時間 : 9:30 ～ 19:00(平日)
＊土、日、祝日、年末年始は休ませていただきます。
＊電話での対応は国内に限らせていただきます。

■ パソコンの廃棄についてのお問い合わせ

弊社では、事業者 (法人所有)、及びご家庭 (個人所有) の使用済みパソコンの回収リサイクルサービスを行っています。詳細については、日立リサイクルホットラインにお問い合わせください。

■日立リサイクルホットライン
TEL: 0120-12-5006（フリーダイヤル、携帯電話、PHS からも可）
受付時間 : 月曜日～金曜日 9:30 ～ 17:00（土・日・祝日、および弊社休業日を除く）
メールアドレス：e-kankyo@ml.itg.hitachi.co.jp
ホームページアドレス：http://www.hitachi.co.jp/pc-recycle/
＊本サービスは国内に限らせていただきます。

■ パソコンの廃棄・譲渡時のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきております。これらのパソコンの中のハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。
従って、そのパソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。
ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合、一般に
・データを「ゴミ箱」に捨てる
・「削除」操作を行う
・「ゴミ箱を空にする」コマンドを使って消す
・ソフトで初期化 (フォーマット) する
・付属のリカバリー CD を使い、工場出荷状態に戻す
などの作業をすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータは見えなくなっているという状態なのです。
つまり、一見消去されたように見えますが、Windows® などの OS のもとで、それらのデータを呼び出す処理が出来なくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。
従って、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このパソコンのハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用される恐れがあります。
パソコンユーザが、廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザの責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス (共に有償) を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。
なお、ハードディスク上のソフトウェア (OS、アプリケーションソフトなど) を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認を行う必要があります。

このパソコンには、HDD データ消去ユーティリティー「 CLEAR-DA 」を付属しています。

参照

・ 詳細について→「アプリケーションについて」「CLEAR-DA FLORA Edition」（P.201）

アプリケーションのお問い合わせ先

このマニュアルで説明していて次表に記載されていないソフトウェアについては、弊社の「お問い合わせ先」までお問い合わせください。

参照

・ お問い合わせ先→「お問い合わせ先」(P.6)

<table>
<tr><th>アプリケーション名</th><th>問い合わせ先</th><th>電話番号</th><th>FAX 番号</th></tr>
<tr><td>Office Personal 2003</td><td>マイクロソフト 無償サポート</td><td>03-5354-4500
06-6347-4400</td><td>－</td></tr>
<tr><td>インターネットマーク</td><td>株式会社 日立製作所
公共システム事業部
インターネットマークス事業推進 G</td><td colspan="2">e-mail：
internet-marks@ml.itg.hitachi.co.jp
(e-mail のみのお問い合わせとなります)</td></tr>
<tr><td>B's Recorder GOLD8 BASIC for HITACHI</td><td>BHA テクニカルサポートセンター</td><td>06-4861-8234</td><td>06-6378-3336</td></tr>
<tr><td>PowerDVD 6</td><td>サイバーリンク カスタマーサポートセンター</td><td>0570-080-110</td><td>03-3516-9559</td></tr>
<tr><td rowspan="2">CLEAR-DA FLORA Edition</td><td rowspan="6">(株)日立ケーイーシステムズ</td><td>047-472-8633</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">e-mail：
clear-da@ml.itg.hitachi.co.jp</td></tr>
<tr><td rowspan="2">BACKUP-DA FLORA Edition</td><td>047-472-8633</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">e-mail：
backup-da@ml.itg.hitachi.co.jp</td></tr>
<tr><td rowspan="2">SAVINGDA</td><td>047-472-8633</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">e-mail：saving-da@hke.jp</td></tr>
<tr><td>Norton AntiVirus 2006
(90 日版)</td><td>株式会社 シマンテック</td><td colspan="2">次の URL よりユーザー登録が必要です。
http://www.symss.jp/jpo-hitachi-reg/</td></tr>
</table>

＊お問い合わせ先はマニュアル制作時点のものです。
＊インストールされているアプリケーションは、機種によって異なります。
＊各ソフトウェアの責任元は、各開発元になります。
＊添付ソフトウェア以外の市販のアプリケーションについては、各開発元にお問い合わせください。

パソコンの最新技術情報

パソコンに関する最新情報をホームページに掲載しています。ご参照ください。

参照

・ 電子マニュアルからホームページを見る→ http://www.hitachi.co.jp/pc/ が表示されます。

マニュアルの表記について

⚠	これは、安全注意シンボルです。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージに従ってください。
⚠警告	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用います。
⚠注意	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
注意	これは、装置の重大な損傷、または周囲の財物の損害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
重要	重要事項や使用上の制限事項を示します。
ヒント	パソコンを活用するためのヒントやアドバイスです。
参照	参照先を示します。
用語	パソコンの用語を解説します。
CD/DVD ドライブ	このマニュアルでは、CD-ROM ドライブなどの光学式ディスクドライブをまとめて表記します。
HDD	ハードディスクドライブを表記します。
FDD	フロッピーディスクドライブを表記します。
FD	フロッピーディスクを表記します。
HDD リカバリーモデル	『Product Recovery CD-ROM』が同梱されておらず、HDD のリカバリー領域から再セットアップを行うモデルを表記します。
CD-ROM リカバリーモデル	『Product Recovery CD-ROM』、『活用百科』CD が同梱されており、再セットアップは、添付の CD-ROM から行うモデルを表記します。

マニュアルの説明している画面およびイラストは一例です。機種によっては、異なる場合があります。説明の都合で、画面のアイコンやイラストのケーブルなど、一部省略している場合があります。
URL、お問い合わせ先、画面などは、マニュアル制作時点のものです。

もくじ

パソコンを安全にお使いいただくために

● 安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

・操作は、このマニュアル内の指示、手順に従って行ってください。

・装置やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。

これを怠ると、けが、火災や装置の破損を引き起こすおそれがあります。

● シンボルについて

安全に関する注意事項は、次に示す見出しによって表示されます。これは安全注意シンボルと「警告」および「注意」という見出し語を組み合わせたものです。

これは、安全注意シンボルです。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージに従ってください。

これは、死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用います。

これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

これは、装置の重大な損害、または周囲の財物の損害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

【表記例１】感電注意

△の図記号は注意していただきたいことを示し、△の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。

【表記例２】分解禁止

⃠の図記号は行ってはいけないことを示し、⃠の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。

【表記例３】電源プラグをコンセントから抜け

●の図記号は行っていただきたいことを示し、●の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。

● 操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。装置について何か問題がある場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い求め先にご連絡ください。

● 自分自身でもご注意を

装置やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を越えた事態が起こることが考えられます。操作に当たっては、指示に従うだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。

設置時のご注意

⚠警告

日本国以外の使用

本パソコンは日本国内専用です。電圧の違いや環境の違いにより国外で使用すると火災や感電の原因になります。また他国には独自の安全規格が定められており本パソコンは適合していません。

使用する電源

使用できる電源は交流 100V です。それ以外の電圧では使用しないでください。電圧の大きさに従って内部が破損したり過熱・劣化して感電や火災の原因になります。

タコ足配線

同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。コードやコンセントが過熱し、火災の原因になるとともに、電力使用量オーバーでブレーカーが落ち、ほかの機器にも影響を及ぼします。

湿気やほこりの多い場所での使用

- 浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所の近傍、湿気の多い地下室、水泳プールの近傍やほこりの多い場所では使用しないでください。電気絶縁の低下によって火災や感電の原因になります。
- 油煙やほこりの多い場所で使用した場合、本体内部にほこりが溜まることによって精密部品の冷却を妨げ、故障ややけどの原因になります。

周辺機器の増設や接続

周辺機器を増設・接続するときは、電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーパックが付いているときは、取り外してください。また、マニュアルの説明に従い、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器を使用してください。それ以外の周辺機器を使用すると、接続仕様の違いによる周辺機器やパソコンの故障から発煙、発火、火災や故障の原因になります。

⚠注意

信号ケーブルについて

- ケーブルは足などに引っかけないように、配線してください。足をひっかけると、けがや接続機器の故障の原因になります。また、大切なデータが失われるおそれがあります。
- ケーブルの上に重量物を載せないでください。
- 熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接続機器などの故障の原因になります。

不安定な場所での使用

傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがをするおそれがあります。

使用前のご注意

⚠警告

ACアダプターの取り扱い

ACアダプターは、次のことに注意して取り扱いください。火災、感電もしくは発熱によるやけどの原因になります。

・絶対に分解しない。
・浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所の近傍、湿気の多い地下室、水泳プールの近傍やほこりの多い場所で使用しない。
・水に濡らしたり、濡れた手で触れない。
・熱がこもるような環境で使用したり、放置したりしない。
・上に物を置かない。
・必ず付属のコードセット(電源コード)を使う。
・本パソコン以外の機器に使用しない。

温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部に結露することがあります。結露した状態で使用すると、発煙、火災や感電の原因になります。使用する場所で、数時間そのまま放置してからご使用ください。

付属品の使用

ACアダプターやバッテリーパックなどは、必ず付属または指定のものをご使用ください。それ以外のものを使用すると、電圧、最大出力電流や＋－の極性が異なっていることがあるため、火災の原因になります。

梱包用ポリ袋について

パソコンの梱包用エアーキャップなどのポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かないでください。かぶったりすると、窒息するおそれがあります。

電源コードの取り扱い

電源コードは必ず付属のものを使用し、次のことに注意して取り扱いください。取り扱いを誤ると、電源コードの銅線が露出したりショートや一部断線で、過熱して感電や火災の原因になります。

・ものを載せない。
・引っ張らない。
・押しつけない。
・折り曲げない。
・加工しない。
・熱器具のそばで使わない。
・束ねない。
・本パソコン以外の機器に使用しない。

使用時のご注意

⚠警告

航空機内での使用

航空機内で使用するときは、航空会社の指示に従ってください。航空機の計測器などに悪影響をおよぼすことがあります。

揮発性液体の近くでの使用

マニキュア、ペディキュアや除光液など揮発性の液体は、パソコンの近くで使わないでください。パソコンの中に入って引火すると火災の原因になります。

バッテリーパックの充電
バッテリーパックを充電するときは、必ずこのパソコンに入れて充電してください。ほかの方法では電圧、充電時間などが異なる場合があり、破裂、発火などの原因になります。

心臓ペースメーカーを装着時の使用
（無線 LAN 内蔵モデルの場合）
心臓ペースメーカーなど、医療機器をご使用の環境では、安全のため装着部分から 22cm 以上離してご使用ください。電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

異常な熱さ、煙、異常音、異臭
万一異常が発生した場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、感電、火災の原因になります。すぐに電源プラグを抜けるように、コンセントの周りにはものを置かないでください。

通気孔
通気孔は内部の温度上昇を防ぐためのものです。
・通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、発煙、発火や故障の原因になります。
・本体底面がふさがれるような布、じゅうたんなどの上には置かないでください。本体内部への通気が損なわれ、発煙、発火ややけどの原因になります。
・ものを置いたり立てかけたりしないでください。本体内部の通気が損なわれ、発煙、発火ややけどなどの原因になります。

注意

小さなお子様などの使用時
小さなお子様などがお使いになるときは、必ず大人の方の見守りが必要です。トレイやパネルに指を挟んだりして、けがの原因になります。

眼精疲労について
ディスプレイを見る作業を行うときは、作業場を 300 ～ 1000 ルクスの明るさにしてください。また、連続作業するときは、1 時間に 10 分から 15 分程度の休息をとってください。長時間ディスプレイを見続けると、眼に疲労が蓄積されます。

ヘッドホンやイヤホン
ヘッドホンやイヤホン使用時は、適度な音量でご使用ください。音量が大きすぎると難聴になるおそれがあります。

トレイの開閉
CD/DVD ドライブのトレイはディスク（CD、DVD など）の装着、取り出しをするとき以外は、必ず閉じて使用してください。手などがぶつかったり指を挟んだりして、けがの原因になります。また、塵埃の侵入による故障の原因にもなります。

光学式マウスについて
マウスの底面から発せられる赤い光を直接見ると、眼を痛める場合があります。赤い光を直接見ないでください。

低温やけど
パソコン使用中は底面が熱くなります。ひざの上などに直接のせて使用しないでください。低温やけどのおそれがあります。また、装置の一部が熱くなる場合がありますが、装置動作に支障をきたすものではありません。

注意

磁石について

パソコンに磁石、磁気ネックレスなどの強い磁気を発生するものを近づけないでください。HDD 装置のデータが壊れるなど、パソコンの故障の原因になります。

液晶ディスプレイ部の開閉

開閉は、液晶ディスプレイ部の中央上側を持ち行ってください。とくに閉じるときは、カチッとロックするまでゆっくりと倒してください。このようにしないと、液晶ディスプレイ部の破損の原因になります。

保管時のご注意

警告

カバン、袋などへの収納について

パソコンをカバン、袋などに収納するときは、次のことに注意してください。取り扱いを誤ると、発煙、もしくは発熱によるやけどの原因になります。

・パソコンの電源を切った状態で収納する。
・カバン、袋などにパソコンが収納された状態ではバッテリーを充電しない。

バッテリーパックの保管

バッテリーパックを保管する場合は、パソコンから取り外し、端子に絶縁テープをはり、絶縁状態にしてください。絶縁状態にしないでバッテリーパックを保管すると、端子間どうしが接触ショートし過熱・破裂・発火などでけがをしたり、火災の原因になります。

バッテリーパックの持ち運び

バッテリーパックを持ち運ぶときはポリ袋などに入れてください。ほかの金属に触れ、端子間がショートし、過熱・発火・破裂などを引き起こし、火災やけがの原因になります。

バッテリーパックの取り扱い

バッテリーパックは次のことに注意して取り扱いください。取り扱いを誤ると、液漏れ、過熱・破裂・発火し、火災やけがの原因になります。

・電池の＋－端子間をショートさせない。
・火中に投入したり、60 ℃以上に過熱しない。
・落下などによる強い衝撃を与えない。
・外装パックが著しく破損するような衝撃を与えない。
・濡れた布で金属部分を拭かない。
・水に濡らしたり、濡れた手で触れない。
・分解・改造しない。
・火のそばや、炎天下、暖房器具の近くなどで使用、放置、充電しない。
・指定外のバッテリーパックを使用しない。
・液漏れしている場合には、素手で触れない。万が一付着した場合は水で洗い流す。
・本パソコン以外の機器に使用しない。

作業時のご注意

警告

モデム部分への接触
内部に触れる必要があるときは、モジュラーケーブル (電話線) を抜いてください。呼び出し (ベル) 着信時および雷が鳴っているとき感電するおそれがあります。

電話線への接続と使用
雷が鳴っているときは、パソコンの使用および電話線の接続作業を中止してください。誘導雷で発生する高電圧によって感電するおそれがあります。

カバーの取り外し
・メモリーを増設する場合などにカバーを取り外すときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。パソコンの電源を切っても、一部の回路には、通電しているため、思わぬ接触など作業の不具合発生時に故障や劣化による火災の原因になります。またバッテリーを取り付けているときは、バッテリーパックも取り外してください。
・内部にネジなどの異物を入れないようにしてください。発煙、発火の原因になります。
・パソコンを立ち上げるときは、必ずカバーを取り付けてから立ち上げてください。
・メモリーボードソケット以外には触れないでください。

注意

部品の追加・交換
電源を切った直後は、カバーや内部の部品が熱くなっています。電源プラグをコンセントから抜き、約 30 分以上時間をおいてから行ってください。やけどの原因になります。

金属など端面への接触
パソコンの移動、部品の追加などで金属やプラスチックなどの端面に触れる場合は、注意して触れてください。または、綿手袋を着用してください。けがをするおそれがあります。

注意

LAN コネクターについて
LAN コネクターには、LAN ケーブルを接続してください。LAN ケーブル以外のケーブルを接続しないでください。故障するおそれがあります。

ボードの取り扱いについて
ボードを取り扱う場合は、静電気をあらかじめ取り除くか、綿手袋などを着用してください。静電気を取り除かないでコネクター部などの電気製品に触れると、壊れるおそれがあります。

ハードディスクの取り扱いについて
ハードディスクは精密機械です。ご使用にあたっては、大切に取り扱ってください。取り扱い方法によっては、ハードディスクの故障の原因になります。
・パソコンを持ち運ぶときは、振動や衝撃を与えないように慎重に取り扱う。
・パソコンを移動させるときは、電源を切る。

一般的なご注意

警告

修理・改造・分解
マニュアルの指示に従って行うオプションなどの増設作業を除いては、自分で修理や改造・分解をしないでください。火災や感電、やけどの原因になります。

装置内部への異物の混入
通気孔などから内部にクリップや虫ピンなどの金属類や燃えやすい物などを入れないでください。そのまま使用すると、感電や火災の原因になります。

落下などによる衝撃
落下させたり、ぶつけたりするなど過大な衝撃を与えないでください。内部に変形や劣化が生じ、そのまま使用すると、感電や火災の原因になります。

装置上に物を置く
花びん、植木鉢など水の入った容器や虫ピン、クリップなどの小さな金属物を置かないでください。内部に入った場合、そのまま使用すると、感電や発煙、発火の原因になります。また、キーボードの上には紙などの書類を置かないでください。本体の冷却を妨げ、故障ややけどの原因になります。

接続端子への接触
USB コネクターなどの接続端子に手や金属で触れたり、針金などの異物を挿入したりしないでください。金属片のある場所に置かないでください。発煙したり接触不良などにより故障の原因になります。

バッテリーパックの液漏れ
誤った取り扱いをすると、バッテリーパックから液漏れすることがあります。この液体には絶対に触れないでください。もし液体が手に付いたときは、流水で洗い流してください。万一、口に入ったときは水でゆすぎ、目に入ったときは清水で洗い流してから、医師の診断を受けてください。

電源プラグの接触不良やトラッキング
電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因になります。
・ 電源プラグは、根元までしっかり差し込む。
・ 電源プラグは、ほこりや水滴が付着していないことを確認し、差し込む。付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってから、差し込む。
・ グラグラしないコンセントを使用する。

パソコンの電源 OFF について
パソコンの電源を切っても、一部の回路には通電されています。休暇や旅行など長期間ご使用にならないときは、必ず AC アダプターの電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーパックを取り外してください。万一、部品破損時には火災の原因になります。

電源プラグの抜き差し
・ 電源プラグをコンセントに差し込むとき、または抜くときは必ず電源プラグを持って行ってください。電源コード部分を引っ張るとコードの一部が断線してその部分が過熱し、火災の原因になります。
・ 休暇や旅行などで長期間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。使用していないときも通電しているため、万一、部品破損時には火災の原因になります。
・ 電源プラグをコンセントから抜き差しするときは、乾いた手で行ってください。濡れた手で行うと感電の原因になります。

⚠注意

目的以外の使用
踏み台やブックエンドなど、パソコン本来の目的以外に使用しないでください。壊れたり、倒れたりし、けがや故障の原因になります。

液晶ディスプレイ部の破損
液晶ディスプレイ部はガラスでできています。液晶ディスプレイ部が破損したときは、ガラスの破片には直接触れないでください。けがをするおそれがあります。

注意

バックアップについて
HDD 装置のデータなどの重要な内容は必ず補助記憶装置にバックアップを取ってください。HDD 装置が壊れると、データなどがすべてなくなります。

モジュラーケーブルについて
モジュラーケーブルは、2 線式をご使用ください。故障の原因になります。2 線式以外のケーブルの使用により発生した不具合については保証いたしません。

ディスクの取り扱いについて
割れたり変形したディスクをドライブに入れないでください。ドライブの故障の原因になります。

その他のご注意

⚠注意

アルミ電解コンデンサーについて
このパソコンやACアダプターに使用されているアルミ電解コンデンサーは有寿命部品です。設計寿命は、1 日に 8 時間、1ヶ月で 25 日間使用で約 5 年です。寿命になると、電解液の漏れや枯渇が生じます。特に AC アダプターでの電解液の漏れは、発煙の原因になることがあります。これらの危険を避けるために、設計寿命を超えて使用する場合は、有寿命部品単位で交換してください。また、業務用など昼夜連続運転相当では 5 年より寿命は短くなります。

注意

パソコンの廃棄
本製品を廃棄する場合は、適切なリサイクル処理をお願いします。「資源の有効な利用の促進に関する法律(通称:リサイクル法)」にもとづき、パソコン製造事業者である弊社は、お客さまのご依頼にもとづく事業者（法人所有）向けのパソコンの回収リサイクルサービスと、ご家庭（個人所有）向けの回収リサイクルサービスを提供しています。当該サービスでは回収リサイクルの効果を向上させるなど、法律の趣旨に的確に対応していますので、ご利用ください。

電波障害について
ほかのエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、次のようにしてください。

・テレビやラジオなどからできるだけ離す。
・テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える。
・コンセントを別にする。

バッテリーパックの廃棄
使用済みのバッテリーパックは、希少資源の有効利用のために、端子または接続コードにテープをはるなどの処置をしてから、充電式電池リサイクル協力店に持参していただくか、お問い合わせ先へ処分方法をお問い合わせください。

1章　マニュアルやヘルプを使おう

この章では、このパソコンの電子マニュアルの使い方について説明します。
パソコンとWindowsの使い方について、もっと詳しく知りたいときにお読みください。

付属マニュアルの使い方

主なマニュアル

このパソコンには、紙のマニュアルと、画面で読む電子マニュアルがあります。

・ パソコンを接続してから、電源を入れてパソコンを動かすまでを説明しています。
　パソコンを購入時の状態に戻す方法などが含まれています。
・ HDD リカバリーモデルには添付されません。

電子マニュアル

・ 周辺機器の取り付け方やパソコンの使いこなし方などが含まれています。
・ 必要に応じて、操作前に該当ページを印刷してください。

その他のマニュアル

その他の電子マニュアル

次の電子マニュアルを付属しています。必要に応じてお読みください。

● BIOS 一覧
●インタフェース仕様一覧
●トラブル対応集
●内蔵モデム取扱説明書
● Security Chip 取扱説明書

ヒント

・ 『トラブル対応集』は、c:¥hitachi¥manual¥other フォルダーからご参照ください。
・ 上記フォルダーは、電子マニュアルをインストールしないと参照できません。

電子マニュアルを使う

電子マニュアルでパソコンの使い方などを調べましょう。
電子マニュアルは、『FLORA 活用百科』（本書）などがあります。

ヒント

・ ご購入時の選択により、HDD リカバリーモデルでは『活用百科』CD が同梱されておりません。HDD リカバリーモデルの場合、HDD のリカバリー領域から、お客様ご自身で『活用百科』CD を作成できます。

参照

・ 『活用百科』CD の作成→「『活用百科』CD を作成する」(P.70)

電子マニュアルを開く

電子マニュアルをインストールし、開きましょう。

1 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用百科』CD を CD/DVD ドライブに入れる。HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。**

2 **［スタート］ボタン－［ファイル名を指定して実行］をクリックする。**

[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3 **「名前」に e:¥manual¥install と入力して、[OK] ボタンをクリックする。**

電子マニュアルがインストールされ、デスクトップに [電子マニュアル] アイコンが表示される。

＊ HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
　CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

4 **[電子マニュアル] アイコンをダブルクリックする。**

[電子マニュアル] が表示される。

ヒント

・ 電子マニュアルを CD-ROM から直接読むときは、『活用百科』CD を CD/DVD ドライブに入れ、[manual] フォルダーの電子マニュアル .pdf をダブルクリックします。一部のマニュアルについては、電子マニュアルをインストールしないと参照できないものもあります。

5 **読みたいマニュアルをクリックする。**

選択した電子マニュアルが表示される。

6 **参照先のページを開くときは、参照 部分などで、マウスポインターが指差しアイコンに変わったところをクリックする。**

電子マニュアルを閉じるときは、画面右上の [×] ボタンをクリックする。

知りたいことをマニュアルから探す

電子マニュアルの中から、パソコンについて知りたいことを検索機能を使って探し出せます。

1. **電子マニュアル『FLORA 活用百科』を開く。**

2. **[検索] ボタンをクリックする。**

   検索する場所や、検索する語句を入力する画面が表示される。

3. **検索するキーワードを入力し、[検索] ボタンをクリックする。**

   検索結果が表示される。

4. **検索結果をクリックする。**

   検索されたページが表示される。

わからないときは、ヘルプで！

Windows の使い方がわからないときは、ヘルプを使って調べましょう。
ヘルプを使うと、調べたい内容を目次から探したり、思いつく言葉で調べることができます。
ヘルプでの調べ方には、次の方法があります。

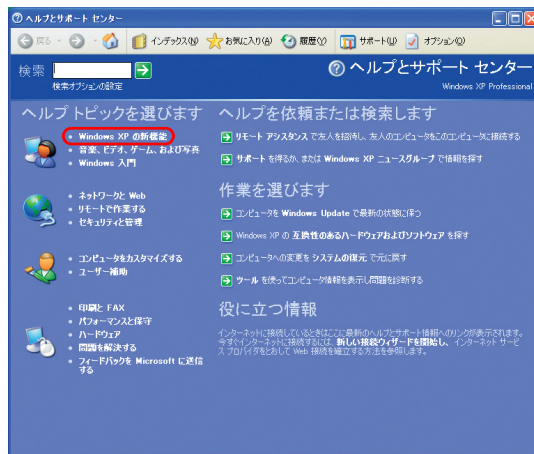
・項目から調べる
・指定した用語から調べる
・操作画面の項目の意味を調べる

項目から調べる

わからないことをヘルプから調べましょう。

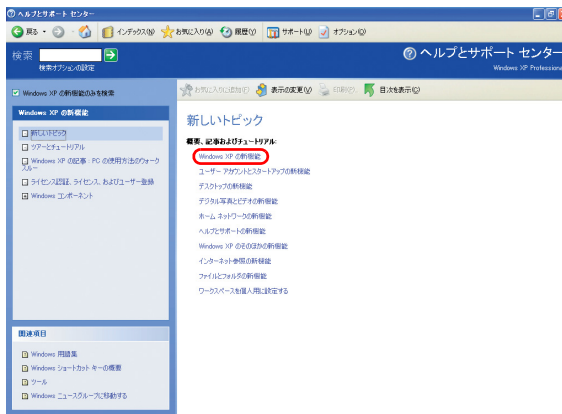
1 **［スタート］ボタンをクリックし、［ヘルプとサポート］をクリックする。**

［ヘルプとサポートセンター］が表示される。

2 **調べたい内容を、項目から選ぶ。**
ここでは、Windows XP の新機能について調べるため、[Windows XP の新機能]をクリックする。

画面が切り替わる。

3 「Windows XP の新機能」の［新しいトピック］をクリックする。

画面が切り替わる。

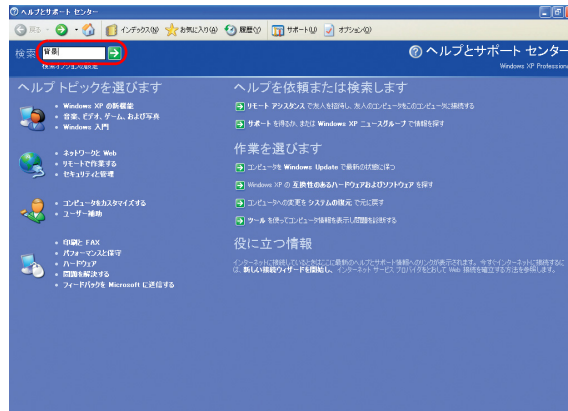
4 「新しいトピック」の［Windows XP の新機能］をクリックする。

画面が切り替わり、説明が表示される。

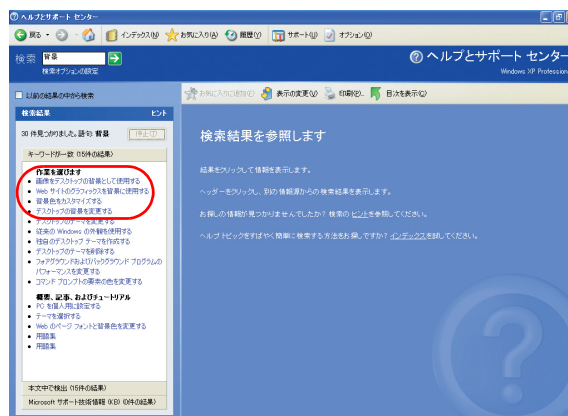
5 説明を読む。

指定した用語から調べる

わからないことを、指定した用語のあるページから調べましょう。

1　**［スタート］ボタンをクリックし、［ヘルプとサポート］をクリックする。**

2　**［検索］欄に調べたい用語を入力し、➡ボタンをクリックする。**

関連する項目が表示される。

3　**調べたい項目をクリックする。**

画面が切り替わり、説明が表示される。

4 **説明を読む。**

操作画面の項目の意味を調べる

いろいろな設定などを行う画面で、わからない項目の意味を調べてみましょう。
例として、[画面のプロパティ] 画面を説明します。

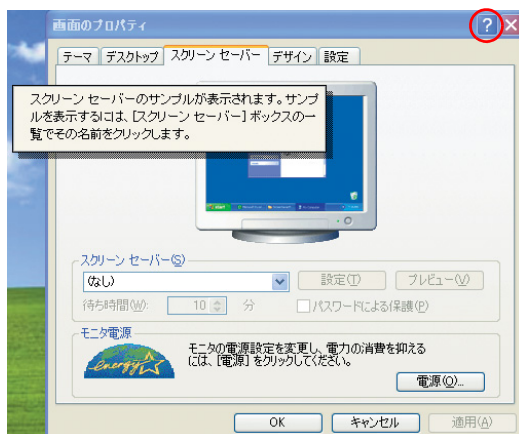
参照

・ ［画面のプロパティ］の表示方法→「ディスプレイの表示を変える」(P.146)

1 **画面右上の [?] をクリックする。**

マウスポインタの形が に変わる。

2 **調べたい項目をクリックする。**

説明のポップアップが表示される。

作業の流れをつかんでおこう

はじめてパソコンを使うときは

購入後、箱を開けてからはじめてパソコンの電源を入れるまでには、いくつかのステップがあります。

同棚品を確認する

付属の同梱品一覧

箱の中に入っている同梱品がすべてそろっていることを確認します。

接続して電源を入れる

「3章 パソコンを接続しよう」

パソコンを正しく使うために、パソコンを使うときに適した場所や姿勢を知っておきましょう。そのあとパソコンを動作させるために接続して電源を入れます。

使用許諾契約に同意する

4章の「はじめて電源を入れるときは」

電源を入れて、Windowsを使えるようにします。

電源を入れ直す

4章の「電源を入れ直す」

電源を入れ直して、デスクトップ画面が表示されるか確認します。Windowsの操作はデスクトップ画面から始めます。

これだけは覚えておこう

「1章 マニュアルやヘルプを使おう」

電子マニュアルの使い方やWindowsのヘルプの使い方を読んでおきましょう。

「2章 各部の名前と働きを知ろう」

パソコン各部の名前と、ディスクドライブの使い方を読んでおきましょう。

トラブルが発生したときは

次の順で対処してください。

●「13 章　トラブルを解決するには」
電源が入らない、ディスプレイに表示されない、マウスが動かないなどの対処方法を説明しています。

●「5 章　ご購入時の状態に戻すには」
パソコンを購入時の状態に戻す方法を説明しています。

パソコンに何かを取り付けるときは

●「6 章　パソコンに機器を接続する」
パソコンの外部に周辺機器を取り付ける方法を説明しています。

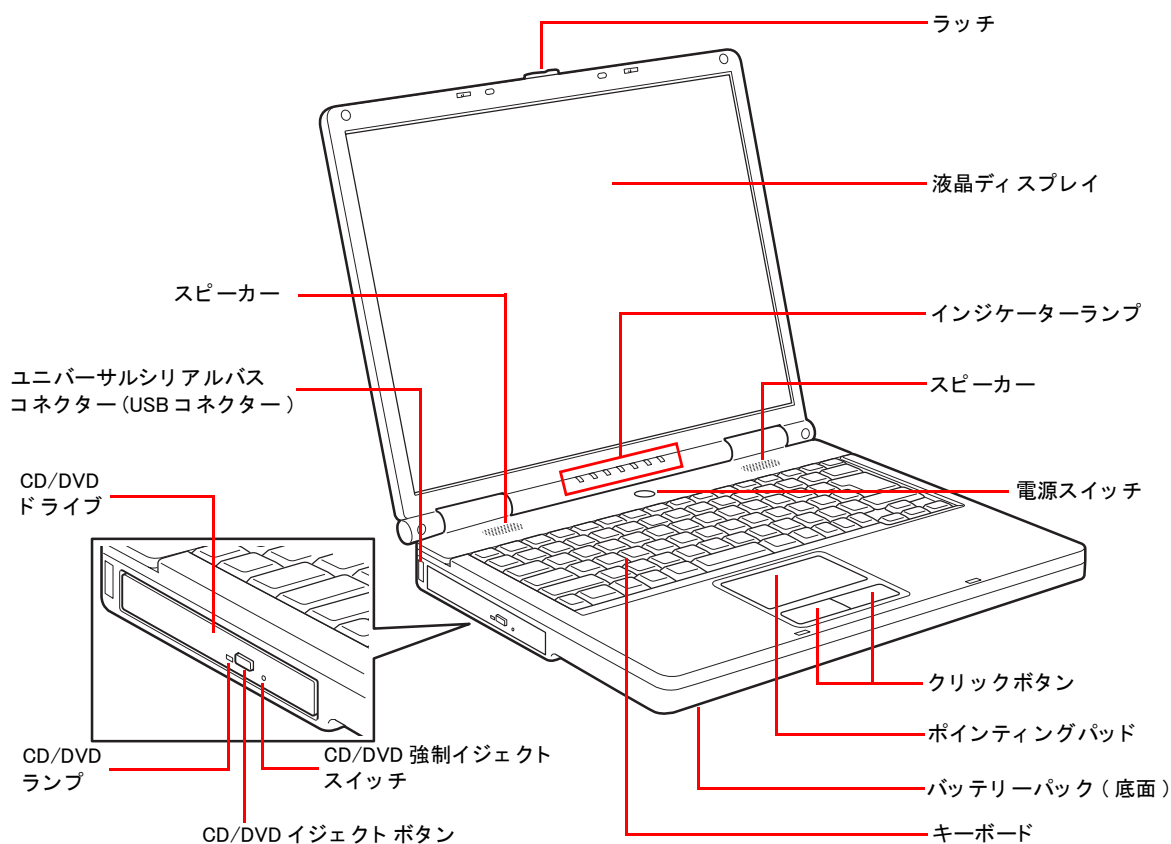
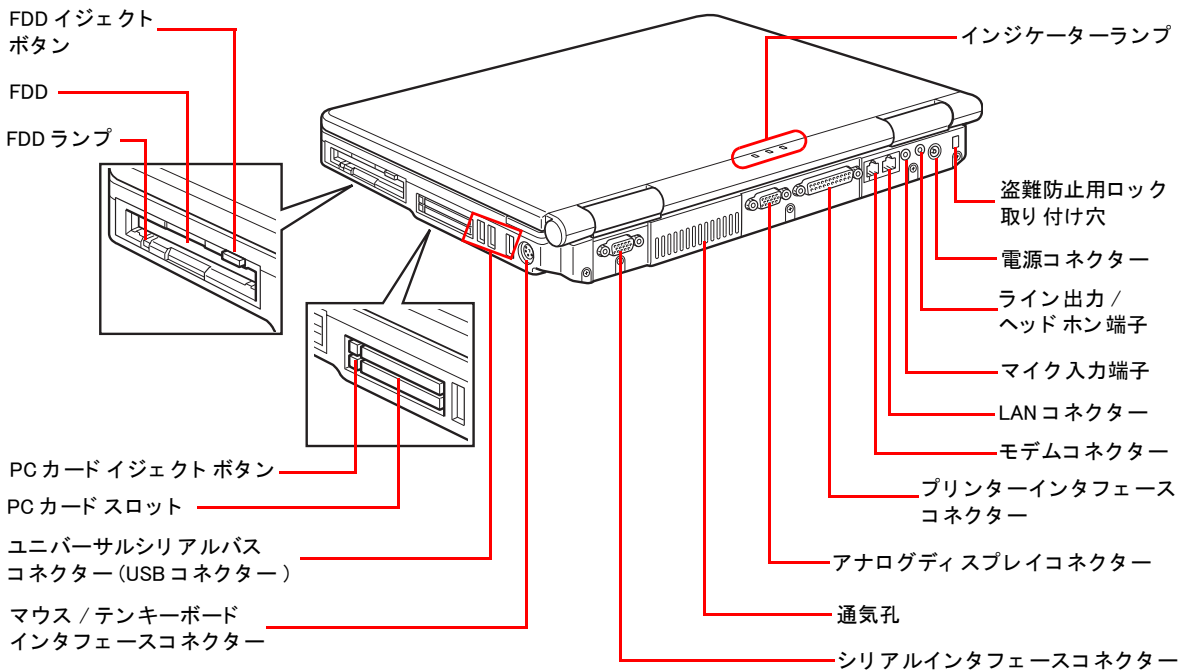
●「7 章　パソコンを拡張するときは」
パソコンの内部にメモリーボードなどを取り付ける方法を説明しています。

2 章　各部の名前と働きを知ろう

この章では、パソコン各部の名前について説明します。

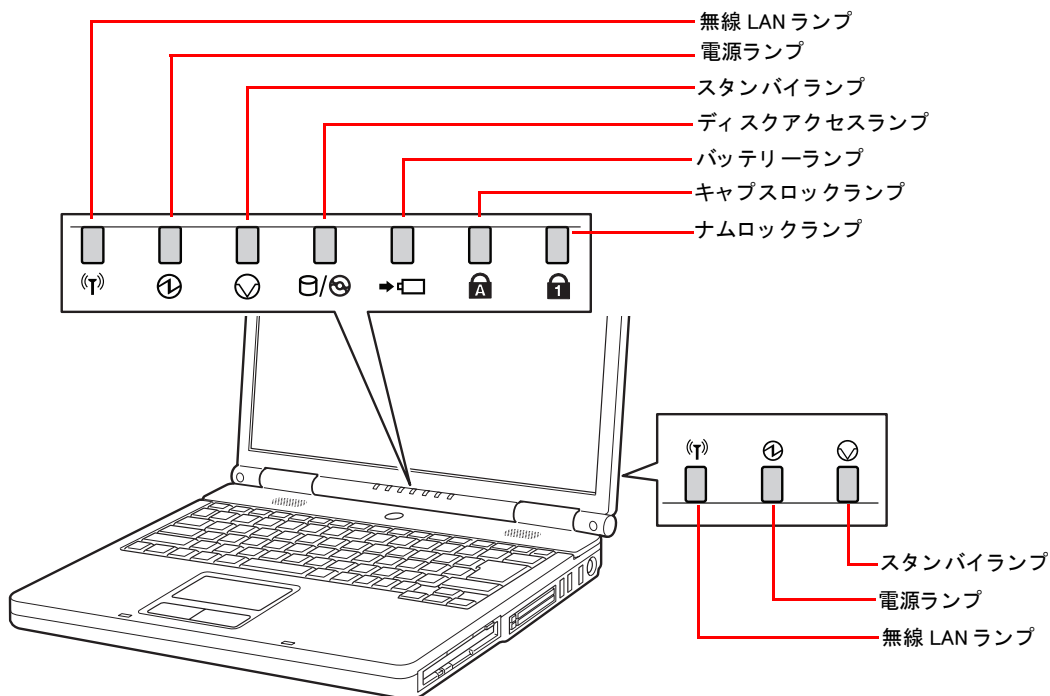
パソコンと付属品の名前を知ろう

パソコンの各部の名称を覚えてください。

パソコン正面・左側面

パソコン背面・右側面

重要

- モデムの有無は、ご購入時の選択により異なります。
- モデムを内蔵していないモデルでは、モデムコネクターは見えていますが使用できません。

インジケーターランプの見方

それぞれのランプの表示によって、パソコンの状態がわかります。

無線 LAN ランプ

無線 LAN ランプの状態で、パソコンの状態がわかります。

無線 LAN ランプ	パソコンの状態
点灯	内蔵無線 LAN　ON
消灯	内蔵無線 LAN　OFF

重要

- 内蔵無線 LAN の ON/OFF の切り替えは、[Fn] + [F2] キーで行います。
- 内蔵無線 LAN の有無は、ご購入時の選択により異なります。
- 無線 LAN を内蔵していないモデルでは、点灯しません。

電源ランプ

電源ランプの状態で、パソコンの状態がわかります。

電源ランプ	パソコンの状態
点灯	パソコン電源 ON 状態
消灯	パソコン電源 OFF 状態、スタンバイ状態

スタンバイランプ

スタンバイランプの状態で、パソコンの状態がわかります。

スタンバイランプ	パソコンの状態
点灯	スタンバイ状態

ディスクアクセスランプ

ディスクアクセスランプの状態で、パソコンの状態がわかります。

ディスクアクセスランプ	パソコンの状態
点灯	HDD、CD/DVD ドライブのデータを読み書きしている

重要

・ ディスクアクセスランプの点灯中は、電源を切ったり、CD/DVD などのディスクの出し入れをしないでください。ドライブやディスクが壊れることがあります。

バッテリーランプ

バッテリーランプの状態で、パソコンの状態がわかります。

バッテリーランプ	パソコンの状態
点灯	バッテリーパック充電中
点滅	バッテリーの残量が少ない状態
消灯	充電していない状態、満充電状態

キャプスロックランプ

[Shift] キーを押しながら [Caps Lock] キーを押すと、切り替えられます。

キャプスロックランプ	パソコンの状態
点灯	大文字のアルファベットが入力可能
消灯	小文字のアルファベットが入力可能

参照

・ 入力について→「文字を入力する」(P.144)

ナムロックランプ

[Fn] キーを押しながら [Insert] キーを押すと、切り替えられます。

ナムロックランプ	パソコンの状態
点灯	キーボードの青色の数字が入力できる

参照

・ 入力について→「文字を入力する」(P.144)

ホットキーの使い方

[Fn] キーとファンクションキーまたは方向キーを組み合わせて押すと、一時的に設定を切り替えるキーをホットキーといいます。

ヒント

・ キーによっては、端の方を押すと入力されないことがあります。キーの中心を押して入力してください。

重要

・ 通信中にホットキーを押さないでください。正しく通信できないことがあります。

■ [Fn] ＋ [F2]

内蔵無線 LAN の ON/OFF を切り替えます。
内蔵無線 LAN が使用できるときは、無線 LAN ランプが点灯します。

重要

・ 内蔵無線 LAN の有無は、ご購入時の選択により異なります。
・ 無線 LAN を内蔵していないモデルは、使用できません。

■ [Fn] ＋ [F3]

スピーカーの音を消します。もう一度押すと音量が元に戻ります。

■ [Fn] ＋ [F4]

スタンバイ状態になり、作業を中断できます。

重要

・ [Fn] ＋ [F4] キーは連続して押さないでください。正しく動作しないことがあります。

■ [Fn] ＋ [F5]

スピーカーの音量を下げるときに使います。

ヒント

・ 音量を下げると、バッテリーの消費が少なくなります。

■ [Fn] ＋ [F6]

スピーカーの音量を上げるときに使います。

ヒント

・ 音量を上げると、バッテリーの消費が多くなります。

■ [Fn] ＋ [F7]

外付けディスプレイを接続しているときに、表示させるディスプレイを切り替えます。押すたびに、「内蔵、外付けディスプレイ同時表示」、「外付けディスプレイのみ表示」、「内蔵ディスプレイのみ表示」に切り替わります。

重要

・ 外付けディスプレイによっては、内蔵ディスプレイと同時に表示できないものがあります。このときは外付けディスプレイのみに表示してご使用ください。
・ キーはゆっくり確実に押してください。切り替わらなかったときはもう一度押してください。

■ [Fn] ＋ [F8]

液晶ディスプレイの明るさを暗くするときに使います。

ヒント

・ 画面の明るさを暗くすると、バッテリーの消費が少なくなります。

■ [Fn] ＋ [F9]

液晶ディスプレイの明るさを明るくするときに使います。

ヒント

・ 画面の明るさを明るくすると、バッテリーの消費が多くなります。

■ [Fn] ＋ [F12]

ポインティングパッドを使わないときに、ポインティングパッドの機能を無効にします。
または、ポインティングパッドの機能を再び有効にします。

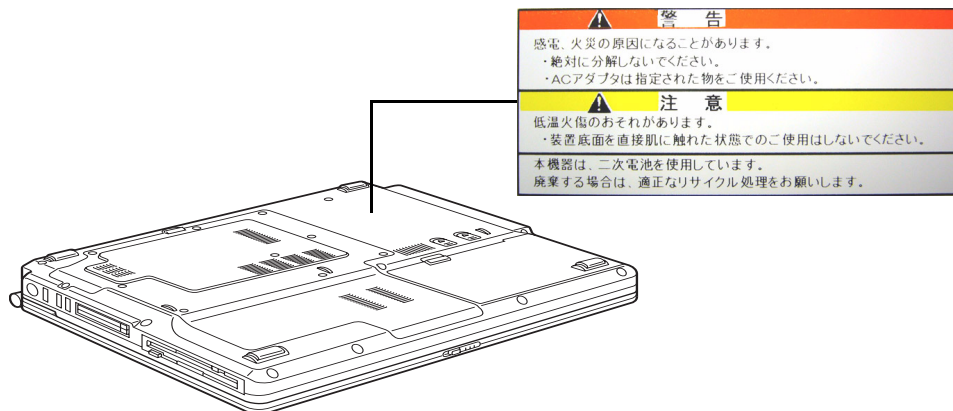
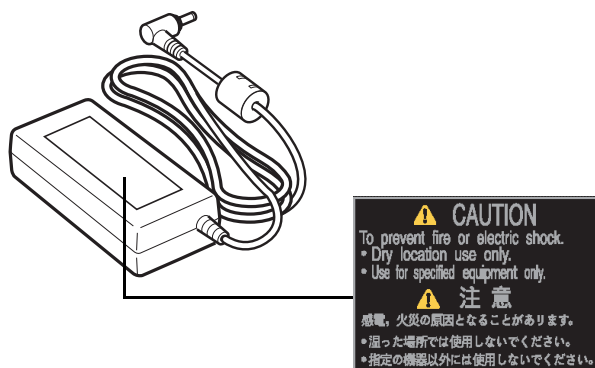
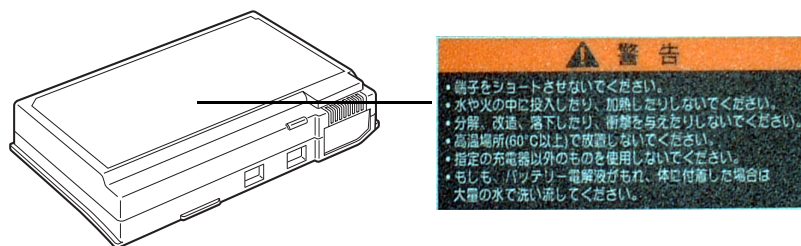
ヒント

・ USB マウスを接続しているときは、自動的にポインティングパッドが無効になります。このときは、[Fn] ＋ [F12] キーを押しても有効にできません。有効にしたい場合は、マウスのプロパティーの設定を行ってください。
・ PS/2 マウスを接続しているときは、自動的にポインティングパッドが無効になります。このときは、[Fn] ＋ [F12] キーを押しても有効にできません。
・ ポインティングパッドの機能を無効にしていても、スタンバイ、休止状態からの復帰後は、再び有効になります。

参照

・ マウスのプロパティーの設定→「USB マウスとポインティングパッドを同時に使用する」(P.141)

警告ラベル

■ パソコン

■ AC アダプター

■ バッテリーパック

3 章　パソコンを接続しよう

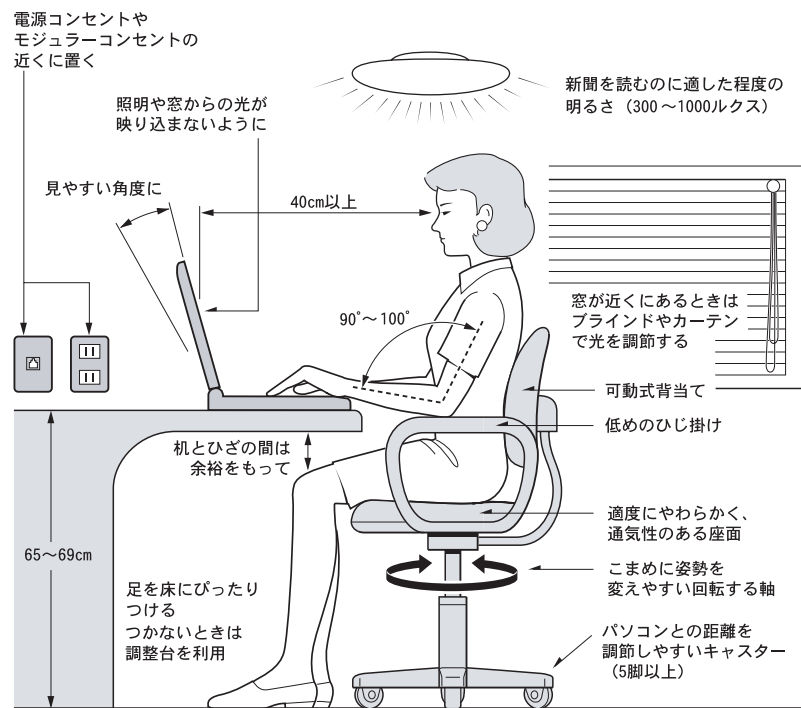
この章では、パソコンの設置、接続方法、電源の入れ方について説明します。

接続しよう

まず『同梱品チェックリスト』で、すべての付属品がそろっていることを確認します。

次に、パソコンの置き場所を決めて、接続しましょう。

置き場所や姿勢について

パソコンを使う場所によっては、パソコンに思わぬトラブルを起こす可能性があります。パソコンを正しく使うために、パソコンを使うときに適した場所と姿勢について知っておきましょう。

参照：日本人間工学会 ノートパソコン利用の人間工学ガイドライン（1998 年 労働科学研究所発行）

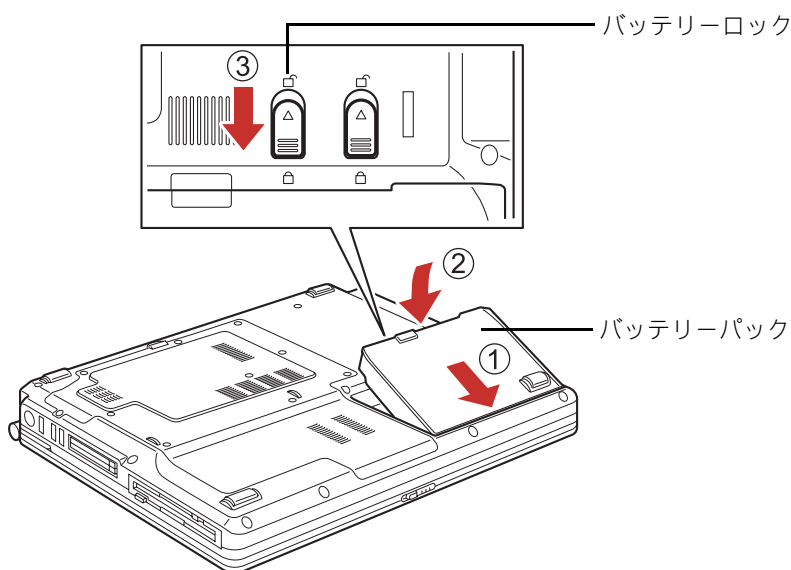
・パソコンのディスプレイは、体の正面に設置し、見やすい角度に調節する。
・ディスプレイの照度、明るさと周囲の照明を適度に調節し、ディスプレイの反射を抑える。
・明るさやコントラストなど見やすいように調節する。
・キーボードやマウスを使うときは、手首とひじは水平になるような位置を保つ。
・パソコンの作業時間は、１日に最大６時間を目安とし、１時間ごとに 10 ～ 15 分の休息をとる。
・キーボードは本などで使いやすい角度に調節する。
・周辺機器を接続しても余裕のある、十分な作業空間を確保する。
・不自然な姿勢を避け、ときどき姿勢を変える。

⚠ 警告

- 浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所の近傍、湿気の多い地下室、水泳プールの近傍やほこりの多い場所では使用しないでください。電気絶縁の低下によって火災や感電の原因になります。
- 油煙やほこりの多い場所で使用した場合、本体内部にほこりが溜まることによって精密部品の冷却を妨げ、故障ややけどの原因になります。
- 本体底面がふさがれるような布、じゅうたんなどの上には置かないでください。本体内部への通気が損なわれ、発煙、発火ややけどの原因になります。
- 傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがをするおそれがあります。

パソコンを接続しよう

1　パソコンを裏返し、バッテリーパックのツメの部分を差し込む。（①）

2　バッテリーパックを「カチッ」と音がするまで差し込み（②）、バッテリーロックを矢印方向へスライドする。（③）

⚠ 警告

- AC アダプター、バッテリーパックは本パソコン専用のものを使用してください。本パソコン専用のもの以外を使用すると、電圧、最大出力電流、および＋－の極性が異なっていることがあるため、火災の原因になります。

参照

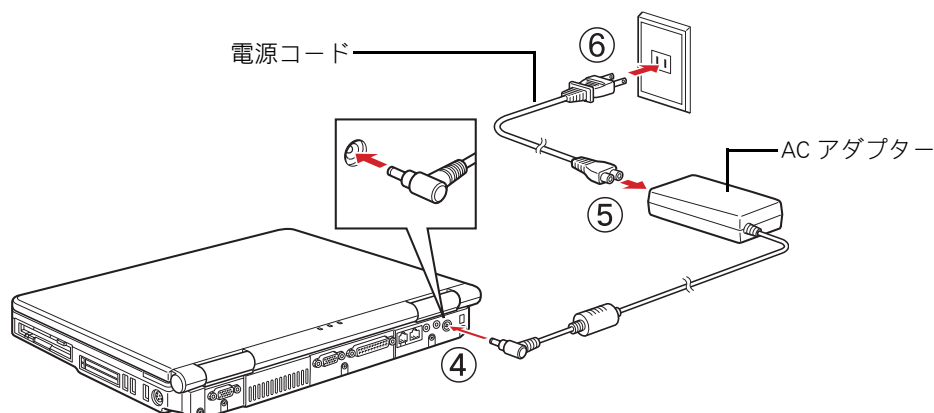
- バッテリーパックの使い方→「バッテリーを使う」（P.84）

ヒント

- パソコンは、バッテリーパックを取り付けなくても AC アダプターだけで動かせますが、内部へのほこりなどの侵入防止のため、バッテリーパックを取り付けて使用することをお勧めします。
- バッテリーパックを取り付けていないと、ディスプレイを後ろに倒したときに、パソコンが倒れることがあります。

3　AC アダプターを、パソコンの電源コネクターに差し込む。（④）

4 **電源コードを、AC アダプターに差し込む。(⑤)**

5 **電源コードのプラグを、コンセントに差し込む。(⑥)**

⚠ 警告

・ 同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。コードやコンセントが過熱し、火災の原因になります。また、電力の使用量がオーバーとなり、ブレーカーが落ちてほかの機器にも影響を及ぼします。

マウスで操作したい方は

マウスを使って操作したい方は、マウスをパソコンに接続しましょう。

1 **USB マウスを使う場合、マウスのコネクターをパソコンのユニバーサルシリアルバスコネクター(USB コネクター)に差し込む。**
PS/2 マウスを使う場合、マウスのコネクターをパソコンのマウス / テンキーボードインタフェースコネクターに差し込む。

重要

・ PS/2 マウスを接続すると、ポインティングパッドは使用できません。
・ USB マウスを接続すると、ポインティングパッドは使用できません。同時に使用したい場合は、[マウスのプロパティ] で設定を行ってください。
・ パソコンが立ち上がっていても、ユーザーがログオンしていない状態では、USB マウスを接続した状態でもポインティングパッド機能は有効になっています。無効にできるのはログオンしている状態の場合です。

ヒント

・ パソコンを操作するときは、ポインティングパッドを使う方法と、マウスを使う方法の 2 通りがあります。パソコンを置く位置に、パソコンの大きさの 3 倍以上の広いスペースがあるときは、マウスを使って操作すると便利です。
・ PS/2 マウスを使用される場合は、ホイールマウスドライバーをインストールすることをお勧めします。
・ USB コネクターは、4 つあります。いずれに接続しても動作は同じです。

参照

・ マウスのプロパティーの設定→「USB マウスとポインティングパッドを同時に使用する」(P.141)
・ ホイールマウスドライバーのセットアップについて→「ホイールマウスドライバー」(P.188)
・ USB コネクター、マウス / テンキーボードインタフェースコネクターの位置→「パソコン正面･左側面」(P.38)、「パソコン背面･右側面」(P.39)

ほかの周辺機器を使うときは

ほかの周辺機器を使うときは、「6 章　パソコンに機器を接続する」を参照して接続してください。設定などの詳しい説明は、周辺機器のマニュアルをご参照ください。

●ヘッドホン、マイクの接続について
　→「ヘッドホン、マイクを接続する」(P.98)
● USB に対応した機器の接続について
　→「USB 機器を接続する」(P.100)
●上記以外の周辺機器の接続について
　→「その他の周辺機器を接続する」(P.107)

電源を入れよう

ここまででパソコンの電源を入れる準備ができました。
次に、電源を入れて Windows を使えるようにします。

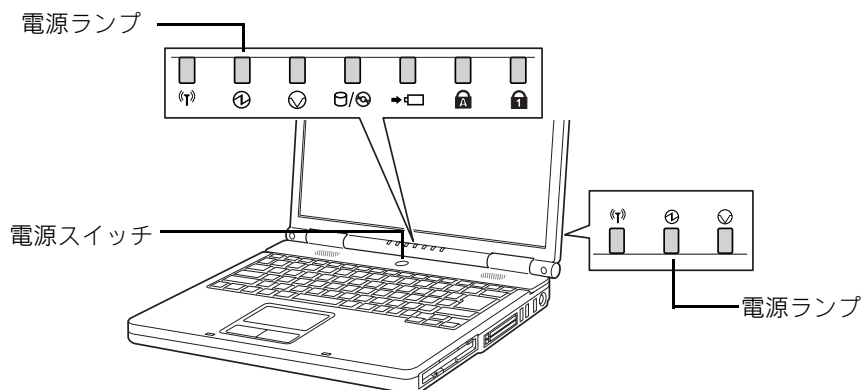
ヒント

・ 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてからパソコンの電源を入れてください。電源を切るときには、パソコンの電源を切ってから周辺機器の電源を切ってください。

参照

・ 電源の切り方について→「電源を切る」(P.56)

1 ラッチをスライドさせて、液晶ディスプレイを開く。

2 電源スイッチを押す。

電源ランプが点灯し、ディスプレイに画面が表示される。

はじめて電源を入れたときは、Windows の設定が必要です。引き続き、「4 章　Windows を立ち上げよう」(P.51) をお読みください。

4 章　Windows を立ち上げよう

はじめてパソコンの電源を入れるときの操作について説明します。

はじめて電源を入れるときは

はじめてパソコンの電源を入れるときは、Windows の使用許諾契約に同意して、Windows を使えるようにする必要があります。

電源を入れる

パソコンの電源スイッチを押すと、ディスプレイに［Windows XP Professional セットアップ］画面が表示されます。

重要

・ はじめて電源を入れるときは、セットアップが完了するまで、パソコンを長時間放置しないでください。

参照

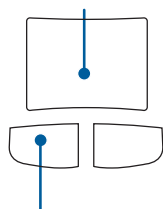
・ 電源の入れ方について→「電源を入れよう」(P.50)

使用許諾契約に同意しよう

1 **[Windows XP Professional セットアップ] 画面で、マウスポインターを [次へ] ボタンに重ね、クリックする。**

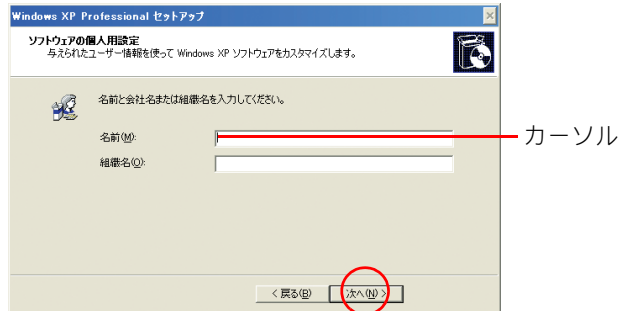
[使用許諾契約] 画面が表示される。

ヒント

・ 画面に表示されている を、「マウスポインター」と呼びます。
・ パソコンのこの場所を使って操作します。

・ クリックボタンを 1 回押すことを、「クリック」といいます。

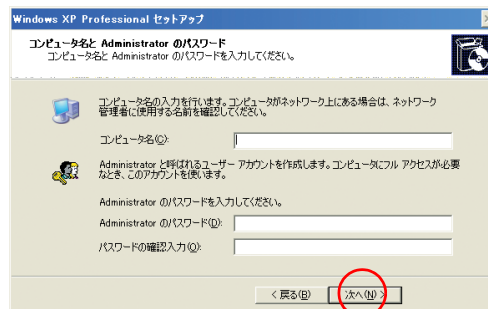
2 **[同意します] ボタンをクリックして、[次へ] ボタンをクリックする。**

[ソフトウェアの個人用設定] の入力画面が表示される。

3　**名前を入力する。必要に応じて [Tab] キーで [組織名] へカーソルを移動し、組織名を入力する。組織名は省略してもよい。**
[次へ] ボタンをクリックする。

[コンピュータ名と Administrator のパスワード] の入力画面が表示される。

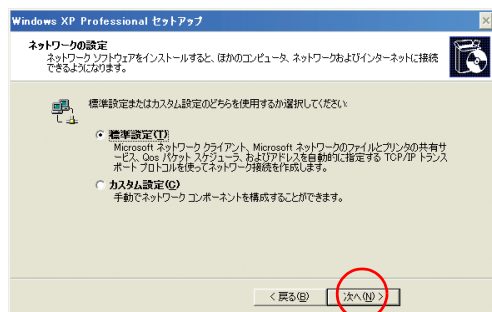
ヒント

- 日本語を入力するには
  1. [半角 / 全角] キーを押し、日本語入力にする
  2. ローマ字で読みがなを入力する
  3. 目的の漢字になるまでスペースキーを押す
  4. [Enter] キーで確定する

4　**コンピュータ名を入力する。コンピュータ名はネットワークのほかのコンピュータ名、ドメイン名、ワークグループ名と異なる名称にする。**
必要に応じてパスワードを入力し、[次へ] ボタンをクリックする。

[ネットワークの設定] 画面が表示される。

ヒント

- コンピュータ名は初期設定後でも変更できます。

5 **標準のネットワークコンポーネントをインストールする場合は［標準設定］を選択したあと、［次へ］ボタンをクリックする。標準ネットワークコンポーネントの設定を変更する場合やネットワークコンポーネントの追加／削除を行う場合は［カスタム設定］を選択したあと、［次へ］ボタンをクリックする。**

ヒント

・［標準設定］を選択した場合、ネットワークの設定は自動で行われます。
・標準で次のネットワークコンポーネントをインストールします。
＊ Microsoft ネットワーク用クライアント
＊ Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有
＊インターネット プロトコル (TCP/IP)

6 **［カスタム設定］を選択した場合、ネットワークの設定を手動で行う。**

［ネットワークの設定］画面の設定終了後、［ワークグループまたはドメイン名］画面が表示される。

ヒント

・ネットワークコンポーネントのカスタム設定は画面の指示に従って行ってください。

7 **ドメインまたはワークグループへの参加の選択を行い、参加する先のドメイン名またはワークグループ名をテキストボックスに入力する。**

[Windows XP セットアップウィザードの完了］画面が表示される。

8 **［完了］ボタンをクリックする。**

パソコンが立ち上げ直され、ネットワーク識別ウィザードの画面が表示される。

9 **［次へ］ボタンをクリックする。**

10 **Windows のログオン時に、常にユーザー名およびパスワードの入力を行うのかどうかを選択する。**

11 **［次へ］ボタンをクリックする。**

12 **［完了］ボタンをクリックする。**

13 **自動または手動で Windows にログオンする。**

14 **15 型 SXGA+ モデルは解像度を設定し直す。**

ヒント

・　15型SXGA+モデルの場合、初期設定は1024 × 768ですが、1400 × 1050が推奨設定値です。
推奨設定値より低い解像度で表示する場合、表示文字がにじむように見えますが、故障ではありません。

参照

・　画面の領域を設定する→「ディスプレイの表示を変える」(P.146)

電源を入れ直す

Windows の使用許諾契約などが終わったら、電源を切ります。そのあと、もう一度電源を入れて、デスクトップ画面が表示されることを確認します。

重要

・ 電源スイッチを 4 秒以上押さないでください。Windows が強制終了されます。その場合、異常終了と判断され、次回立ち上げ時にチェックプログラムが動くことがあります。異常がない場合は、そのあと正常に Windows が立ち上がります。

ヒント

・ 電源スイッチを 4 秒未満押しても、手順 1 ～ 3 の操作と同じように電源は正しく切れます。
・ 工場出荷時の設定では、15 分以上電源を入れた状態で放置すると節電状態になり、画面の表示が消えます。20 分以上たつと、キーボードやマウスを操作しても復帰しなくなります。このときは、電源スイッチを押すと復帰します。

電源を切る

電源を切る操作はとても大切です。電源は、この操作で切ってください。

1 **[スタート] ボタンをクリックする。**

2 **[終了オプション] をクリックする。**

[コンピュータの電源を切る] 画面が表示される。

3 **[電源を切る] ボタンをクリックする。**

しばらくするとパソコンの電源が切れ、電源ランプが消える。

電源を入れ直す

重要

・ パソコンの立ち上げ時にキーボードを連打したり、押し続けないでください。エラーメッセージが表示される場合があります。

ヒント

・ Windows のスタート画面が消えたあと、カーソルが表示された黒い画面の状態が続きます。デスクトップ画面が表示されるまで、しばらくお待ちください。ディスプレイの種類によって、時間がかかる場合もあります。

1 **パソコンの電源スイッチを押す。**

[ようこそ] 画面が表示される。

2 **ログオンするユーザーのアイコンをクリックする。**
パスワードが必要な場合は、パスワードを入力して [→] ボタンをクリックする。

Windows が立ち上がり、デスクトップ画面が表示される。

追加セットアップ

次の機能を使う場合は、追加セットアップを行います。
ご購入時の選択をご確認の上、必要なソフトウェアを追加セットアップしてください。

■ 3 モード FD

・3 モード FD ドライバー

■ CD-R/RW 書き込み (DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、または DVD スーパーマルチドライブ内蔵パソコンの場合)

・B's Recorder GOLD8 BASIC for HITACHI

■ DVD ± R/RW 書き込み (DVD スーパーマルチドライブ内蔵パソコンの場合)

・B's Recorder GOLD8 BASIC for HITACHI

■ DVD Video 再生 (DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、または DVD スーパーマルチドライブ内蔵パソコンの場合)

・PowerDVD 6

■ DVD-RAM 書き込み (DVD スーパーマルチドライブ内蔵パソコンの場合)

・DVD-RAM ドライバー / フォーマットユーティリティー

■ Security Chip

・Security Chip ユーティリティー

参照

・ ソフトウェアの使い方、追加セットアップについて→「12 章　付属ソフトウェアについて」(P.181)
・ Security Chip の使い方→「Security Chip を使う」(P.168)

5 章　ご購入時の状態に戻すには

パソコンをご購入時の状態に戻したいときは、パソコンをセットアップし直します。
パソコンの使用中にエラーが何回も発生したり、パソコンが立ち上がらないときも、
セットアップし直してください。

準備する

次の準備を行ってください。

必要なファイルをバックアップする

ご購入時の状態に戻すと、ご購入後に作成したファイルや追加したアプリケーションなどが削除されます。記録可能なメディアに必要なファイルをコピーしてバックアップを行ってください。バックアップしたファイルを戻せるように元のフォルダーなど保存先も控えてください。

ネットワークなどの設定を控える

ご購入時の状態に戻したあと、同じ環境で使う場合は、BIOS やネットワークの設定情報をメモしてください。

拡張機器を取り外す

拡張機器や PC カードなどを取り付けて使用している場合は、取り外してください。

このあとの作業の流れ

1 BIOS や Security Chip の設定をご購入時の状態に戻す。

BIOS や Security Chip をご購入時の状態に戻してください。

参照

・ 詳細について→「BIOS や Security Chip をご購入時の状態に戻す」（P.61）

2 一括セットアップする。

パソコンの HDD がご購入時の状態に戻ります。さらに、ドライブ C のサイズを変更したり、ドライブ C をご購入時の状態に戻すこともできます。

参照

・ 詳細について→「一括セットアップする」（P.63）

3 アプリケーションをインストールする。

ご購入時の選択により、アプリケーションが添付されている場合はインストールします。

参照

・ 詳細について→「アプリケーションについて」（P.195）

BIOS や Security Chip をご購入時の状態に戻す

一括セットアップを行う前に、次の操作を行ってください。

BIOS の設定をご購入時の状態に戻す (初期化する) ことで解決できる問題もあります。ご購入時の状態から設定を変更している場合は、設定内容をあらかじめ控えておき、BIOS を初期化したあとに設定し直してください。

重要

- BIOS の設定を初期化しても内蔵タイマーの日付と時刻は変更されません。

ヒント

- PC カードを取り付けているときは、取り付けた PC カードをパソコンから取り外してください。外さないと正しく動作しない場合があります。

参照

- PC カードの取り外しについて→「PC カード」(P.101)

1　パソコンの電源を入れ、パソコンの立ち上げ中、画面中央に「HITACHI」と表示されたら、[F2] キーを押す。

BIOS メニューが表示される。

2　[F9] キーを押す。

設定内容を初期化する確認のメッセージが表示される。

3　[Yes] を選び、[Enter] キーを押す。

BIOS メニューに戻る。

4　[F10] キーを押す。

設定内容を保存する確認のメッセージが表示される。

5　[Yes] を選び、[Enter] キーを押す。

設定した内容が保存され、セットアップメニューが終了し、パソコンが立ち上げ直される。

6　Security Chip をご使用の場合、手順 7 に進む。
Security Chip をご使用でない場合、手順 15 に進む。

7　パソコンの立ち上げ中、画面中央に「HITACHI」と表示されたら、[F2] キーを押す。

BIOS メニューが表示される。

8　[←]、[→] キーを押して [Security] を選ぶ。

9　[↑]、[↓] キーを押して [Security Chip Configuration] を選択し、[Enter] キーを押す。

[Security Chip Configuration] 画面が表示される。

10 [Security Platform] の設定値が [Enabled] の場合、手順 13 に進む。[Security Platform] の設定値が [Disabled] の場合、[Enabled] を選択し、[Enter] キーを押す。

11 [F10] キーを押して [Yes] を選択し、[Enter] キーを押す。

設定された内容が保存され、パソコンが立ち上げ直される。

12 もう一度、手順 7 ～ 9 の操作を行う。

13 [↑]、[↓] キーを押して [Clear Security Chip] を選択し、[Enter] キーを押す。

警告メッセージが表示される。

14 [Continue] を選択し、[Enter] キーを押す。

Security Chip がクリアされ、パソコンが立ち上げ直される。

15 ご購入モデルに合わせて、一括セットアップを行う。

参照

・ 詳細について→「ご購入モデルと一括セットアップ方法について」(P.63)

一括セットアップする

この作業を行うと、一部のアプリケーションを除いてドライブ C をご購入時の状態に戻します。さらに、ドライブ C のサイズを変更することもできます。

ご購入モデルと一括セットアップ方法について

ご購入されたモデルにより、一括セットアップ方法が異なります。ご購入モデルにあった一括セットアップを行ってください。

モデル名	添付 CD	一括セットアップ方法
HDD リカバリーモデル	なし	HDD を使った一括セットアップ
		HDD 内のリカバリーイメージから『BackUP CD-ROM』を作成し、『BackUP CD-ROM』からの一括セットアップ
CD-ROM リカバリーモデル	『Product Recovery CD-ROM』	添付の CD-ROM を使った一括セットアップ

HDD リカバリーモデルの場合

次の二つの方法があります。

・HDD を使った一括セットアップ

参照

・ HDD を使った一括セットアップについて→「HDD を使った一括セットアップ」(P.64)

・HDD 内のリカバリーイメージから『BuckUP CD-ROM』を作成し、CD-ROM を使った一括セットアップ

参照

・ CD-ROM を使った一括セットアップについて→「CD-ROM を使った一括セットアップ」(P.64)

CD-ROM リカバリーモデルの場合

一括セットアップ方法は「CD-ROM を使った一括セットアップ」のみになります。HDD を使った一括セットアップはできません。

・CD-ROM を使った一括セットアップ

参照

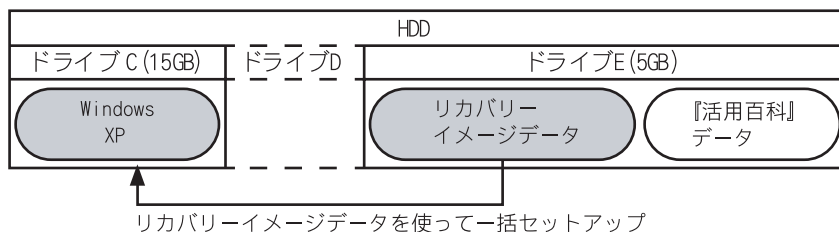
・ CD-ROM を使った一括セットアップについて→「CD-ROM を使った一括セットアップ」(P.64)

一括セットアップの方法

一括セットアップするには、次の方法があります。

HDD を使った一括セットアップ

この方法では、HDD 内の「リカバリーイメージデータ」を使って、一括セットアップを行います。次の特徴があります。

・「CD-ROM を使った一括セットアップ」に比べて作業時間がかからない
・作業時に、CD-ROM などのメディアを必要としない
・作業後もドライブ E の内容は削除されない
・ドライブ E(5GB) 以外は好みの容量でドライブを作成したり、領域の分け方を変更できる

重要

・ CD-ROM リカバリーモデルでは、HDD を使った一括セットアップはできません。同梱の『Product Recovery CD-ROM』から行ってください。
・ 保証期間内でも、HDD の故障などにより HDD を交換した場合には、OS、リカバリーイメージデータ、『活用百科』データを復旧することはできません。
・ HDD リカバリーモデルを複数台ご購入の場合は、最低一台は『BackUP CD-ROM』、『活用百科』CD を作成してください。作成した CD は大切に保管してください。ただし『BackUP CD-ROM』を作成したパソコンは、HDD を使った一括セットアップはできなくなります。
・ ドライブ E を削除したり、ドライブ E 内のファイルの削除・変更を行わないでください。HDD を使った一括セットアップができなくなります。
・ ドライブ E を含む HDD はダイナミックディスクに変換することはできません。

ヒント

・ ドライブ E のボリュームラベルは "HTCRECOVERY" です。

CD-ROM を使った一括セットアップ

この方法では、CD-ROM にあるデータを使って、一括セットアップを行います。
次の特徴があります。

・「HDD を使った一括セットアップ」に比べて作業時間がかかる
・作業時に CD-ROM が必要
・ドライブ E(5GB) を含め、HDD の領域をすべてを利用できる (HDD リカバリーモデルのみ)
　例：HDD の領域をすべてドライブ C(1 パーティション) として使用する
　　　HDD の領域をすべて自由に作成して使用する (ドライブ数を増やす)

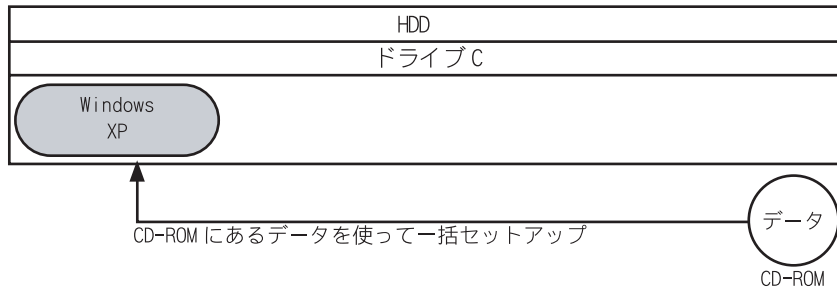
参照

・ パーティションの設定について→ Windows のヘルプ

Windows XP のセットアップは、添付の『Product Recovery CD-ROM』や、ご自分で作成された『BackUP CD-ROM』から一括セットアップします。『BackUP CD-ROM』の作成方法については、「『BackUP CD-ROM』を作成する」(P.65) をご参照ください。

重要

・『Product Recovery CD-ROM』、『BackUP CD-ROM』より、OS の復旧はできますが、リカバリーイメージデータ、『活用百科』データの復旧はできません。

■『Product Recovery CD-ROM』、『BackUP CD-ROM』の場合

HDD の領域をすべて利用したい場合にのみ、この方法を行ってください。

『BackUP CD-ROM』を作成する

ご購入時の選択により、HDD リカバリーモデルをご購入の場合、ドライブ E から『BackUP CD-ROM』を作成することができます。
『BackUP CD-ROM』を使用することで、『Product Recovery CD-ROM』と同様に CD-ROM から一括セットアップを行うことができます。

重要

・『BackUP CD-ROM』は現在の環境をバックアップするものではありません。
・『BackUP CD-ROM』の作成は 1 部だけとなります。これは、パソコンを初めて立ち上げた時に表示される「許諾契約書」に基づくものです。一度『BackUP CD-ROM』を作成されると、再度の作成はできなくなります。『BackUP CD-ROM』作成後は、HDD を使った一括セットアップもできなくなります。ご注意ください。

準備する

『BackUP CD-ROM』を作成する場合、次のものが必要です。

■ CD-R、CD-RW メディア (5 枚)

『BackUP CD-ROM』のメディアです。

重要

・必ず 700MB または 650MB の「CD-R」、「CD-RW」メディアを使用してください。DVD-R/RW メディアでは、『BackUP CD-ROM』を作成できません。

■ CD-R、CD-RW 装置

『BackUP CD-ROM』作成用のデータを CD-R、CD-RW メディアに書き込むために必要です。

ヒント

・ CD-R、CD-RW 装置は、使用しているパソコンに接続されている必要はありません。『BackUP CD-ROM』作成用のデータをネットワークなどで転送し、CD-R、CD-RW 装置の接続されたシステム装置で『BackUP CD-ROM』を作成することができます。

■ CD-R/RW ライティングソフト

『BackUP CD-ROM』作成用のデータを CD-R、CD-RW メディアに書き込むために必要です。
弊社で推奨するライティングソフトは次のとおりです。
・ 株式会社 ビー・エイチ・エー B's Recorder GOLD8 BASIC for HITACHI
・ ロキシオ・ジャパン株式会社 Easy CD&DVD Creator 6
・ 株式会社 アプリックス WinCDR7.0 Ultimate DVD
・ プロジーグループ株式会社 nero6.0

ヒント

・ 各ライティングソフトの使用方法については、製品に付属されているマニュアルをご確認ください。

作成前の注意

『BackUP CD-ROM』の作成中にほかのアプリケーションソフトが立ち上がっていると、CD-R、CD-RW への書き込み中にエラーが発生することがあります。作成を開始する前に、次の操作を行っておくことをお勧めします。
・ スクリーンセーバーが立ち上がらないように設定する
・ 自動的にスタンバイ状態/休止状態にならないように設定する
・ 立ち上がっているアプリケーションをすべて終了する
・ 常駐プログラムをすべて終了する

『BackUP CD-ROM』の作成手順

ドライブ E 内に格納されているリカバリーイメージデータから、『BackUP CD-ROM』用データを作成します。
作成されたデータは、CD-R、CD-RW 装置とライティングソフトを使用して、CD-R、CD-RW メディアに書き込みます。作成手順は次のとおりです。

ヒント

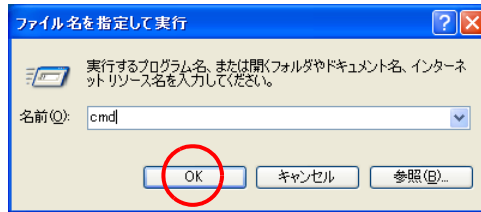
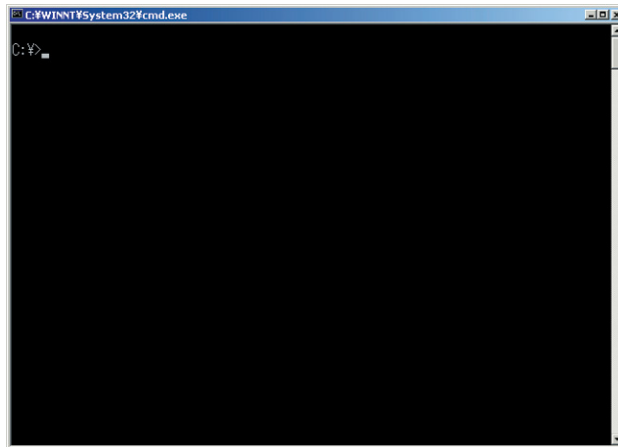
・ 『BackUP CD-ROM』用データは、ISO9660 イメージとして作成されます。

1 **『BackUP CD-ROM』用のデータを保存する場所に十分な空き容量があるか確認する。**

『BackUP CD-ROM』用のデータを保存するには、HDD に 3GB 以上の空き容量が必要です。

2 **[スタート] メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択する。**

[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3 "cmd" と入力し、[OK] ボタンをクリックする。

コマンドプロンプトが表示される。

4 e: と入力し、[Enter] キーを押す。

リカバリーイメージデータが格納されたドライブ E に移動する。

ヒント

・ ご購入時の状態ではドライブ E にリカバリーイメージデータが格納されています。ドライブ E のボリュームラベルは "HTCRECOVERY" となっています。

5 CD ¥HTCRECOV¥BACKUPCD と入力し、[Enter] キーを押す。

『BackUP CD-ROM』 用データを作成するコマンドが格納されているフォルダーに移動する。

重 要

・ コマンドが格納されているフォルダーに移動せずに、絶対パスでコマンドを指定した場合、コマンドは正しく動作しません。

6 次の書式に従い、『BackUP CD-ROM』用のデータを作成するコマンドを入力する。

MKBACKXP [ドライブ：][パス]

[ドライブ：]	『BackUP CD-ROM』作成用のデータを格納するドライブを指定します。
[パス]	『BackUP CD-ROM』作成用のデータを格納するパスを指定します。 スペースを含むパスを指定する場合は [ドライブ：][パス] 全体を二重引用符 ("") で囲む必要があります。

(例) MKBACKXP c:

(例) MKBACKXP c:¥

(例) MKBACKXP c:¥TEMP

(例) MKBACKXP "c:¥Documents and Settings"

コマンドのメニューが表示される。

重 要

・ パスの指定はパソコンに内蔵されている HDD に行ってください。ネットワークドライブを含むパスを指定した場合、『BackUP CD-ROM』用のデータを作成できない場合があります。
・ 『BackUP CD-ROM』用のデータを保存するには、HDD に 3GB 以上の空き容量が必要です。

7 [1] キーを押す。

```
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
＊＊                                                                  ＊＊
＊＊　「BackUP CD-ROM」用のISOイメージを作成します。                   ＊＊
＊＊                                                                  ＊＊
＊＊　作成作業を続行しますか？                                        ＊＊
＊＊                                                                  ＊＊
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
+-------------------------------------------------------------------------+
:  (1) 「BackUP CD-ROM」のISOイメージ作成                                  :
+-------------------------------------------------------------------------+
:  (2) 作成作業の中断                                                      :
+-------------------------------------------------------------------------+
                          選択 (1 / 2) ? :
```

データの作成画面が表示される。

8 画面の指示に従って、『BackUP CD-ROM』用データを作成する。

『BackUP CD-ROM』用データは、5 つのファイルで構成され、その全体を一括して作成することができます。
作成されたデータは、指定したパスに次のファイル名で作成されます。

項目	ファイル名
1 枚目	DISCXP1.ISO
2 枚目	DISCXP2.ISO
3 枚目	DISCXP3.ISO
4 枚目	DISCXP4.ISO
5 枚目	DISCXP5.ISO

『BackUP CD-ROM』用のデータが作成される。(画面は作成中の表示例)

『BackUP CD-ROM』用のデータ作成中は進行状況が表示されます。

9 作成した『BackUP CD-ROM』用データを CD-R、CD-RW に書き込み、『BackUP CD-ROM』を作成する。

重 要

・ 『BackUP CD-ROM』用のデータ「DISC ＊＊＊＊ .iso」をファイルとして CD-R、CD-RW に書き込まないでください。『BackUP CD-ROM』用のデータは、ISO9660 規格に準拠した特殊なファイル、ISO イメージとして保存されています。ISO イメージの書き込み方法は、各ライティングソフトにより異なります。各ソフトに付属のマニュアルまたは、ヘルプをご参照ください。

『活用百科』CD を作成する

ご購入時の選択により、HDD リカバリーモデルをご購入の場合、ドライブ E 内の『活用百科』データを元に、『活用百科』CD を作成することができます。HDD の領域をすべて使用する場合は、事前に『BackUP CD-ROM』と『活用百科』CD を作成してください。

参照

・『BackUP CD-ROM』の作成について→「『BackUP CD-ROM』を作成する」(P.65)

準備する

『活用百科』CD を作成する場合、次のものが必要です。

■ CD-R、CD-RW メディア (1 枚)

『活用百科』CD のメディアです。

■ CD-R、CD-RW 装置

『活用百科』データを CD-R、CD-RW メディアに書き込むために必要となります。CD-R、CD-RW 装置は、使用しているパソコンに接続されている必要はありません。
次の手順で、データをネットワークなどで転送し、CD-R、CD-RW 装置の接続されたシステム装置で『活用百科』CD を作成することができます。

■ CD-R/RW ライティングソフト

『活用百科』データを CD-R、CD-RW メディアに書き込むために必要です。
弊社で推奨するライティングソフトは次のとおりです。

・株式会社 ビー・エイチ・エー B's Recorder GOLD8 BASIC for HITACHI
・ロキシオ・ジャパン株式会社 Easy CD&DVD Creator 6
・株式会社 アプリックス WinCDR7.0 Ultimate DVD
・プロジーグループ株式会社 nero6.0

ヒント

・各ライティングソフトの使用方法については、製品に付属されているマニュアルをご確認ください。

作成前の注意

『活用百科』データの書き込み中にほかのアプリケーションソフトが立ち上がっていると、エラーが発生することがあります。次の操作を行っておくことをお勧めします。

・スクリーンセーバーが立ち上がらないように設定する
・自動的にスタンバイ状態／休止状態にならないように設定する
・立ち上がっているアプリケーションをすべて終了する
・常駐プログラムをすべて終了する

『活用百科』CD の作成手順

ドライブ E 内に格納されている『活用百科』データを、CD-R、CD-RW 装置とライティングソフトを使用して、『活用百科』CD を作成します。作成手順は次のとおりです。

1. **ドライブ E 内に格納されている次の 3 つのフォルダーを、CD-R または CD-RW に書き込み、『活用百科』CD を作成する。**

   ・[Drivers]

   ・[Manual]

   ・[Programs]

   ライティングソフトで『活用百科』CD を作成してください。

HDD を使った一括セットアップ

ここでは、HDD 内のリカバリーイメージデータを使用した一括セットアップ方法を説明します。

重要

・ HDD のデータ消去ツールなどを使用した場合、一括セットアップ中に「エラーコード：208」が表示され、一括セットアップができないことがあります。その場合は、次の URL に記載されている対処方法をご参照ください。

参照

・ 対処方法について→ http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/flora/download/snl_2006/tpc040251/0675oth6.htm

1　パソコンの電源を入れ、パソコンの立ち上げ中、画面中央に「HITACHI」と表示されたら、[F12] キーを押す。

[Boot Menu] 画面が表示される。

重要

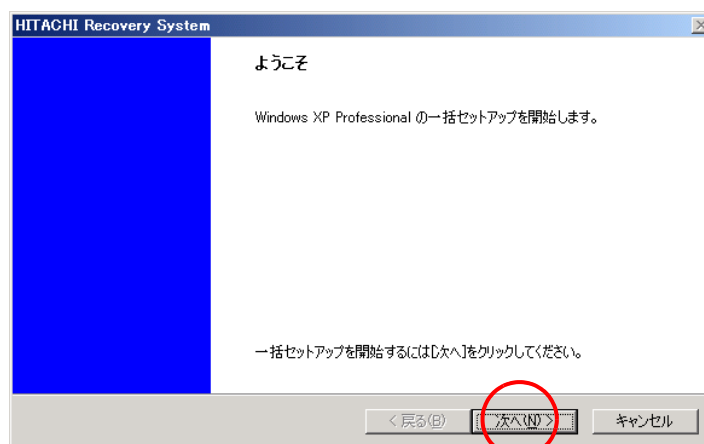
・ HDD 内のリカバリーイメージデータからシステムパーティションを回復させる時は、CD-ROM およびドライブの準備は必要ありません。

2　カーソルを <Recovery> に合わせ [Enter] キーを押す。

[ようこそ] 画面が表示される。

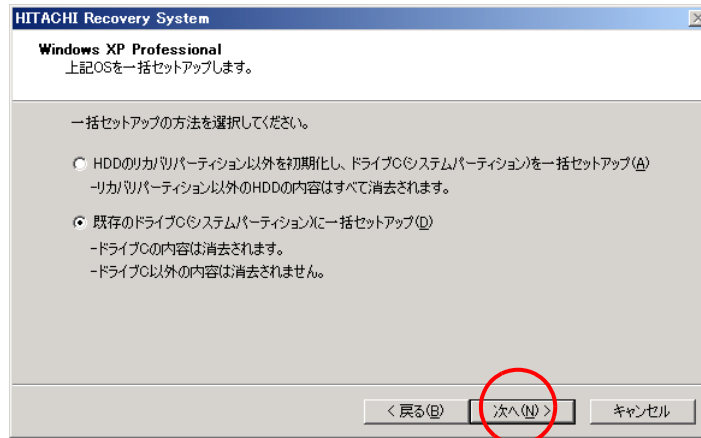
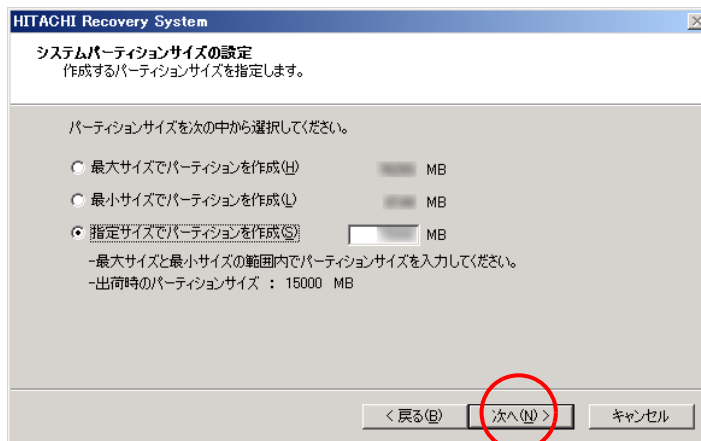
重要

・ 『BackUP CD-ROM』を作成した場合などは、画面に「Recovery」と表示されても HDD を使った一括セットアップができない場合があります。
・ ドライブ E を削除した場合などは、画面に「Recovery」が表示されず、HDD を使った一括セットアップはできません。

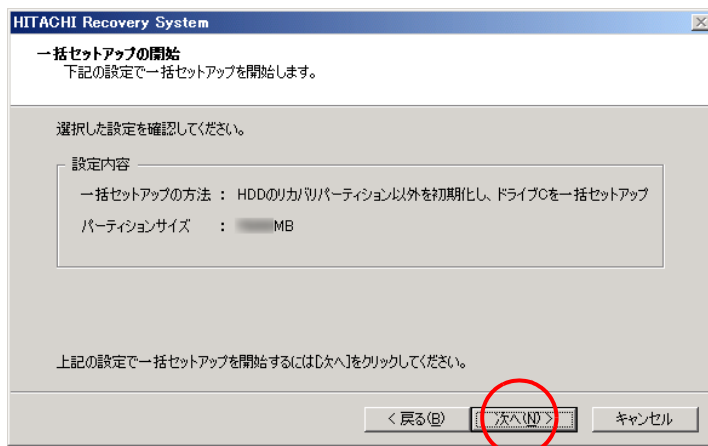
3　[次へ] ボタンをクリックする。

パソコンのチェックが行われ、チェック結果が正常の場合は、一括セットアップ方法の選択画面が表示される。

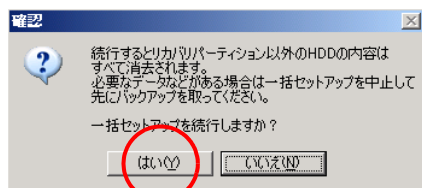
ヒント

・ 一括セットアップを中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。
セットアップ中止の [確認] 画面が表示されますので [はい] ボタンをクリックしてください。
自動でパソコンが立ち上げ直されます。

4　**セットアップ方法を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**
セットアップ方法は、次の 2 つから選択する。
(1)[HDD のリカバリパーティション以外を初期化し、ドライブ C(システムパーティション) を一括セットアップ]：こちらを選んだ場合は、手順 5 に進む。
(2)[既存のドライブ C(システムパーティション) に一括セットアップ]：こちらを選んだ場合は、手順 8 に進む。

5　**ドライブ C のサイズを選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**
最大サイズで作成する場合は、[最大サイズでパーティションを作成] を選択する。
最小サイズで作成する場合は、[最小サイズでパーティションを作成] を選択する。
それ以外のサイズで作成する場合は、[指定サイズでパーティションを作成] を選択し、設定サイズ内でサイズを入力する。

[一括セットアップの開始] 画面が表示される。

・ HDD の全領域を使用してパーティションを作成することはできません。パーティションの最大値はリカバリーパーティションサイズを差し引いた値になります。

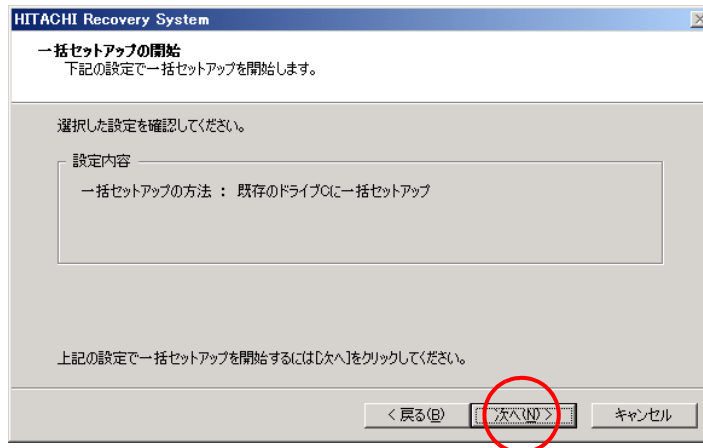
6 ［次へ］ボタンをクリックする。

［確認］画面が表示される。

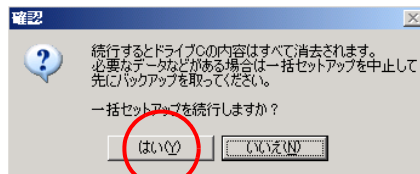
7 ［はい］ボタンをクリックし、手順 10 へ進む。

一括セットアップが開始される。一括セットアップ終了後、手順 10 の［セットアップの完了］画面が表示される。

重 要

- ［はい］ボタンをクリック後、リカバリーパーティション以外の HDD の内容はすべて消去されます。必要なデータなどがある場合は、セットアップを中止して、先にバックアップを取ってください。
- ［はい］ボタンをクリック後はセットアップを中止できません。

ヒント

- 一括セットアップを中止する場合は、［いいえ］ボタンをクリックしてください。
  ［いいえ］ボタンをクリック後、手順 6 に戻ります。
  手順 6 で［キャンセル］ボタンをクリックするとセットアップ中止の［確認］画面が表示されますので［はい］ボタンをクリックしてください。自動でパソコンが立ち上げ直されます。

8 ［次へ］ボタンをクリックする。

［確認］画面が表示される。

9 ［はい］ボタンをクリックする。

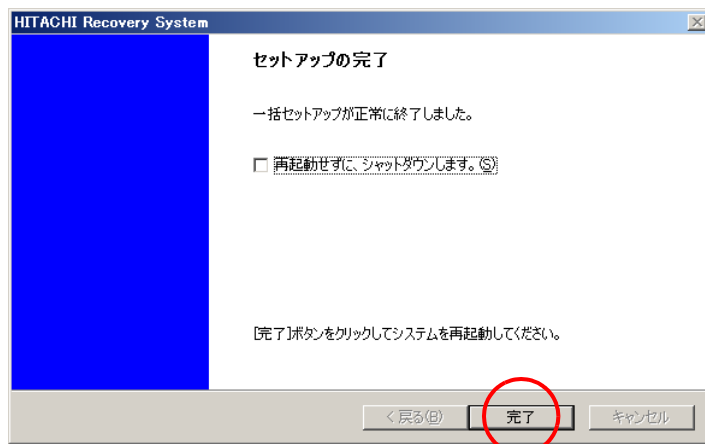
一括セットアップが開始される。一括セットアップ終了後、［セットアップの完了］画面が表示される。

重 要

- ［はい］ボタンをクリック後、ドライブ C の内容はすべて消去されます。必要なデータなどがある場合は、セットアップを中止して、先にバックアップを取ってください。
- ［はい］ボタンをクリック後はセットアップを中止できません。

ヒント

- 一括セットアップを中止する場合は、［いいえ］ボタンをクリックしてください。
  ［いいえ］ボタンをクリック後、手順 8 に戻ります。
  手順 8 で［キャンセル］ボタンをクリックすると、セットアップ中止の［確認］画面が表示されますので［はい］ボタンをクリックしてください。自動でパソコンが立ち上げ直されます。

10 [完了] ボタンをクリックする。

パソコンが立ち上げ直される。

重要

- 一括セットアップ終了後、シャットダウンしたい場合は、[再起動せずに、シャットダウンします。] にチェックを入れ、[完了] ボタンをクリックしてください。
- シャットダウンした場合は、次回電源を入れたときに Windows XP のセットアップから開始します。

11 以降、Windows のセットアップ手順に従って、Windows 環境をセットアップする。

参照

- セットアップ方法→「使用許諾契約に同意しよう」(P.52)

CD-ROM を使った一括セットアップ

『Product Recovery CD-ROM』、『BackUP CD-ROM』を使った一括セットアップ

ここでは『Product Recovery CD-ROM』や『BackUP CD-ROM』を使用した一括セットアップ方法を説明します。

重要

・ HDD のデータ消去ツールなどを使用した場合、一括セットアップ中に「エラーコード：208」が表示され、一括セットアップができないことがあります。その場合は、次の URL に記載されている対処方法をご参照ください。

参照

・ 対処方法について→ http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/flora/download/snl_2006/tpc040251/0675oth6.htm

ヒント

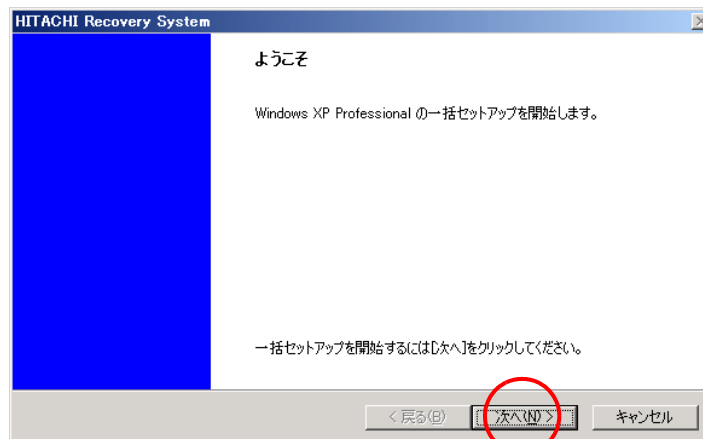
・ 画面は、『Product Recovery CD-ROM』を使用した場合の画面を記載しています。『BackUP CD-ROM』を使用した場合の画面は若干異なります。

1　パソコンの電源を入れ、パソコンの立ち上げ中、画面中央に「HITACHI」と表示されたら、[F12] キーを押す。

[Boot Menu] 画面が表示される。

2　『Product Recovery CD-ROM』(Disc1) または『BackUP CD-ROM』(Disc1) を CD/DVD ドライブに入れ、カーソルを [3. IDE CD：XXXXXXXXXX] に合わせ [Enter] キーを押す。

[ようこそ] 画面が表示される。

3　[次へ] ボタンをクリックする。

パソコンのチェックが行われ、チェック結果が正常の場合は、一括セットアップ方法の選択画面が表示される。

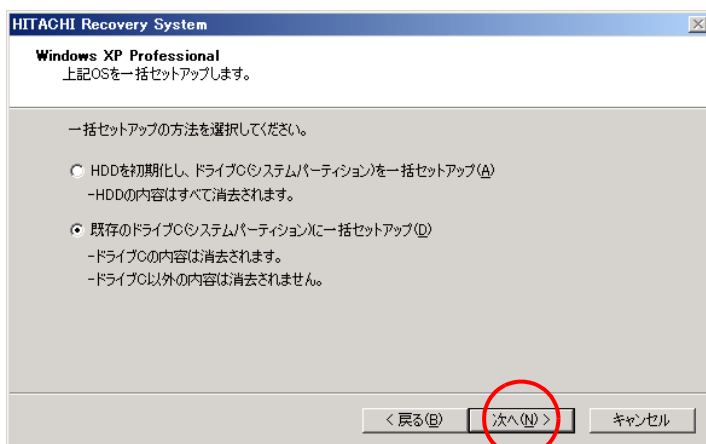
ヒント

・ 一括セットアップを中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。セットアップ中止の [確認] 画面が表示されますので [はい] ボタンをクリックしてください。自動でパソコンが立ち上げ直されます。

4 **セットアップ方法を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**

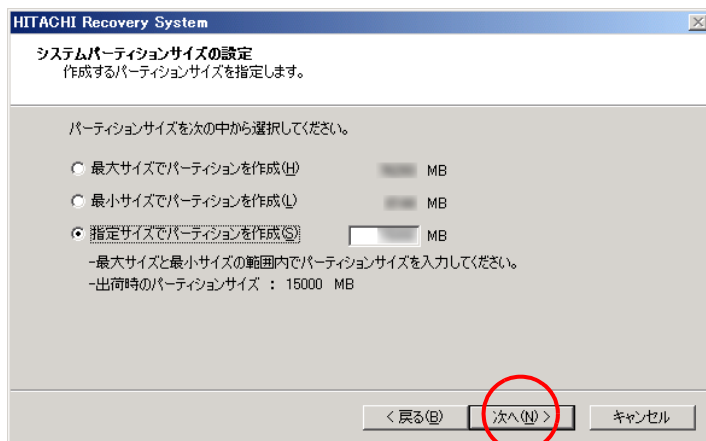
セットアップ方法は、次の 2 つから選択する。

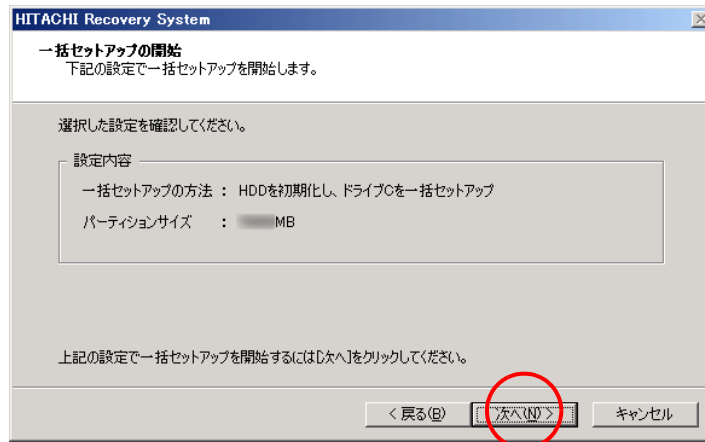
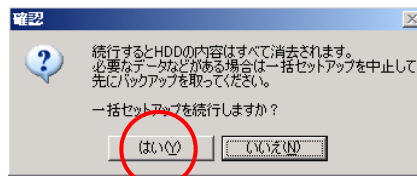
(1)[HDD を初期化し、ドライブ C(システムパーティション) を一括セットアップ]：こちらを選んだ場合は、手順 5 に進む。

(2)[既存のドライブ C(システムパーティション) に一括セットアップ]：こちらを選んだ場合は、手順 8 に進む。

5 **ドライブ C のサイズを選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**

最大サイズで作成する場合は、[最大サイズでパーティションを作成] を選択する。

最小サイズで作成する場合は、[最小サイズでパーティションを作成] を選択する。

それ以外のサイズで作成する場合は、[指定サイズでパーティションを作成] を選択し、設定サイズ内でサイズを入力する。

[一括セットアップの開始] 画面が表示される。

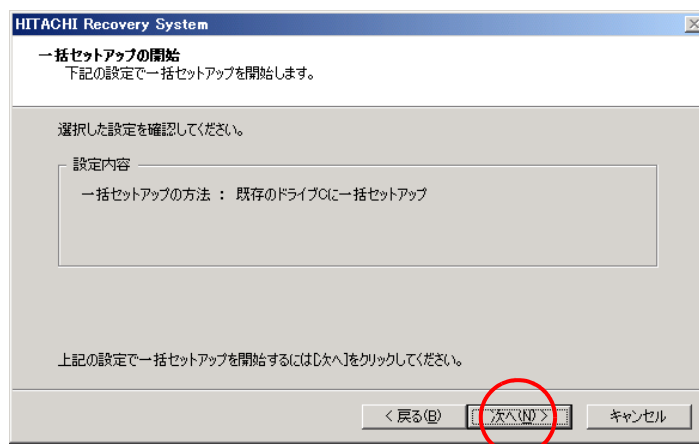
6 [次へ] ボタンをクリックする。

[確認] 画面が表示される。

7 [はい] ボタンをクリックし、手順 10 へ進む。

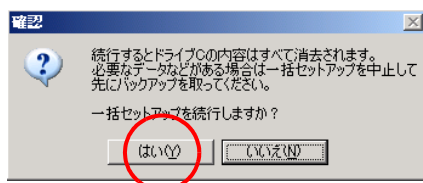
一括セットアップが開始される。
OS の回復作業中に「Please either insert the next disk and …」というメッセージが表示されたら、『Product Recovery CD-ROM』または『BackUP CD-ROM』を (Disc2)、(Disc3)、(Disc4)、(Disc5) の順に入れ替え、[Enter] キーを押す。
一括セットアップ終了後 [セットアップの完了] 画面が表示される。

重 要

- [はい] ボタンをクリック後、HDD の内容はすべて消去されます。必要なデータなどがある場合は、セットアップを中止して、先にバックアップを取ってください。
- [はい] ボタンをクリック後はセットアップを中止できません。

ヒント

- 一括セットアップを中止する場合は、[いいえ] ボタンをクリックしてください。
  [いいえ] ボタンをクリック後、手順 6 に戻ります。
  手順 6 で [キャンセル] ボタンをクリックするとセットアップ中止の [確認] 画面が表示されますので [はい] ボタンをクリックしてください。自動でパソコンが立ち上げ直されます。

8 [次へ] ボタンをクリックする。

[確認] 画面が表示される。

9 [はい] ボタンをクリックする。

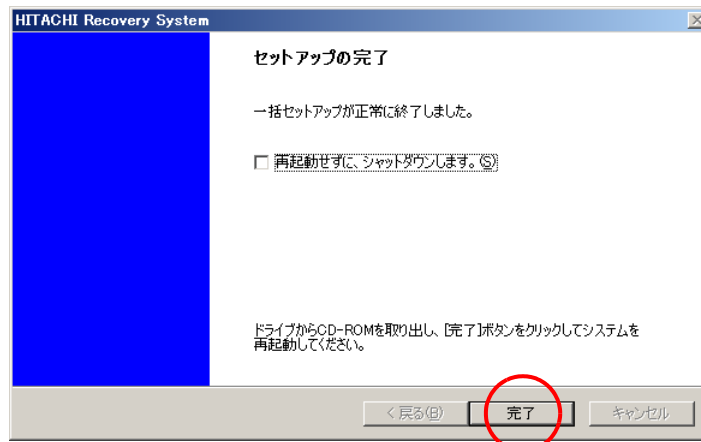
一括セットアップが開始される。
OS の回復作業中に「Please either insert the next disk and …」というメッセージが表示されたら、『Product Recovery CD-ROM』 または 『BackUP CD-ROM』 を (Disc2)、(Disc3)、(Disc4)、(Disc5) の順に入れ替え、[Enter] キーを押す。
一括セットアップ終了後 [セットアップの完了] 画面が表示される。

重 要

- [はい] ボタンをクリック後、C ドライブの内容はすべて消去されます。必要なデータなどがある場合は、セットアップを中止して、先にバックアップを取ってください。
  [はい] ボタンをクリック後はセットアップを中止できません。

ヒント

- 一括セットアップを中止する場合は、[いいえ] ボタンをクリックしてください。[いいえ] ボタンクリック後、手順 8 へ戻ります。
  手順 8 で [キャンセル] ボタンをクリックするとセットアップ中止の [確認] 画面が表示されますので [はい] ボタンをクリックしてください。自動でパソコンが立ち上げ直されます。

10 CD/DVD ドライブから CD-ROM を取り出し、[完了] ボタンをクリックする。

パソコンが立ち上げ直される。

重 要

- 一括セットアップ終了後、シャットダウンしたい場合は、[再起動せずに、シャットダウンします。] にチェックを入れ、[完了] ボタンをクリックしてください。
- シャットダウンした場合は、次回電源を入れたときに Windows XP のセットアップから開始します。

11 以降、Windows のセットアップ手順に従って、Windows 環境をセットアップする。

参照

- セットアップ方法→「使用許諾契約に同意しよう」(P.52)

6 章　パソコンに機器を接続する

この章では、バッテリーやディスクの使い方、周辺機器の接続方法と使用方法を説明します。

バッテリーを使う

ここでは、バッテリーパックでパソコンを使う方法やバッテリーの上手な使い方について説明します。

バッテリーの充電

バッテリーパックでパソコンを使うには、バッテリーを充電する必要があります。

⚠警告

- バッテリーパックを充電するときは、必ずこのパソコンに入れて充電してください。ほかの方法では、電圧、充電時間などが異なる場合があり、破裂・発火などの原因になります。

1 パソコンの電源を切り、バッテリーパックを取り付ける。

参照

- バッテリーパックの取り付け方→「3 章　パソコンを接続しよう」(P.45)

2 AC アダプターをパソコンに接続する。

充電が始まる。充電中はバッテリーランプが点灯し、満充電になると消灯する。

重要

- 満充電の時でも、Windows の残量表示が 100%にならないことがあります。
- 放電しきったバッテリーパックや充電せず長期間放置 (過放電状態に) したバッテリーパックでは、充電できなかったり、通常時に比べ、充電に時間がかかってしまうことがあります。
- バッテリーランプが消灯しても満充電にならないことがあります。Windows の電源メーターで確認し、充電が不十分な場合は、バッテリーパックを取り付け直して再充電してください。
- 満充電になっても、充電ランプが消灯しないことがあります。その場合は、放電して再充電してください。

充電時間

ヒント

- バッテリーの充電時間は、パソコンの使用環境、周辺機器の接続状況、バッテリーパックの劣化状態などに応じて異なります。
- パソコンを使用できる環境 (温度、湿度) でバッテリーパックを充電しないと、満充電にならないことがあります。

●パソコンの電源を切って充電

標準バッテリーパック：約 2 ～ 3 時間
大容量バッテリーパック：約 3 ～ 4 時間

●パソコンを使用しながら充電

標準バッテリーパック：約 2 ～ 3 時間
大容量バッテリーパック：約 3 ～ 4 時間

充電状態の確認

充電状態はインジケーターランプのバッテリーランプで確認します。

ヒント

- AC アダプターでパソコン使用時、充電状態のバッテリーパックを取り付けていると瞬時停電にも対応できます。
- 放電直後などでバッテリーパックの温度が高いと、バッテリーランプが点灯するまでに時間がかかることがあります。

参照

- バッテリーランプについて→「バッテリーランプ」(P.41)

バッテリーでの動作時間

ここでは、バッテリーの動作時間と動作時間を長くする方法について説明します。

バッテリーでの動作時間

満充電状態のバッテリーでの動作可能時間は次のとおりです。

CPU	標準バッテリーパック	大容量バッテリーパック
Core Duo	約 2.1 時間	約 4.1 時間
Celeron M	約 1.8 時間	約 3.3 時間

ヒント

- 動作可能時間は、JEITA バッテリー動作測定 (Ver.1.0) により測定、算出した値です。

参照

- JEITA バッテリー動作時間測定法について→ http://it.jeita.or.jp/mobile/

動作可能時間を長くするには

バッテリーを長時間使用するには、次の方法で消費電力を抑えて節電してください。

●節電機能を使う

節電機能を使うように設定しておくと、一定時間パソコンを操作しないでいると消費電力を抑えます。ディスプレイを閉じることでも節電機能が働きます。
また、長い時間使わないときは、電源を切ります。

参照

- 節電機能の設定について→「節電機能とは」(P.174)

●画面を静止させたり、画面の明るさを暗くする

■画面を静止させる
消費電力を抑えるためにスクリーンセーバーなどの画面保護機能を使うときは、「なし」(静止画) を選んでください。

■画面の明るさを暗くする
[Fn] + [F8] キーを押してディスプレイの明るさを暗くすると、消費電力を抑えられます。

●音量を下げる

[Fn] ＋ [F5] キーまたは、［音量］ アイコンで音量を下げると、消費電力を抑えられます。

バッテリーの容量を確認する

ここでは、バッテリー容量の確認方法と、バッテリー容量がわずかになったときの設定について説明します。
どちらも Windows の [電源オプション] で行います。

●[電源オプション] の開き方

1 **[スタート] ボタン－ [コントロールパネル] をクリックする。**
[コントロールパネル] 画面が表示される。

2 **[電源オプション] をクリックする。**
[電源オプションのプロパティ] 画面が表示される。

ヒント

・ [コントロールパネル] 画面は「クラシック表示」で説明しています。
・ [コントロールパネル] 画面に [電源オプション] アイコンが表示されていないときは、「クラシック表示に切り替える」をクリックするか、「パフォーマンスとメンテナンス」のカテゴリを選択すると表示されます。

容量を確認する

1 **[電源オプションのプロパティ] 画面の [電源メーター] タブをクリックする。**
バッテリーの容量を確認できる。

ヒント

・ [電源メーター] タブは、タスクバーの電池のアイコンをダブルクリックして開くこともできます。
・ 使用環境や動作状態などで容量の値が大きく変動したり正確な値が表示されないことがあります。
・ バッテリーパックを取り付けた直後は、実際の容量と表示される容量の誤差が大きくなりますが、一度、満充電にすると誤差は小さくなります。
・ バッテリーパックが満充電でも 100％と表示されないことがあります。

バッテリーの容量が少なくなったときの設定

バッテリーの容量がわずかになったとき、パソコンの動作をどうするかを設定できます。標準では、休止状態に移行するように設定されています。
このほかの設定は変更しないようにしてください。

1 **[電源オプションのプロパティ] 画面の [アラーム] タブをクリックする。**

2 **[バッテリ切れアラーム] の [アラームの動作] ボタンをクリックする。**

3 **「アラームの動作」の「アラーム後のコンピュータの動作」にチェックを付け、[スタンバイ] または [休止状態] を選び、[OK] ボタンをクリックする。**

4 **[アラーム] タブで [適用] ボタンをクリックする。**

上手にバッテリーを使う

ここでは、上手なバッテリーの使い方を説明します。

●標準バッテリーパック (AB8100) に適した使用環境

標準バッテリーパックの使用時の動作条件には制限があり、主に次のような使用環境に適しています。
・ AC アダプターでの使用が主で、停電時の復旧として使用の場合
・ スタンバイ状態でのオフィス間の移動の際など、AC アダプターが使用できない時の状態保持として使用の場合
・ 低負荷 (常に CPU に負荷の掛かる計算ソフトや、多数のアプリケーションを同時に実行しない) での使用の場合

重要
・ 標準バッテリーパックを高負荷で使用した場合、動作時間が短くなるばかりでなく、バッテリー残量警告が表示される前に、バッテリー保護により電源が切れることがあります。
・ 寒冷地では、立ち上げ時の残量表示が極端に少なくなります。また、充電ができない場合があります。その場合は、常温で放置したあとに充電してください。

参照
・ 使用環境について→「パソコンおよび周辺機器の取り扱いについて」(P.135)

●大容量バッテリーパック (AB8110) に適した使用環境

主に次のような使用環境に適しています。
・ 長時間バッテリーパックを使用する場合
・ 高負荷 (常に CPU に負荷の掛かる計算ソフトや、多数のアプリケーションを同時に実行させる) で使用する場合

重要
・ 寒冷地では、立ち上げ時の残量表示が極端に少なくなったり、充電ができない場合があります。その場合は、常温でしばらく放置したあとに充電してください。

参照
・ 使用環境について→「パソコンおよび周辺機器の取り扱いについて」(P.135)

●バッテリー使用前に、必ずバッテリーを充電する

バッテリーでのご使用の際は、事前に必ず充電してください。特に、AC アダプターを接続しないで電源を入れる場合、立ち上げに多くの電力を消費しますので、残量が少ない場合では正常に電源が入らない場合があります。

●過放電しない

パソコンは電源を入れなくても、ごく少量ですが電力を消費します。そのため、バッテリーパックをパソコンに取り付け、AC アダプターを接続せずに放置すると過放電になります。また、残量の少ないバッテリーパックをパソコンに取り付けた場合、2 ～ 3 日で過放電になります。過放電したバッテリーパックは、充電が始まるまでに数時間かかったり、充電できる容量が少なくなります。また、過放電がひどくなると、そのバッテリーパックは使用できなくなることがあります。

●バッテリーの再充電

バッテリーが満充電になり、充電が停止した場合、ひきつづき AC アダプターを接続していてもバッテリーは少しずつ放電し容量が減っていきます。バッテリーを再度充電し、再び満充電にするには、AC アダプターまたはバッテリーパックを接続し直してください。

●長期間使用しないときでも、1ヶ月に一度は充電する

バッテリーはパソコンを使用しなくても少しずつ消費されています。バッテリーの残量を確認し、15%以下であれば充電してください。また、長期間使用しないときでも、1ヶ月に一度は充電してください。

● CPU の省電力機能

Core Duo 搭載モデルをバッテリーでご使用の場合、CPU の動作周波数は、CPU の使用状況により、切り替わって動作します。

参照

・ Core Duo 搭載モデルの CPU 節電機能について→「CPU を節電する (Core Duo 搭載モデルのみ)」(P.178)

●バッテリーを完全放電する

1 **パソコンの電源を入れ、パソコンの立ち上げ中に画面中央に「HITACHI」と表示されたら、[F2] キーを押す。**

BIOS メニューが表示される。

2 **AC アダプターを取り外し、バッテリー駆動にする。**

完全放電が完了すると、パソコンの電源が切れる。

3 **完全放電後、AC アダプターを接続し充電する。**

重 要

・ 完全放電したまま放置しないでください。バッテリーが過放電状態になります。

ヒント

・ 完全放電は、バッテリーが満充電のときから行う必要はありません。
残量が少ないときから行えば、それだけバッテリーが切れるまでの時間は短くなります。

バッテリーパックの交換

ここでは、バッテリーパックを交換する方法について説明します。

交換時期

警告メッセージが表示されたら、バッテリーの残量は 12%未満です。この状態を「Low Battery」といいます。Low Battery になったら、バッテリーパックを交換するか充電してください。Low Battery のまま放置し、残量が 10%未満になると、再び警告メッセージが表示され、[電源オプション] で設定した状態 (休止状態またはスタンバイ) になります。

ヒント

- パソコンの電源が切れていてもバッテリーは消耗します。1ヶ月以上使用しないときは、ときどき充電するか、パソコンからバッテリーパックを外してください。
- Low Battery の状態で、AC アダプターを接続していない場合、休止状態やスタンバイ状態から復帰しないでください。復帰には電力が多く使われるため、バッテリーが切れ、復帰しないことがあります。
- HDD、FDD、CD/DVD ドライブなどを使用中にスタンバイまたは休止状態が始まった場合は、復帰しても元の状態に戻らないことがあります。

●休止状態の場合

休止状態は、現在の状態を保存して電源が切れます。AC アダプターを接続するか、満充電のバッテリーパックと交換してから電源を入れてください。

●スタンバイの場合

すぐに AC アダプターを接続してください。スタンバイのまま放置するとバッテリーがなくなり電源が切れます。スタンバイから復帰するには電源スイッチを約 1 秒押します。

ヒント

- スタンバイから復帰する際には、電源スイッチを 4 秒以上押さないでください。パソコンの電源が切れます。

交換方法

交換するバッテリーパックは、残量が 30%以上で使用してください。

1. **パソコンの電源を切る。**
2. **バッテリーパックを交換する。**

ディスクを使う

ここでは、CD、DVD などのディスクと、ディスクを入れるドライブの使い方について説明します。また、FDD についても説明します。ご購入時に選択された仕様によって、パソコンに内蔵するドライブと使用できるディスクは異なります。

ディスクの入れ方／取り出し方

CD/DVD ドライブの使い方

1　CD/DVD ランプが点灯していないことを確認して、CD/DVD イジェクトボタンを押し、トレイを引き出す。

ヒント

- ドライブの種類によって、CD/DVD イジェクトボタンの位置は異なります。
- パソコンの電源が入っていない時は、CD/DVD イジェクトボタンを押してもトレイは出てきません。

重要

- CD/DVD ランプ点灯中はトレイを出さないでください。ドライブまたはディスクが壊れることがあります。
- トレイを出し入れするときに、トレイを無理に引き出したり押し込んだりしないでください。ドライブが壊れることがあります。また、ディスクをセットしたり取り出したりするとき以外はトレイを引き出さないでください。

2　ディスクの表面（ラベルが書かれている面）を上に向け、ラッチが「カチッ」と音がするまで入れる。または、取り出す。

重要

- 割れたり変形したディスクをドライブに入れないでください。故障の原因になります。
- ディスクのセンター穴をラッチにはめずにトレイを閉めると、ディスクがトレイ口に入って取れなくなることがあります。

3　「カチッ」とロックするまで、トレイを押して閉める。

自動でディスクを読む設定になっているときは、ディスクを入れると再生が始まる。

重要

- 勢いよくトレイを押すと CD/DVD ドライブや HDD の故障の原因になりますので、ゆっくりと 押してください。

ヒント

- ディスクに自動立ち上げのファイルがないときは、ディスクの再生が自動になりません。

ディスクの強制取り出し

CD/DVD イジェクトボタンを押してもトレイが開かないとき、細いピンなどを差し込んでトレイを開けることができます。

1　細いピンなどで、CD/DVD 強制イジェクトスイッチを押す。

重要

・ 通常は、CD/DVD 強制イジェクトスイッチは使わないでください。ただし、CD/DVD イジェクトボタンを押してもトレイが出ないときは、強制イジェクトスイッチに細いピンなどを差し込んで取り出してください。

DVD-RAM ディスクをフォーマットする

DVD-RAM ディスクのフォーマットは、DVD-RAM フォーマットユーティリティーで行います。

参照

・ 詳細について→「DVD-RAM フォーマットユーティリティーの使用方法」（P.190）

FD の入れ方／取り出し方

FD を入れる

1　表面（ラベルをはる面）を上に向け、FD の矢印を FDD に向け、「カチッ」と音がするまで押し込む。

FD を取り出す

1　FDD ランプが点灯していないことを確認して、FDD イジェクトボタンを押す。

重要

・ FDD ランプの点灯、点滅中に FD を出し入れすると、FDD または FD が壊れることがあります。
・ パソコンの電源を切るときは、FD を取り出してからにしてください。FD を入れたまま電源を切ると、FD が壊れることがあります。また、FD を入れたまま電源を入れると、パソコンが立ち上がらないことがあります。

2　FD が出てくるので、FDD から取り出す。

FD の種類

このパソコンで次の FD が読み書きできます。

・ 2DD：720KB フォーマット

・ 2HD：1.44MB フォーマット／ 1.25MB フォーマット

重要

・ 1.44MB の FD を 1.25MB の容量にフォーマット (初期化) できません。
・ 1.25MB でフォーマットされている FD を 1.44MB でフォーマットし直しても、正常に使用できないことがあります。
・ 2DD の FD をフォーマットしたあと、すぐに FD に読み書きすると読み書きのエラーが発生することがあります。一度 FD をドライブから取り出し、入れ直してください。
・ 2HD 1.25MB の FD を使うには、3 モード FD ドライバーをセットアップする必要があります。
・ 1.25MB の FD はフォーマットできません。

参照

・ 3 モード FD ドライバーのセットアップ方法→「3 モード FD ドライバー」(P.183)

FD をフォーマットする

1 **FD を FDD に入れる。**

2 **[マイコンピュータ] の「3.5 インチ FD(A:)」を右クリックする。**

3 **メニューから [フォーマット] を選択する。**

4 **フォーマットする FD に合せて、[容量] に「1.44MB」または「720KB」を選択する。**

・ [フォーマットオプション] の [クイックフォーマット] をチェックしない。
・ オプション項目があるときは、必要に応じて設定する。

5 **[開始] ボタンをクリックする。**

フォーマットが開始される。終了すると [フォーマットが完了しました。] と表示される。

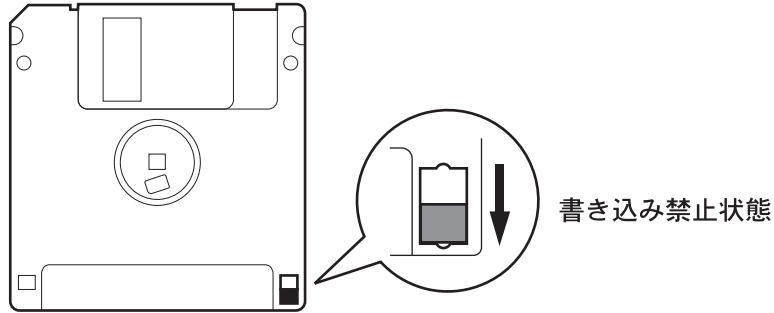
6 **[OK]、[閉じる] の順にボタンをクリックする。**

書き込みを禁止する

ここでは、FD への書き込みを禁止する方法を説明します。
大切なデータを誤って消してしまうことがなくなります。

1

FD の裏側のライトプロテクトノッチを矢印の向きにスライドする。

書き込みが禁止される。

周辺機器接続時に必要な設定

ここでは、周辺機器を接続したときに必要な設定とその参照先をまとめてあります。なお、次の表で「必要な設定」が「なし」となっている場合でも周辺機器に付属のマニュアルを参照し、必要な場合は設定してください。

重要

・ 接続する周辺機器には節電機能に対応していないものがあります。
節電機能を使わないように設定してご使用ください。

周辺機器	必要な設定	参照先
マウス テンキーボード	なし	―
ディスプレイ	・表示ドライバーのセットアップ＊ ・画面の設定 (必要に応じて) ・マルチディスプレイ表示	参照「表示ドライバー」(P.183) 「ディスプレイを接続する」(P.103)、 「マルチディスプレイ表示にする」(P.104)
マイク ステレオ スピーカー ヘッドホン	サウンドドライバーのセットアップ＊	参照「サウンドドライバー」(P.185)
PC カード	PC カードドライバーセットアップ	PC カード付属のマニュアル
モデム	モデムドライバーのセットアップ＊	参照「モデムドライバー」(P.186)
LAN	LAN ドライバーのセットアップ＊	参照「LAN ドライバー」(P.185)
USB 機器	USB 機器ドライバーのセットアップ	USB 機器付属のマニュアル

＊ ご購入時の状態で、セットアップまたは設定済みです。

ヒント

・ 周辺機器の取り扱いについては、各メーカーにお問い合わせください。

マウス、テンキーボード

ここでは、USB 仕様のマウスおよびテンキーボードの接続方法について説明します。

接続方法

1　パソコン側面の USB コネクターにマウスおよびテンキーボードのケーブルを接続する。

重要

- 各コネクターの金属部には触らないようにしてください。マウスやテンキーボードが動作しなくなることがあります。接続時に触れそうなときは、静電気を取り除くか、綿手袋をしてください。
- USB コネクターは、4 つあります。いずれに接続しても動作は同じです。

参照

- USB コネクターの位置→「パソコン正面･左側面」(P.38)、「パソコン背面･右側面」(P.39)

LAN や電話回線でインターネットに接続する

ここでは、LAN やモデムを使ってインターネットに接続する方法について説明します。

LAN で接続する

パソコンを LAN に接続する場合にお読みください。
ただし、4 章の操作を終えるまで、LAN ケーブルを接続しないでください。

1　パソコン背面の LAN コネクター（ ）に、LAN ケーブル（市販品）を「カチッ」と音がするまで差し込む。

参照

・ LAN コネクターの位置→「パソコン背面･右側面」（P.39）

ヒント

・ LAN ケーブルは、正しい向き、正しい角度で差し込んで接続してください。LAN ケーブルがきちんと差し込まれていないと、動作しなかったり、誤動作の原因になります。

LAN に接続するには、ほかにも必要な手続きが残っています。Windows のヘルプをご参照ください。

重要

・ LAN コネクターには LAN ケーブルを接続してください。LAN ケーブル以外のケーブル（ISDN ケーブルなど）を接続すると、故障するおそれがあります。
・ LAN ケーブルには脱落防止用のラッチが付いています。LAN ケーブルを取り外すときは、ラッチを押さえながら LAN コネクターから引き抜いてください。ラッチを押さえずに無理に引き抜くと、LAN ケーブルが断線したり、LAN コネクターを破損するなどのおそれがあります。
・ 内蔵 LAN と上位プロトコルとの動作確認は、「Microsoft TCP/IP プロトコル」、「Microsoft IPX/SPX 互換プロトコル」で行っています。その他のプロトコルを使用する場合は、あらかじめ接続、動作の確認を行ってください。

モデムで接続する

モデムでインターネットに接続する場合にお読みください。

⚠警告

・ 雷が鳴っているときは、パソコンの使用、電話線への接続作業を中止してください。誘導雷で発生する高電圧によって感電するおそれがあります。

重要

・ モジュラーケーブルは、2 線式をご使用ください。故障の原因になります。2 線式以外のケーブルの使用により発生した不具合については保証いたしません。
・ モデムの有無は、ご購入時の選択により異なります。
・ モデムを内蔵していないモデルでは、モデムコネクターは見えていますが使用できません。

ヒント

・ 接続する前に、お使いになっている電話機の種類をご確認ください。お使いになっている電話機が親子電話やビジネスホンの場合、接続しても正常にインターネットを始めることができません。
・ モジュラーコンセントの形状がイラストのようになっていない場合は、モジュラーコンセントを変更する必要があります。詳しくは NTT にご相談ください。
・ モジュラーコンセントにモジュラーケーブルとパソコンを接続しているときは、電話機を使うことができません。電話機を使うときは、モジュラーコンセントからモジュラーケーブルとパソコンを取り外し、電話機を取り付ける必要があります。

1　お使いの電話機に接続しているモジュラーケーブルを、モジュラーコンセントから抜く。

重要

・ モジュラーケーブルには脱落防止用のラッチが付いています。モジュラーケーブルを取り外すときは、ラッチを押さえながらモジュラーコンセントから引き抜いてください。ラッチを押さえずに無理に引き抜くと、モジュラーケーブルが断線したり、モジュラーコンセントを破損するなどのおそれがあります。

2　モジュラーケーブルの片側を、モデムコネクター（　）に「カチッ」と音がするまで差し込む。

参照

・ モデムコネクターの位置→「パソコン背面・右側面」（P.39）

重要

・ モジュラーケーブルは、必ずモデムコネクターに接続してください。誤って LAN コネクターに接続すると故障するおそれがあります。あらかじめ、マークなどを確認して接続してください。

3　モジュラーケーブルの反対側を、モジュラーコンセントに「カチッ」と音がするまで差し込む。

インターネットを始めるためには、ほかにも必要な手続きが残っています。インターネット接続ウィザードで設定してください。

ヘッドホン、マイクを接続する

マイクを使って自分の声など外部の音声を録音し、パソコンに音声データとして保存することができます。ヘッドホンやスピーカーで、音声データを再生したり、ゲームソフトの BGM なども楽しめます。

接続方法

1 パソコン背面の各端子に、スピーカーやヘッドホン、マイクのジャックを接続する。

⚠注意

・ ヘッドホンやイヤホンの使用時は、適度な音量でご使用ください。音量が大きすぎると難聴になるおそれがあります。

参照

・ マイク入力端子、ヘッドホン端子の位置→「パソコン背面･右側面」(P.39)

ヒント

・ ヘッドホン端子とマイク入力端子には、直径が 13mm を超えるプラグは接続できません。
・ ヘッドホン端子に接続した機器の音量は、キーボードの [Fn]+[F5 または F6] キーで調整できます。
・ ヘッドホン端子から出力される音質は、オーディオ装置より劣ります。
・ PCM 音源の再生時に、PCM 音源のデータによっては大音量が出力されることがあります。一度音量を最小にしてからヘッドホンを接続し、音量を調整し直してください。
・ ヘッドホンを接続している状態で電源スイッチを ON/OFF すると、ヘッドホンから大きなノイズ音が発生することがあります。
・ 一定時間音声の出力がないと、節電機能が働きスピーカーの電源が切れます。このとき、スピーカーからノイズが聞こえることがあります。
・ DOS/V 用として市販されているマイクをお使いください。

マイクを使って録音する

マイクを使って自分の声などを録音し、パソコンに音声データとして保存することができます。
ここでは Windows の [サウンドレコーダー] を使って録音する方法を説明します。

参照

・ 録音レベルの調整→「音量を調整する」(P.149)

1 [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] − [アクセサリ] − [エンターテイメント] − [サウンドレコーダー] の順にクリックする。

[サウンドレコーダー] 画面が表示される。

2 [録音] ボタンをクリックする。

3 マイクに向かって話す。

4 ［停止］ボタンを押す。

重 要

・ マイクの録音レベルを上げすぎると、音声が歪んだり、ハウリングすることがあります。適度なレベルに調整してお使いください。

ヒント

・ 録音した音声は WAV 形式の音声データとして保存することができます。保存するときは、［ファイル］メニューの［名前を付けて保存］を選択してください。

USB 機器を接続する

このパソコンには USB(Universal Serial Bus) 機器を取り付けることができます。ここでは、接続方法の一例を説明します。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご参照ください。

接続方法

1　パソコン側面の USB コネクターに USB ケーブルを差し込む。

ヒント

・ パソコンの電源を入れた状態でも接続できます。
・ USB 機器を使用するには、[デバイスマネージャ] で USB コントローラを使用できるように設定する必要があります。標準で使用できるように設定してあります。
・ USB コネクターは、4 つあります。いずれに接続しても動作は同じです。

参照

・ USB コネクターの位置→「パソコン正面･左側面」(P.38)、「パソコン背面･右側面」(P.39)

重要

・ 接続している USB 機器によっては、スタンバイや休止状態から復帰しない、復帰後やパソコンを立ち上げ直したあとに、動作が不安定になることがあります。その場合、スタンバイや休止状態は使用しないようにしてください。
なお、USB 機器によっては、USB ケーブルを抜き差しすることで動作が改善されることがあります。
・ 1 ポートあたり 500mA を超える機器は使用できません。接続しないでください。

PC カード

このパソコンには、Card Bus ／ JEIDA Ver 4.2 ／ PCMCIA2.1 仕様の PC カードを 2 枚取り付けられます。PC カードを接続することで、SCSI 機器などを使用できます。
あらかじめ付属のマニュアルを読み、取り付け可能であることをご確認の上、取り付けてください。

重要

- Type III の PC カードは厚いため、1 枚しか取り付けできません。取り付けるときは、下の PC カードスロットに取り付けてください。
- 一方の PC カードスロットで正常に動作しないときは、もう一方の PC カードスロットで使用してください。
- PC カードは、カードの表側を上にして取り付けてください。逆に入れると、コネクターが壊れるおそれがあります。
- PC カードは、水平にまっすぐ入れてください。斜めに入れると、奥まで差し込めないことがあります。
- PC カード使用時に節電機能を使うと、動作しないことがあります。
- 12V 電源を必要とする PC カードは使用できません。
- PC カードは、長時間使用していると熱を帯びることがありますので、取り外す際に熱い場合は、しばらく時間をおき、冷めてから取り外してください。

取り付け手順

1. **パソコンの電源を切る。**
2. **PC カードイジェクトボタンを指で押し、出てきた PC カードイジェクトボタンを押す。ダミー PC カードが少し出てくるので取り出す。**
3. **PC カードの表面を上にし、水平にまっすぐ奥まで PC カードを PC カードスロットに差し込む。**

重要

- PC カードを差し込んでいない場合は、必ずダミー PC カードを差し込んでいてください。
- PC カードを差し込んでいる場合は、ダミー PC カードは紛失しないように大切に保管してください。

参照

- PC カードスロットの位置→「パソコン背面･右側面」(P.39)

取り外し手順

1 **［タスクバー］の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコンをダブルクリックする。**

［ハードウェアの安全な取り外し］画面が表示される。

2 **［ハードウェア デバイス］から取り外すデバイスを選択し、［停止］ボタンをクリックする。**

［ハードウェア デバイスの停止］画面が表示される。

3 **取り外す PC カードであることを確認して［OK］ボタンをクリックする。**

4 **「'ＸＸＸ ～'は安全に取り外すことができます。」とタスクトレー上にバルーン表示される。**

5 **［OK］ボタンをクリックして［ハードウェアの安全な取り外し］画面で、［閉じる］ボタンをクリックする。**

6 **取り出す PC カードの PC カードイジェクトボタンを指で押し、出てきた PC カードイジェクトボタンを押す。PC カードが少し出てくるので取り出す。**

ディスプレイを接続する

外付けディスプレイを接続すると、パソコンと外付けディスプレイに同じ画面を表示(同時表示)できます。さらに、1つの画面を2台のディスプレイで、広げて表示(マルチディスプレイ表示)できます。

接続方法

1　パソコンの電源を切る。

2　パソコン背面のアナログディスプレイコネクターに、外付けディスプレイのケーブル(ミニD-Sub15ピン)を接続する。

重要

- コネクターは上下方向にゆさぶったりせず、必ず水平にまっすぐ抜き差ししてください。
- 接続したコネクターに、上下方向から負荷が加わらないようにしてください。

参照

- アナログディスプレイコネクターの位置→「パソコン背面･右側面」(P.39)

表示先を切り替える

画面表示は、パソコンのみ、同時表示、外付けディスプレイのみに切り替えることができます。

重要

- 外部ディスプレイの解像度や色数は、パソコンがサポートする範囲以内で設定してください。

キーで切り替える

[Fn]キーを押しながら、[F7]キーを押します。押すたび、次のように表示先が切り替わります。

→ パソコンのみ → 同時表示 → 外付けディスプレイのみ

重要

- キー操作での画面の切り替えは、外付けディスプレイの解像度や色数を正しく設定したあとに行ってください。
- オプション以外のディスプレイを接続してパソコンを立ち上げた場合、外付けディスプレイに正常に表示されない場合があります。キーでの切り替えを行うと表示できる場合もあります。
- 画面の切り替えには、完了するまで数秒かかります。キー操作後、しばらくお待ちください。

マルチディスプレイ表示にする

パソコンと外付けディスプレイでデスクトップ領域を広げて表示できるマルチディスプレイ表示の設定を説明します。

重要

- マルチディスプレイ表示の設定手順は、必ず外付けディスプレイを接続してから行ってください。
- マルチディスプレイ設定時、セカンダリーモニターで 3D アプリケーションが正常に再生されない場合があります。その場合、プライマリーモニターで再生を行ってください。
- マルチディスプレイ設定中に 3D スクリーンセーバーは使用できません。
- プライマリー / セカンダリーモニターの切り替えはできません。プライマリーモニターはパソコン、セカンダリーモニターは外付けディスプレイになります。
- コマンドプロンプトの全画面表示や動画再生は、プライマリーモニターにのみ表示される場合があります。

1. **外付けディスプレイ、パソコンの順に電源を入れる。**
2. **[スタート] ボタン－[コントロールパネル] をクリックして [コントロールパネル] 画面を開き、[画面] アイコンをダブルクリックする。**
   [画面のプロパティ] 画面が表示される。

   ヒント

   - [コントロールパネル] 画面は「クラシック表示」で説明しています。

3. **[設定] タブをクリックする。**
4. **モニターアイコン 2 をクリックし、「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」 にチェックを入れ、[適用] ボタンをクリックする。**
5. **モニターアイコン 2 の解像度や色数を外付けディスプレイの値に変更し、[OK] ボタンをクリックする。**

同時表示にする

マルチディスプレイ表示から同時表示にする手順を説明します。

重要

- プライマリー / セカンダリーモニターの切り替えはできません。プライマリーモニターはパソコン、セカンダリーモニターは外付けディスプレイになります。
- コマンドプロンプトの全画面表示や動画再生は、プライマリーモニターにのみ表示される場合があります。

1. **マルチディスプレイ表示の設定と同じ手順で [画面のプロパティ] 画面を開く。**
2. **[設定] タブをクリックする。**
3. **モニターアイコン 2 をクリックし、「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」 のチェックを外し、[OK] ボタンをクリックする。**

4 **[Fn] キーを押しながら、[F7] キーを押す。**

解像度

●マルチディスプレイ表示の場合

マルチディスプレイ表示で設定するディスプレイ 1 とディスプレイ 2 の解像度は、次の組み合わせに従って設定してください。各ディスプレイの色数は同じ値に設定してください。

参照

・　解像度の変更方法について→「ディスプレイの表示を変える」(P.146)

ディスプレイ 1 の解像度	ディスプレイ 2 の解像度
800 × 600	800 × 600
	1024 × 768
	1280 × 1024
	1600 × 1200
1024 × 768	800 × 600
	1024 × 768
	1280 × 1024
	1600 × 1200
1280 × 1024 *1	800 × 600
	1024 × 768
	1280 × 1024
	1600 × 1200
1400 × 1050 *1、2	800 × 600
	1024 × 768
	1280 × 1024
	1600 × 1200

*1: 15 型 SXGA+ モデルのみ使用できます。
*2: 本体ディスプレイのみ使用できます。外付けディスプレイでこの解像度は使用できません。

●外付けディスプレイのみ表示の場合

外付けディスプレイのみに表示させる場合の解像度は、次の組み合わせに従って設定してください。各ディスプレイのサポートする解像度以上には設定しないでください。

参照

・ 解像度の変更方法について→「ディスプレイの表示を変える」(P.146)

解像度	画面の色 *1
800 × 600	中（16 ビット）
	最高（32 ビット）
1024 × 768	中（16 ビット）
	最高（32 ビット）
1280 × 1024	中（16 ビット）
	最高（32 ビット）
1600 × 1200	中（16 ビット）
	最高（32 ビット）

*1: 中（16 ビット）は 65536 色、最高（32 ビット）は 1677 万色です。ただし、ディスプレイによっては、最高（32 ビット）に設定しても実際は 1677 万色以下になります。

その他の周辺機器を接続する

通常、プラグアンドプレイ機能に対応している周辺機器を接続したとき、自動的に Windows が環境を設定します。プラグアンドプレイ機能に対応していない周辺機器を接続する場合は、[ハードウェアの追加ウィザード] を使って手動で環境を設定します。
[ハードウェアの追加ウィザード] を使う前に、周辺機器に付属のマニュアルを良くお読みください。付属マニュアルに操作手順が記載されている場合は、そちらの手順を行ってください。

ヒント

・ メモリーの増設では、環境を設定する必要はありません。

参照

・ 周辺機器の取り付け･取り外しについては、この章や周辺機器に付属のマニュアルをご参照ください。

1　パソコンの電源を切る。

2　電源プラグをコンセントから抜き、周辺機器を接続する。

ヒント

・ USB 機器のように、パソコンの電源が入ったままでも接続できる周辺機器もあります。

3　必要に応じて、周辺機器の電源を入れる。

4　パソコンの電源を入れる。

5　[スタート] ボタン－ [コントロール パネル] をクリックして、[コントロール パネル] 画面を開き、[ハードウェアの追加] アイコンをダブルクリックする。

[ハードウェアの追加ウィザード] が表示される。

6　手順に従い、[次へ] ボタンをクリックする。

新しい周辺機器の検出が始まる。

7　しばらくすると、「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました」と表示される。

ヒント

・ メッセージが表示されず、増設した周辺機器が見つからない場合があります。[次へ] ボタンをクリックし、周辺機器に付属のマニュアルを参照するなどして手動で設定してください。

8　[完了] ボタンをクリックする。

検出された周辺機器のドライバーがインストールされる。

7 章　パソコンを拡張するときは

この章では、パソコンの内部にメモリーボードを追加する方法について説明します。

内蔵周辺機器の増設

パソコン内部にメモリーボードを増設するには、メモリーボードカバーを取り外します。

・ パソコン外部に接続できる周辺機器もあります。

参照

・ 詳細について→「6 章　パソコンに機器を接続する」(P.83)

作業時の注意点

内蔵周辺機器の増設には細心の注意を払ってください。
特に、次の点は必ずお守りください。

⚠警告

●周辺機器の増設や接続

周辺機器を増設・接続するときは、電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーパックが付いているときはバッテリーパックを外してください。マニュアルの説明に従い、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器を使用してください。それ以外の周辺機器を使用すると、接続仕様の違いによる周辺機器やパソコンの故障から発煙、発火、火災や故障の原因になります。

●カバーの取り外し

・ メモリーを増設する場合などにカバーを取り外すときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。パソコンの電源を切っても、一部の回路には、通電しているため、思わぬ接触など作業の不具合発生時に故障や劣化による火災の原因になります。またバッテリーパックを取り付けているときは、バッテリーパックも取り外してください。
・ 内部にネジなどの異物を入れないようにしてください。発煙、発火の原因になります。
・ パソコンを立ち上げるときは、必ずカバーを閉じてから立ち上げてください。
・ メモリーボードソケット以外には触れないでください。

⚠注意

●パソコン内が冷えるまで待つ

電源を切った直後は、カバーや内部の部品が熱くなっています。約 30 分、時間をおいてから行ってください。やけどの原因になります。

●綿手袋を着用する

パソコン内部に触れたり、メモリーボードに触れるときは綿手袋を着用してください。素手で触れると故障の原因になります。また、手にけがをするおそれがあります。

注意

●体から静電気を逃がしておく
パソコンやメモリーボードは精密機器です。わずかな静電気も故障の原因になります。あらかじめ金属に触れるなどして、体から静電気を逃がしておいてください。

●メモリーボードに力を加えない
メモリーボードは精密機器です。わずかな力が加わるだけでも故障の原因になります。メモリーボードに応力が加わらないよう、取り扱いに注意してください。

メモリーボードを取り付ける

メモリーボードを増設すると、メモリー容量を増やすことができます。最大 1024MB まで増設できます。

参照

・　メモリーボード以外の周辺機器の接続→「周辺機器接続時に必要な設定」(P.94)

メモリーボードとメモリーボードソケットの組み合わせかた

重要

・　純正品以外のメモリーボードを取り付けないでください。正常に動作しない場合があります。

参照

・　メモリーボードの仕様について→「メモリーボードの仕様」(P.130)

メモリーボードは、この表の組み合わせに従って増設してください。

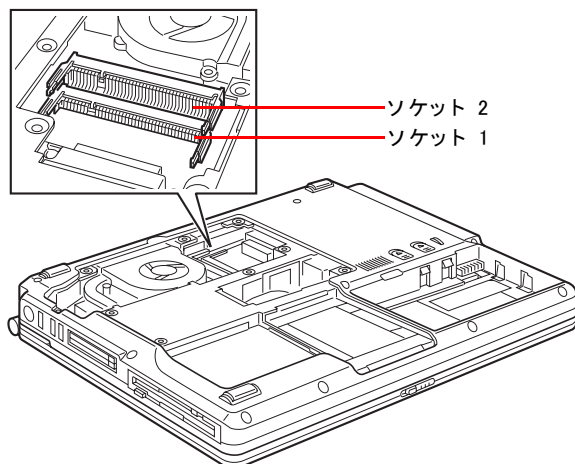
ヒント

・　メモリーを増設する場合に空きソケットがないときは、先に取り付けられているメモリーボードを取り外してください。

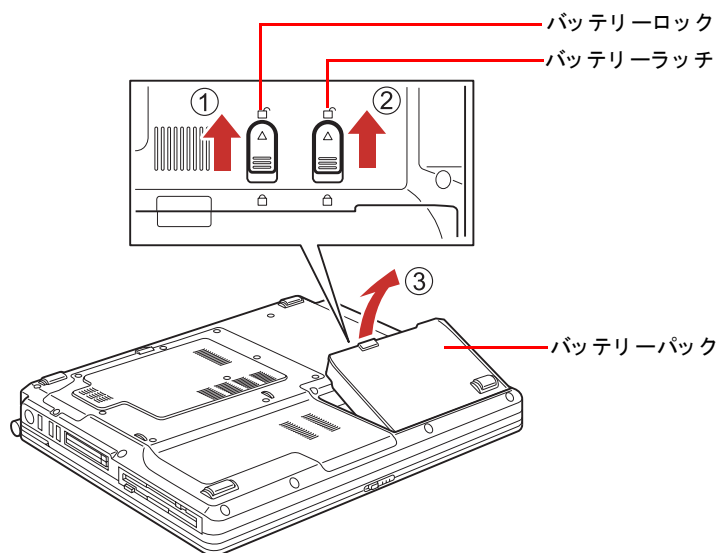
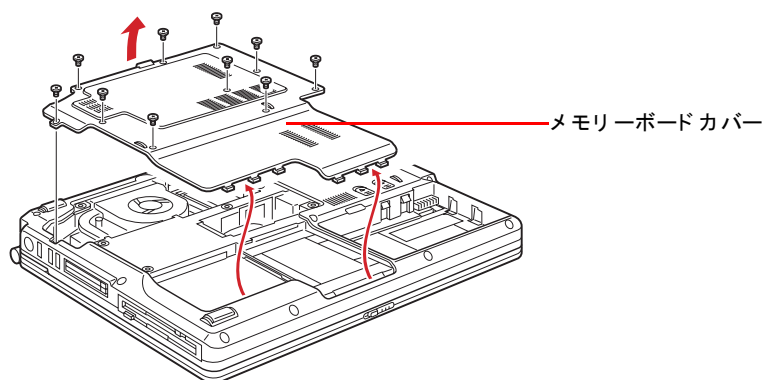
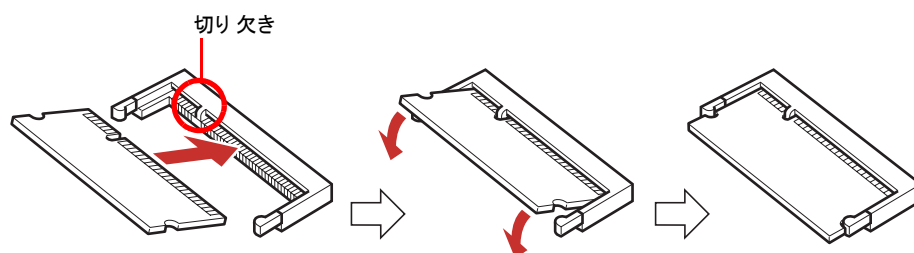
参照

・　メモリーボードを取り外す方法について→「取り外し手順」(P.114)

総メモリー容量 *1	ソケット 1	ソケット 2
256MB	256MB	―
512MB	256MB	256MB
512MB	512MB	―
768MB	256MB	512MB
	512MB	256MB
1024MB	512MB	512MB

＊ 1:[システムのプロパティ] の [全般] タブで確認できます。ただし、一部をビデオメモリーに使用するために、実際の容量よりも少なく表示されます。

取り付け手順

1 **パソコンの電源を切り、AC アダプターをパソコンから取り外してパソコンを裏返す。**

2 **バッテリーロックを矢印方向へスライドし（①）、バッテリーラッチをスライドさせたまま（②）、バッテリーパックを取り外す。（③）**

3　ネジをゆるめ、メモリーボードカバーを取り外す。

4　メモリーボードの切り欠きがソケットに合うようにしっかり取り付ける。

重要

・ メモリーボードは確実にロックしてください。メモリーが正しく増設されません。また、パソコン誤動作の原因となります。なお、誤った取り付け方をしたために発生した破損などについての修理は有償となります。あらかじめご了承ください。

5　カバーを取り付け、ネジを締める。

6　バッテリーパックを取り付ける。

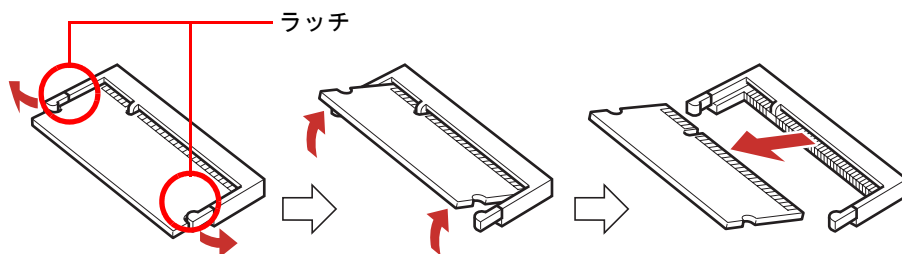
参照

・ バッテリーパックの取り付けについて→「パソコンを接続しよう」(P.47)

取り外し手順

メモリーボードの取り外し手順を説明します。

1 **取り付け手順 1 〜 3 を行い、メモリーボードカバーを取り外す。**

2 **ソケットの両端にあるラッチを外側に押し広げ、メモリーボードを取り外す。**

3 **カバーを取り付け、ネジを締める。**

8 章　日常のお手入れ

この章では、パソコンの各部分のお手入れについて説明します。

お手入れ

ここではパソコンや周辺機器のお手入れについて説明します。
パソコンのお手入れをするときは、パソコンの電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いてから行ってください。またバッテリーパックを取り付けているときは、バッテリーパックも取り外してください。

重要

・ シンナーやベンジン、化学雑巾は使わないでください。パソコンの表面が変質するおそれがあります。

パソコン

・パソコンが汚れたときは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れがひどいときは、水か中性洗剤で湿らせた布を固く絞って拭くか、オフィスクリーナーなど、市販の専用クリーナーをお使いください。
・ご使用になる環境によっては、本体底面の通気孔にほこりがたまり、故障などの原因となることがあります。定期的に清掃してください。ほこりは、綿棒などで取り除いてください。

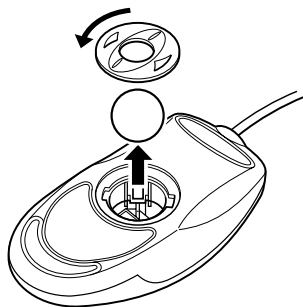
重要

・ 専用クリーナーは、パソコンショップなどでご購入ください。

マウス

1～3カ月に1回はマウスをクリーニングすることをお勧めします。ボールにゴミが付着するなどして正しく動かないときは、クリーニングをしてください。

クリーニング手順

1 **マウス底面の中央にあるフタを図のように反時計回りに回す。**
カバーを外して、中のボールを取り出す。

2 **中性洗剤を薄めた水でボールを洗う。**

ヒント

- ボールは中性洗剤を薄めた水で洗ってください。漂白剤、シンナー、ワックス、クリーム、油剤などは使用しないでください。
- 化学雑巾やワックスが付いた布でボールを拭かないでください。ワックスなどの皮膜が付着するとボールがスリップする原因になります。

3 **乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾燥させる。**

4 **乾いた布でマウスの内部や、内部のローラーのゴミやほこりを取り除く。**

5 **マウスにボールを入れ、取り外したときと逆の手順で、カバーを取り付ける。**

FDD

FDD は長期間使用しているとヘッドが汚れ、データを読み書きする際にエラーが発生しやすくなります。1 ～ 3 カ月に 1 回は市販のクリーニングキットでクリーニングをすることをお勧めします。クリーニングの方法については、クリーニングキット付属のマニュアルをご参照ください。付属のマニュアルがない場合は、次の手順を行ってください。

ヒント

- クリーニングキットは乾式･湿式両方とも使用できます。
- クリーニングキットは、パソコンショップなどでご購入ください。

クリーニング手順

1 **[スタート] ボタン－ [すべてのプログラム] － [アクセサリ] － [コマンド プロンプト] をクリックする。**

[コマンド プロンプト] 画面が表示される。

2 **クリーニングディスクを FDD に挿入する。**

3 **クリーニングするドライブに対して、dir と半角で入力し、[Enter] キーを押す。**

エラーが表示される。

ヒント

- クリーニングするドライブのドライブ文字が (A) の場合、入力は「dir A:」になります。

4 **手順 3 に戻り、これを 4、5 回繰り返す。**

5 **exit と半角で入力し、[Enter] キーを押す。**

画面が消える。

ほこりなどでデータ読み込み時にエラーが頻繁に発生する場合は、カメラ用のブロアーなどでほこりなどを吹き飛ばすようにして、クリーニングしてください。

重要

・ クリーニングディスクやクリーニング液を使用する湿式レンズクリーナーは、使用しないでください。ドライブ内部のレンズを傷つける原因になります。

ヒント

・ ブロアーは、カメラ店やパソコンショップなどでご購入ください。

9 章　技術情報

この章では、パソコンの仕様およびシステム構成について説明します。

パソコン仕様一覧

形名		270W MF1		
CPU(ヒント 1)、(重要 1)		インテル® Core™ Duo プロセッサー T2500	インテル® Core™ Duo プロセッサー T2300E	インテル® Celeron® M プロセッサー 430
		2.00GHz	1.66GHz	1.73GHz
システムバスクロック		667MHz		533MHz
キャッシュメモリー	1 次	64KB(命令用 32KB ＋データ用 32KB)		
	2 次	2MB(CPU 内蔵)		1MB(CPU 内蔵)
チップセット		ATI 社製 RADEON XPRESS 200M/IXP460 チップセット		
RAM	メモリー (ヒント 1、2)	256 ～ 1024MB		
	ビデオメモリー (ヒント 3)	標準 32MB(64MB、128MB に変更可能、メモリーと共用)		
ディスプレイ (ヒント 1)		15 型 TFT(最大 1400 × 1050) ／ 15 型 TFT(最大 1024 × 768)		
グラフィック (ヒント 1、4)	800 × 600 ドット時	65536 色 /1677 万色		
	1024 × 768 ドット時	65536 色 /1677 万色		
	1280 × 1024 ドット時	65536 色 /1677 万色		
	1400 × 1050 ドット時	65536 色 /1677 万色		
	1600 × 1200 ドット時	65536 色 /1677 万色		
FDD ベイ		3.5 型× 1(3 モード FDD 互換)		
HDD(ヒント 1、5)		約 40GB ／ 80GB		
CD/DVD ドライブ (ヒント 1)		CD-ROM ／ DVD-ROM&CD-R/RW ／ DVD スーパーマルチ		
カレンダー時計 (重要 2)		年月日、時分秒を刻時、刻時誤差± 180 秒 / 月		
スピーカー		2 個　ステレオ		
バックライト		冷陰極蛍光灯　 1 灯		
キーボード		87 キー		
ポインティングパッド		静電式ポインティングパッド		
バッテリー (ヒント 1)		リチウムイオン標準バッテリーパック／ リチウムイオン大容量バッテリーパック		

形名		270W MF1		
インタフェースコネクター	プリンター	1 個　IEEE1284 準拠、SPP(双方向／ ECP)		
	マイク入力 (重要 3)	1 個　ステレオミニジャック 入力インピーダンス 47kΩ(Typ.)		
	ライン出力 / ヘッドホン	1 個　ステレオミニジャック 適合インピーダンス 5Ω(Typ.)		
	USB	4 個 (USB2.0 対応) 許容電流　500mA 以下 / 個		
	モデム (ヒント 1)、(重要 4)	なし／ 1 個：DATA 最大 56Kbps(Ver.90)		
	LAN	1 個 IEEE802.3 規格準拠、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T、 オートネゴシエーション機能		
	マウス / テンキーボード (ヒント 6)	1 個		
	ディスプレイ	1 個		
	シリアル	1 個　PC-97 準拠、9 ピン		
PC カードスロット (ヒント 7)		TypeII × 2 または TypeIII × 1 PC Card Standard (JEIDA Ver.4.2) 準拠、CardBus 対応		
無線 LAN (ヒント 1)、(重要 5)		なし／ IEEE802.11a(J52/W52/W53)/b/g 準拠、 通信速度 最大 54Mbps(理論値) (11a：34/36/38/40/42/44/46/48/52/56/60/64ch、 11b：1ch ～ 13ch、11g：1ch ～ 13ch)		
Security Chip		Infineon SLB9635 TT V1.2		
電源	周波数	50/60Hz		
	入力電圧	AC100V ± 10%		
消費電力 (ヒント 8)	定常	約 23W		約 27W
	最大	65W		
	スタンバイ時	約 1.2W		
省エネ法に基づく表示 (2007 年度)	区分	I		
	エネルギー消費効率 (ヒント 9)	0.00084	0.00088	0.00200
外形寸法 (ヒント 10)		329mm(W) × 279mm(D) × 37.4 ～ 42.9mm(H)		
質量 (ヒント 11)		約 3.0kg		
周囲温度	動作時 (重要 6)	5 ～ 35 ℃		
	非動作時	－ 10 ～ 43 ℃		
	保存および輸送時	－ 10 ～ 60 ℃		

形名		270W MF1
周囲湿度	動作時 (重要 6)	20 ～ 80%Rh(結露しないこと)
	非動作時	20 ～ 80%Rh(結露しないこと)
	保存および 輸送時	20 ～ 80%Rh(結露しないこと)
	最大湿球温度	25 ℃

ヒント

- 1：ご購入時の選択により異なります。
- 2：Windows の「システムのプロパティ」でメモリー容量を確認すると、実際の容量より小さく見えることがあります。
- 3：BIOS メニューにより、容量（32、64、128MB）に変更可能です。ただし搭載されるメモリーの容量が 256、512MB の場合は 128MB には変更できません。出荷時設定は搭載されるメモリーの容量により異なり、256 ～ 768MB 搭載時は 32MB、1024MB 搭載時は 128MB となります。また、メモリーが 1024MB の場合は、128MB に固定されます。
- 4：液晶ディスプレイでは、1677 万色はディザリング表示になります。65536 色は中 (16 ビット)、1677 万色は最高 (32 ビット) です。
- 5：電源を切ると、HDD のヘッドは自動的に退避ゾーンに移動します。HDD の容量は、$1GB=10^9$ バイトで計算した場合の数値を表しています。
- 6：PS/2 マウスを使用される場合は、ホイールマウスドライバーをインストールすることをお勧めします。
- 7：12V 電源を必要とする PC カードは使用できません。
- 8：パソコンを使用しないときは、電源を切り、AC アダプターのプラグをコンセントから抜かれることをお勧めします。待機時の消費電力を低減できます。
- 9：エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を、省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
- 10：突起部を除いた値です。
- 11：標準バッテリーパック、CD-ROM ドライブ実装時の質量です。

参照

- メモリーボードの詳細について→「メモリーボードとメモリーボードソケットの組み合わせかた」(P.111)

ヒント

- KB と kB の記載の単位は、K:1024、$k:10^3$ で換算しています。

重要

- 1：エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能およびバーチャライゼーションテクノロジー機能はサポートしていません。
- 2：刻時誤差は、リアルタイムクロックの数値です。Windows の時間とずれることがあります。
- 3：プラグインパワーには対応しておりません。
- 4：56Kbps は、データ受信時の最大速度の理論値です。内蔵モデムは日本国内専用です。海外では使用できません。
- 5：内蔵無線 LAN は、日本の電波法に基づき設計されています。海外で使用すると、罰せられる場合があります。
  IEEE802.11a の規格による通信は、電波法により屋外での使用が禁じられています。(屋内のみ使用可能です。)
  内蔵無線 LAN のアドホック通信接続は、サポートしていません。
  最大速度 54Mbps は、IEEE802.11a/g 規格の理論値です。実際の通信速度とは異なります。
  本製品に搭載している内蔵無線 LAN の IEEE802.11a は、2005 年 5 月の省令改正後の仕様 (J52/W52/ W53) に準拠しています。対応チャンネルは 34、36、38、40、42、44、46、48、52、56、60、64ch です。
  表示ロゴは、次のようになります。

  IEEE802.11b/g
  IEEE802.11a
  J52 W52 W53
- 6：長時間の非動作時から動作させる場合は、周囲の温度や湿度になじむまで時間を置いてから立ち上げてください。

ドライブとディスクの仕様

CD-ROM ドライブの仕様

項目	仕様
読み込み速度 ＊	最大 24 倍速
インタフェース	ATAPI
データ転送速度 (I/F 上)	最大 33MB/s(Ultra DMA mode2)
平均アクセスタイム	130ms
バッファーメモリー	96KB
ローディング方式	トレイローディング
読み込み可能ディスク	CD-ROM、CD-R、CD-RW
対応フォーマット	CD-DA、CD-ROM(mode1、mode2)、CD-ROM XA(mode2 の Form1、Form2)、CD-I(mode2 の Form1、Form2)、CD-I Bridge(Photo CD、Viedeo CD)、CD-I Ready マルチセッション (Photo CD、CD-Extra)、CD-R、CD-RW

＊ ディスクの回転振動が大きい場合や高速での読み込みが困難な場合は、自動で回転速度を落とします。

重要

・ 使用するディスクによって、専用ソフトが必要です。
・ CD-R/RW は、使用する条件によって正しく読み込めないことがあります。
・ 損傷したディスクを使用すると、ドライブ内部でディスクが破損する場合があります。ディスクに損傷がないことを確認し使用してください。

DVD-ROM&CD-R/RW ドライブの仕様

項目	仕様
読み込み速度 ＊	CD-ROM/R/RW：最大 24 倍速、DVD-ROM：最大 8 倍速、 DVD ± R：最大 8 倍速、DVD ± RW：最大 8 倍速、 DVD-RAM：最大 5 倍速
書き込み速度	CD-R：最大 24 倍速、CD-RW：最大 4 倍速、 High Speed CD-RW：最大 10 倍速、 Ultra Speed CD-RW：最大 24 倍速
インタフェース	ATAPI
データ転送速度 (I/F 上)	最大 33MB/s(Ultra DMA mode2)
平均アクセスタイム	DVD-ROM：110ms CD-ROM　：90ms
バッファーメモリー	2MB
バッファーアンダーラン エラー防止機能	あり
ローディング方式	トレイローディング
読み込み可能ディスク	CD-ROM、CD-R、CD-RW、High Speed CD-RW、 Ultra Speed CD-RW、DVD-ROM、DVD-R、DVD-RW、 DVD-RAM、DVD+R、DVD+RW
書き込み可能ディスク	CD-R、CD-RW、High Speed CD-RW、Ultra Speed CD-RW
対応フォーマット	CD-DA、CD-ROM、CD-R、CD-RW、CD-ROM XA、 Photo CD(マルチセッション)、Video CD、CD-Text、 DVD-ROM、DVD-Video、DVD-RAM(2.6GB/4.7GB)、DVD-R、 DVD-RW(Ver.1.1)、DVD+R、DVD+RW
推奨ディスク	CD-R：太陽誘電製、三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製 CD-RW：三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製 High Speed CD-RW：三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製 Ultra Speed CD-RW：三菱化学メディア製

＊ ディスクの回転振動が大きい場合や高速での読み込みが困難な場合は、自動で回転速度を落とします。

重 要

・ 使用するディスクによって、専用ソフトが必要です。
・ CD-R/RW は、使用する条件によって正しく読み込めないことがあります。
・ 推奨ディスク以外のディスクを使用すると書き込みエラーが発生することがあります。

DVD スーパーマルチドライブ (DVD ± R 2 層書き込み対応) の仕様

項目	仕様
読み込み速度 ＊	CD-ROM/R：最大 24 倍速、CD-RW：最大 24 倍速、DVD-ROM：最大 8 倍速、DVD ± R：最大 8 倍速、DVD-RW：最大 6 倍速、DVD+RW：最大 8 倍速、DVD-RAM：最大 5 倍速、DVD ± R DL：最大 6 倍速
書き込み速度	CD-R：最大 24 倍速、CD-RW：最大 4 倍速、Ultra Speed CD-RW：最大 16 倍速、High Speed CD-RW：最大 10 倍速、DVD ± R：最大 8 倍速、DVD-RW：最大 6 倍速、DVD+RW：最大 8 倍速、DVD-RAM：最大 5 倍速、DVD ± R DL：最大 4 倍速
インタフェース	ATAPI
データ転送速度 (I/F 上)	最大 33.3MB/sec
平均アクセスタイム	DVD-ROM：180msec CD-ROM　：150msec
バッファーメモリー	2MB
ローディング方式	トレイローディング
読み込み可能ディスク	CD-ROM、CD-R/RW、DVD-ROM、DVD-R/RW、DVD-RAM、DVD+R/RW、DVD ± R DL
書き込み可能ディスク	CD-R/RW、DVD-R(4.7GB)、DVD-RW(Ver.1.1)、DVD-RAM(4.7GB)、DVD+R/RW、DVD ± R DL
対応フォーマット	CD-DA(オーディオ CD)、CD-ROM(mode1、mode2)、CD-ROM XA(mode2 の Form1、Form2)、CD-R/RW、Photo CD(シングル / マルチセッション)、Video CD、CD Extra(CD+)、CD-TEXT、DVD-ROM、DVD-R(3.9GB/4.7GB)、DVD-VIDEO、DVD-RW(Ver.1.1)、DVD-RAM(2.6GB/4.7GB)、DVD+R(4.7GB)、DVD+RW、DVD ± R DL

項目	仕様
推奨ディスク	CD-R：太陽誘電製、三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製 CD-RW：三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製 High Speed CD-RW：三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製 Ultra Speed CD-RW：三菱化学メディア製 DVD-R(4 倍速)：松下電器産業製、太陽誘電製、三菱化学メディア製、日立マクセル製 DVD-R(8 倍速)：太陽誘電製、三菱化学メディア製、日立マクセル製 DVD-R(16 倍速)：太陽誘電製、三菱化学メディア製、日立マクセル製 DVD-RW(2 倍速)：日本ビクター製、三菱化学メディア製、日立マクセル製 DVD-RW(4 倍速)：日本ビクター製、三菱化学メディア製、日立マクセル製 DVD-RW(6 倍速)：日本ビクター製、三菱化学メディア製、日立マクセル製 DVD-RAM(3 倍速)：松下電器産業製、日立マクセル製 DVD-RAM(5 倍速)：松下電器産業製、日立マクセル製 DVD+R(4 倍速)：三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製 DVD+R(8 倍速)：三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製 DVD+R(16 倍速)：三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製 DVD+RW(4 倍速)：三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製 DVD+RW(8 倍速)：三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製 DVD+R DL(2.4 倍速)：三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製 DVD+R DL(8 倍速)：三菱化学メディア製、リコー製 DVD-R DL(4 倍速)：三菱化学メディア製 DVD-R DL(8 倍速)：三菱化学メディア製

＊ ディスクの回転振動が大きい場合や高速での読み込みが困難な場合は、自動で回転速度を落とします。

重要

- ディスクをドライブに入れてすぐのときに、"Not Ready" など、準備ができていないことを示すエラーメッセージが表示される場合があります。このときはしばらくお待ちください。
- ディスクは、使用する条件によって正しく読み込めないことがあります。
- 推奨ディスク以外のディスクを使用すると、書き込みエラーが発生することがあります。
- ディスク以外の異物を入れないでください。コイン、クリップなどの金属物や、コーヒーなどの異物が混入すると、故障の原因となりますのでご注意ください。
- DVD+R DL のディスクへデータを書き込み、DVD+R DL 未対応のドライブで読み込むと、書き込みしたデータが読み込めないことがあります。
- 本ドライブで記録した DVD ± R DL のディスクは、ほかのドライブで読めないことがあります。
- 損傷したディスクを使用すると、ドライブ内部でディスクが破損する場合があります。ディスクに損傷がないことを確認し、使用してください。
- DVD-RAM(12 倍速) のディスクへの書き込みはできません。読み込みのみ可能です。

FD の仕様

重要

- 特殊なフォーマットの FD は使用できないことがあります。
- 弊社製以外のパソコンでフォーマットした FD は、読み書きができないことがあります。
- 1.25MB の FD はフォーマットできません。

2HD

容量	1.44MB	1.25MB
トラック数／面	80	77
セクター長 (バイト)	512	1024
セクター数／アロケーションユニット	1	1
リザーブセクター数	1	1
FAT 数	2	2
ルートディレクトリー登録総数	224	192
総セクター数	2880	1232
メディア･ディスクリプタバイト	F0	FE
セクター数／ FAT	9	2
セクター数／トラック	18	8
ヘッド数	2	2
隠しセクター	0	0
動作	R/W/F/B ＊	R/W ＊

＊ 意味は次のとおりです。R：読み込み可能、W：書き込み可能、F：フォーマット可能、B：FD にシステムがある場合、その FD からのパソコンの立ち上げ可能

2DD

容量	720KB
トラック数／面	80
セクター長 (バイト)	512
セクター数／アロケーションユニット	2
リザーブセクター数	1
FAT 数	2
ルートディレクトリー登録総数	112
総セクター数	1440
メディア･ディスクリプタバイト	F9
セクター数／ FAT	3
セクター数／トラック	9
ヘッド数	2
隠しセクター	0
動作	R/W/F/B ＊

＊ 意味は次のとおりです。R：読み込み可能、W：書き込み可能、F：フォーマット可能、B：FD にシステムがある場合、その FD からのパソコンの立ち上げ可能

ドライブの使用について

CD/DVD ドライブ、FDD ドライブ (以下、まとめてドライブ) と、それらのディスクの使用について説明します。

ドライブの取り扱い

・ドライブ使用中に振動を与えないでください。データを正しく読み込めないことがあります。
・パソコンの電源を切るときは、必ずディスクを取り出してからにしてください。ディスクを内蔵ドライブに入れたまま誤ってパソコンの電源を切ったときは、再び電源を入れて取り出してください。
・ディスク強制イジェクトスイッチを使うときは、内蔵ドライブの内部に異物が入らないようにしてください。
・ディスクが偏重心している場合 (ラベルをはっている場合など)、ドライブの振動が通常より大きくなることや、読み込みスピードが遅くなることがあります。
・パソコンの電源を切ったり、ソフトウェアリセット ([Ctrl] キーと [Alt] キーを押したまま [Delete] キーを押す) を行うときは、ドライブのアクセスランプが消えてから行ってください。
・ドライブのアクセスランプの点灯、点滅中に電源を切ったり、ソフトウェアリセットを行うと、ドライブが壊れることがあります。
・ドライブは、5 ～ 35 ℃の温度環境で使用できますが、長くお使いいただくためには 30 ℃以下の場所でお使いください。
・ドライブの使用中に強い衝撃を与えないでください。
・ディスクを入れたり取り出したりするとき以外に、ドライブのトレイを開けないでください。
・トレイの中に異物を入れないでください。ドライブが破損し、故障の原因になります。
・DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ内蔵パソコン、DVD スーパーマルチドライブ内蔵パソコンの場合、CD-R/RW や DVD-R/RW などに書き込み中に傷や汚れを検出した場合、書き込みを中断することがあります。
・FDD など、データの転送速度が遅いディスクドライブから CD-R や CD-RW に書き込みを行うときは、テスト書き込みを行ってください。
・DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ内蔵パソコン、DVD スーパーマルチドライブ内蔵パソコンの場合、CD-R/RW や DVD-R/RW にデータを書き込む時は、ほかのアプリケーションを終了してください。書き込み中も、ほかのアプリケーションを立ち上げないでください。データが壊れることがあります。
・WAVE ファイル、AVI ファイルなどの音声を再生中に、FD に書き込み、読み込みを行うと音声が繰り返して再生されることがあります。
・コマンドプロンプトで、1.25MB の FD は使用できません。Windows でお使いください。
・FDD の場合、未フォーマットなどのディスクに対してアクセスを行うと、ディスクを認識するまでに時間がかかります。このため、フォーマットに時間がかかることがあります。動作は正常ですのでしばらくお待ちください。
・トレイの開閉は勢いよくすると、HDD の故障の原因となります。ゆっくり開閉してください。
・DVD+R DL のディスクへデータを書き込み、DVD+R DL 未対応のドライブで読み込むと、書き込みしたデータが読み込めないことがあります。

ディスクの取り扱い

・ディスクをお手入れするときは、乾いた柔らかい布でディスクの中心から外周に向けて放射状に拭いてください。このとき、ベンジン、シンナー、水、レコードクリーナー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
・ディスクからゴミや水分を取り除くのにドライヤーは使わないでください。
・ディスクは高温な場所に保管しないでください。
・ディスクを折ったり曲げたりしないでください。
・ディスクに字を書いたり傷を付けないでください。
・ディスクにラベルなどをはると、ドライブ内での回転が不安定になり故障の原因になります。
・お子様がディスクを傷つけたりしないよう、ディスクはお子様の手の届かないところに保管してください。
・CD-RW、DVD-RW、DVD+RW の書き換え可能回数は 1000 回です。1000 回以上使用した場合は、書き込みエラーが発生することがあります。

DVD-RAM ディスクの取り扱い

・DVD-Video の再生は添付の再生ソフトをインストールしてから行ってください。
・UDF フォーマットした DVD-RAM に [コマンドプロンプト] の chkdsk コマンドあるいは [マイコンピュータ] や [エクスプローラ] の [エラーチェック] は使用できません。
・Windows が動いている間に DVD-RAM/R ドライブのイジェクトボタンを押しても DVD-RAM を取り出すことができない場合があります。その場合、[マイコンピュータ] や [エクスプローラ] を使用します。デバイスにマウスカーソルを置いて、マウスの右ボタンをクリックし、メニューの [取り出し] をクリックします。ただし、この操作は Administrators グループに登録されていないメンバーは実行できません。
・DVD-RAM にアクセス中に [スタンバイ]、[休止状態] に入った場合、復帰前に DVD-RAM の取り出し、交換は行わないでください。復帰後、アクセスがエラー終了し、書き込み中のデータが失われたり、システムの動作が不安定になる場合があります。

FD の取り扱い

・FD のシャッター部は開けないでください。内部の磁性面が汚れると使えなくなります。
・磁石やスピーカーなどの強い磁界を発生するものに FD を近づけると、記録したデータが消去するおそれがあります。
・FD は次のような場所に保管してください。
　保管温度：4 ℃～ 53 ℃
　保管湿度：10 ～ 90%Rh(結露しないこと)
　最大湿球温度：25 ℃
・FD ラベルは正しい位置にはってください。ラベルを替えるときは、重ねばりをしないでください。
・FD は消耗品です。同じ FD を長期間使用しないでください。
・大切なデータは必ずバックアップを取ってください。また、バックアップ FD はバックアップ以外の目的に使わないでください。

その他の周辺機器の仕様

ここでは、メモリーボード、バッテリーパック、マウス、テンキーボード、内蔵無線 LAN、AC アダプターの仕様について説明します。

ヒント

・ 周辺機器の使用環境はパソコンと同じです。

メモリーボードの仕様

項目	仕様	
形名	MK7274	MK7527
容量	256MB	512MB
パリティ	なし	
DRAM タイプ	DDR2-533 SDRAM、PC2-4200	
DIMM タイプ	SO-DIMM 200 ピン	
電源電圧	1.8V	

バッテリーパックの仕様

項目	仕様	
形名	AB8100	AB8110
容量	2400mAh	4400mAh
出力電圧	14.8V	
充放電回数	約 300 回	
外形寸法	140mm(W) × 87mm(D) × 21mm(H)	
質量	約 260g	約 430g

ヒント

・ 外形寸法の値は、突起部を含みます。

バッテリーの使用について

・お買い上げ直後、または長時間バッテリーを使わなかった場合、満充電にしても使用可能時間が短いことがあります。放電 (使用) と充電を数回繰り返すと元の使用可能時間に戻ります。
・バッテリーパックには寿命があります。使用可能時間が短くなってきたら、新品と交換してください。

マウスの仕様

項目	仕様	
形名	KM5500	KM5451
外形寸法	62mm(W) × 116mm(D) × 38mm(H)	61mm(W) × 104mm(D) × 37mm(H)
質量	約 115g	約 100g
ケーブル長	約 1000mm	
インタフェース	USB 準拠	

テンキーボードの仕様

項目	仕様
形名	KB3600
外形寸法	85.5mm(W) × 140mm(D) × 32mm(H)
質量	約 225g
ケーブル長	約 800mm
インタフェース	USB 準拠

重 要

- Excel(R) 2003 を立ち上げたあと、テンキーボードから最初に“－”（マイナス）を入力しないでください。文字入力ができなくなります。

内蔵無線 LAN の仕様

項目	IEEE802.11a (J52/W52/W53)	IEEE802.11g	IEEE802.11b
通信速度 (理論値)	最大 54Mbps		最大 11Mbps
実効通信速度	最大約 15Mbps		最大約 4Mbps
周波数帯	5.150 ～ 5.350GHz	2.400 ～ 2.484GHz	
使用可能チャンネル	34/36/38/40/42/44/46/48/52/56/60/64ch	1 ～ 13ch	
暗号化機能 (WEP)	対応ビット数：64bit(40bit) ／ 128bit(104bit) WEP キー：16 進数／ ASCII コード		

重 要

- 内蔵無線 LAN は、IEEE802.11a/b/g に準拠しています。
- 無線 LAN は日本国内の法律に基づいて開発されています。海外で使用すると罰せられる場合があります。
- 内蔵無線 LAN のアドホック通信は、サポートしていません。
- 実効通信速度は、電波状況や無線 LAN 端末の数などによって低下することがあります。

AC アダプターの仕様

項目	仕様
形名	AP7900
入力電圧	AC100V、50/60Hz
出力電圧	DC19V(～ 3.42A)
外形寸法	46mm(W) × 108mm(D) × 29.5mm(H)
質量	約 240g
ケーブル長	約 1800mm

ヒント

・ AC アダプターの質量には、電源コードの質量は含まれていません。

有寿命部品

パソコンの部品は、長期間使用しているうちに劣化、磨耗します。次の部品は、一定周期で交換してください。これらは有償です。ご購入については、お買い求め先にご連絡ください。
なお、交換した部品は、パソコン購入時の部品と仕様が異なる場合があります。

品 名	備 考
HDD ユニット	*1
CD-ROM ドライブ	*3
DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ	*3
DVD スーパーマルチドライブ	*3
液晶ディスプレイ	*1、4
キーボード	*1
マウス	*2
ファン	*1
AC アダプター	*1、7
バッテリーパック	*5
リチウム電池	*6
メインボード	*1

*1 事務室で 1 日に 8 時間、1 カ月で 25 日間、通常に使用すると想定した場合、寿命は約 5 年です。したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。
*2 事務室で 1 日に 8 時間、1 カ月で 25 日間、通常に使用すると想定し、定期的にクリーニングして、清潔に保った場合、寿命は約 5 年です。したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。
*3 事務室で 1 日に 1.3 時間、1 カ月で 25 日間、データを読み込むと想定した場合、寿命は約 5 年です。したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。
*4 明るさがご購入時の約 1/2 に低下したときを寿命とします。
*5 寿命は約 300 サイクルです。または、通常の事務環境で過充電せず定期的に完全放電した場合は、約 1 年です。過放電したり、負担のかかる使い方をすると、寿命は短くなります。
*6 寿命は約 5 年です。
*7 使用しているアルミ電解コンデンサーは寿命のある部品です。

⚠注意

・ アルミ電解コンデンサーについて
このパソコンや AC アダプターに使用されているアルミ電解コンデンサーは有寿命部品です。設計寿命は、1 日に 8 時間、1ヶ月で 25 日間使用で約 5 年です。寿命になると、電解液の漏れや枯渇が生じます。特に AC アダプターでの電解液の漏れは、発煙・感電の原因になることがあります。これらの危険を避けるために、設計寿命を超えて使用する場合は、有寿命部品単位で交換してください。また、業務用など昼夜連続運転相当では 5 年より寿命は短くなります。

オプション一覧表

パソコンに増設または接続できるオプションを次に示します。

オプション機器は随時、生産中止、新製品発表などがありますのでご購入の際は、営業などにお問い合わせください。

分類	品名	形名	仕様
ディスプレイ	ディスプレイ装置	DTA15AXGS	15 型 TFT カラー液晶ディスプレイ *1 *2
		DTW17ASXS	17 型 TFT カラー液晶ディスプレイ *1
		DTA17BSXN	17 型 TFT カラー液晶ディスプレイ *1
入力装置	テンキーボード	KB3600	USB、17 キー USB I/F 付き
	マウス	KM5500	USB I/F、2 ボタン ホイール付き
	光学式マウス	KM5451	USB I/F、2 ボタン ホイール付き
メモリー	メモリーボード	MK7274	256MB、DDR2-533 SDRAM、PC2-4200
		MK7527	512MB、DDR2-533 SDRAM、PC2-4200
アクセサリー	AC アダプター	AP7900	
	標準バッテリーパック	AB8100	リチウムイオン
	大容量バッテリーパック	AB8110	リチウムイオン
外付け指静脈 認証装置	外付け指静脈認証装置	SKC8101	ケーブル：0.7m

この一覧表以外のオプションは、使用しないでください。正しく動かないことがあります。

*1 ： リフレッシュレートは自動で設定される最適値をご使用ください。変更した場合は、画面が正常に表示されない場合があります。

*2 ： 15 型 SXGA+ モデルに接続し、外付けディスプレイのみの表示とした場合、立ち上げ直したあとに全ての画面が表示されなくなります。外付けディスプレイの電源を入れ直すか、[Fn]+[F7] キーを押して表示先を一度パソコンに戻すと回避できます。

重要事項

ここでは、パソコンおよび周辺機器の使用環境、使用方法における制限内容をまとめてあります。

パソコンおよび周辺機器を使用する環境について

・寒い場所では、室温を動作時周囲温度まで上げたあと 20 ～ 30 分経過してからお使いください。
・暑い場所では、しばらく空調などを使用し室温が一定になってからお使いください。
・直射日光の当たる場所や、ストーブなど発熱する器具の近くでは使用しないでください。
・ほこりが極端に多い場所では、使用しないでください。
・ご使用になる環境によっては、本体底面の通気孔にほこりがたまり、故障などの原因になることがあります。定期的に清掃してください。ほこりは綿棒などで取り除いてください。
・極端に高温、低温の場所、または温度変化が激しい場所では使用しないでください。また、湿度が極端に高い場所では、使用しないでください。
・腐食性ガス (特に亜硫酸ガス、硫化水素、塩素ガス、アンモニアガスなど) や塩分を多量に含む空気、油煙などが発生する場所に設置しないでください。このような場所では、パソコンおよび周辺機器の表面を化学的に腐食することにより、電子部品の接触抵抗が増加したり、可動部品の構造がもろくなり、パソコンおよび周辺機器の信頼性が著しく低下します。
・パソコンを使用する場所の近くで落雷が発生したり、電源の供給状態が悪い場合、使用中に瞬時停電や電圧低下が発生し、突然ディスプレイの表示が消えることがあります。
このときは、一度パソコンの電源を切って立ち上げ直してください。
・キーボードの上や通気孔の近くに物を置かないでください。
・パソコンを本体底面がふさがるような布、じゅうたんなどの上には置かないでください。

参照

・ 最適な湿度について→「パソコン仕様一覧」(P.120)

パソコンおよび周辺機器の取り扱いについて

・ハードウェアの故障に伴うデータやアプリケーションの破損については、補償いたしかねます。あらかじめご了承ください。
・Windows の立ち上げ中や使用中に強制終了すると、次回立ち上げ時にチェックプログラムが働くことがあります。異常がない場合は、そのあと正常に Windows が立ち上がりますが、異常がある場合は HDD をフォーマットしないとパソコンが使用できない場合もあります。
・電源を切ってから再び電源を入れるまでに、必ず 1 分以上お待ちください。連続して電源を入り切りする (瞬時停電も含む) と保護機能が働くことがあります。このときは、一度電源を切って、AC アダプターの電源プラグをコンセントから抜きます。1 分以上経過してから AC アダプターの電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れてください。
・パソコンを立てかけて置くと、倒れた場合に壊れることがあります。絶対に立てかけないでください。
・パソコンは精密な電子部品で製造されていますので、衝撃を与えないでください。

- 磁石やスピーカーなどの強い磁気を発生するものを近づけると、パソコンおよび周辺機器の故障の原因になります。
- ディスプレイを背中合わせに設置したり並べて配置する場合は、互いに少し離して配置してください。
- マウスは耐外来ノイズ性能が劣ります。マウスが誤動作する場合は、パソコンおよびその周辺機器の電源を同一のノイズフィルター付き OA タップからとることをお勧めします。
- マウスの内部に異物などが入ったときは、取り除いてください。異物が入るとボールがなめらかに動かなくなります。
- 煙霧状の殺虫剤などを使用するときは、事前にビニールシートなどでパソコンを完全に包んでください。
- じゅうたんのある部屋でパソコンを使用したり、パソコンの使用中にひざ掛けなどを使用すると、それらの材質によっては静電気が発生し、パソコンおよび周辺機器に悪影響を及ぼす場合があります。静電気の発生しにくい材質のものをお使いください。
- パソコンの上に物をのせたりして力を加えないでください。液晶ディスプレイの破損などの原因になります。
- パソコンに衝撃や圧力を与えないでください。液晶ディスプレイの破損、HDD の故障、光学式ドライブの故障、ケースの破損などの原因になります。
- パソコンを持ち運ぶときは、必ずディスプレイを閉じてください。液晶ディスプレイの破損などの原因になります。
- 各種ケーブルをパソコンに接続した状態で、ケーブルを強く引っ張らないでください。コネクターの破損などの原因になります。

通信について

- 通信中や、CD/DVD ドライブ、FDD の読み込み、書き込み中には、パソコンの電源を切ったりソフトウェアリセットを行わないでください。

光学式マウスについて

- 光学式マウスの底面から発せられる赤い光を直接見ると、眼を痛める場合があります。赤い光を直接見ないでください。
- センサー部分を汚したり、傷をつけないでください。
- 光学式マウスをご使用のときは、光学式マウスに適したマウスパッドをご使用することをお勧めします。次のような表面では正しく動作しない場合があります。
  - 鏡やガラスなど反射しやすいもの
  - 光沢があるもの（研磨した金属、ラミネート光沢紙、プラスチック）
  - 濃淡のはっきりした縞模様や柄もの
  - 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
    （正目の木材、畳、立体画像用フレネルレンズ付マウスパッド）

ディスプレイについて

・液晶の特性上、表示するパターンによっては、画面がちらつくことがあります。
・長時間同一パターンを表示していると、画面が変ったときにも前のパターンが薄く見えることがあります。これは時間が経過すると消えます。
・パソコンの使用温度範囲は、5 ℃～ 35 ℃です。5 ℃未満の環境でご使用になると画面が暗くなったり、表示できなくなったりします。5 ℃以上のところで、電源を入れ直してください。
・長時間継続してご使用になると、液晶の温度上昇によりコントラストに少し変わったムラが出ることがあります。これは温度が下がると元に戻ります。
・ディスプレイ表面に水滴や指紋が付いたときは、すぐに拭き取ってください。
・多色表示を実現させるため、また液晶の構造上、上方向から見えにくくなっています。ディスプレイ部を見やすい角度にしてご使用ください。
・パソコンのディスプレイの最大領域を越えて、外付けのディスプレイに同時表示すると、パソコンのディスプレイには表示されません。
・電源を入れたとき、節電機能に移行するとき、節電状態から復帰するとき、表示が一瞬乱れることがあります。

HDD の容量表示について

HDD は、高密度な磁気ディスクにデータを保存する精密機器です。磁気ディスクには微小な欠点があり、これらの領域にはデータを書き込まないようになっています。
HDD のエラーチェックプログラムを実行すると、「不良セクタ」もしくは「スキップセクタ」が表示されることがあります。これは、データを書き込まない領域を表示しているだけで、HDD の不良ではありません。
取り付けられている内蔵 HDD の容量と、エラーチェックプログラム実行時に表示される「全ディスク容量」との関係は次のとおりです。内蔵 HDD が複数のパーティションに分割されている場合は、各領域の合計値です。この場合、合計値が次の値以下になる場合があります。
なお、＊は「パソコン仕様一覧」(P.120) の「 HDD 」の項目をご参照ください。

内蔵 HDD 容量	全ディスク容量の表示
＊ GB	＊× 1000000000 バイト以上

HDD の取り扱いについて

・電源を切るときは、必ず [スタート] ボタンから Windows を終了してください。
・緊急停止する場合は、[Ctrl] キーと [Alt] キーを押しながら、[Delete] キーを押し、Windows を終了してください。終了できない場合は、パソコンの電源を切ります。ただし、この場合、一括セットアップが必要になる場合があります。
・定期的にチェックディスクを実施することをお勧めします。
HDD のプロパティの [ツール] タブをクリックし、[エラーチェック] より実行できます。
詳しい使い方は、Windows のヘルプをご参照ください。

HDD パスワードについて

・ HDD パスワードを設定してある HDD は、ほかの HDD パスワードを設定したパソコンや、HDD パスワードを設定していないパソコンに接続しても、使用できません。
・ HDD パスワードを忘れた場合、パスワード解除やデータ復元はできません。ご注意ください。
・ HDD の処理や調査・交換が発生した場合は、必ずパスワードを解除してください。パスワードが解除されていないと保守対応できません。

バッテリーの使用について

・ お買い上げ直後、または長時間バッテリーを使わなかった場合、満充電にしても使用可能時間が短いことがあります。放電 (使用) と充電を数回繰り返すと元の使用可能時間に戻ります。
・ バッテリーパックは湿気の少ない涼しい場所で保管してください。
・ バッテリーパックには寿命があります。使用可能時間が短くなってきたら、新品と交換してください。
・ バッテリーパックの金属端子部分には素手で触れないでください。
・ バッテリーパックは次のことに注意してお取り扱いください。取り扱いを誤ると、液漏れ、過熱・破裂・発火し、火災やけがの原因になります。
  ･電池の＋－端子間をショートさせない。
  ･火中に投入したり、60 ℃以上に加熱しない。
  ･落下などの強い衝撃を与えない。
  ･外装パックが著しく破損するような衝撃を与えない。
  ･濡れた布で金属部分を拭かない。
  ･水に濡らしたり、濡れた手で触れない。
  ･分解・改造しない。
  ･火のそばや、炎天下、暖房器具の近くなどで使用、放置、充電しない。
  ･液漏れしている場合には、素手で触らない。万が一付着した場合は、流水で洗い流す。
  ･本パソコン以外の機器に使用しない。
  ･指定外のバッテリーパックを使用しない。

参照

・ 詳細について→「規制、対策などについて」(P.2)

・ 使用済みのバッテリーパックは、希少資源の有効利用のために、端子または接続コードにテープをはるなどの処置をしてから、充電式電池リサイクル協力店に持参していただくか、お問い合わせ先へ処分方法をお問い合わせください。

10 章　使い勝手を調節する

この章では、ポインティングパッドやマウスの調整など、パソコンを使いやすくする方法を説明します。

ポインティングパッド、マウスを調整する

ダブルクリックの速度や、マウスポインターの動く速さなど、ポインティングパッド、マウスの設定を調整します。設定は、[マウスのプロパティ] で変更します。

[マウスのプロパティ] を開く

1 **[スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックする。**

[コントロールパネル] 画面が表示される。

ヒント

・ [コントロールパネル] 画面は、「クラシック表示」で説明しています。

2 **[マウス] アイコンをダブルクリックする。**

[マウスのプロパティ] 画面が表示される。

[マウスのプロパティ] で調節できる主な設定

・ クリックボタンの左右の動作を入れ替えたり、ダブルクリックの速度を変える ([ボタン] タブ)
・ マウスカーソルの速度を変える ([ポインタ オプション] タブ)
・ クリックボタンにほかの機能を割り当てたり、キー入力時、ポインティングパッドによる誤動作を防ぐ ([デバイス設定] タブ)

また、[デバイス設定] タブを開いて「Synaptics TouchPad ～」を選択し、[設定] ボタンをクリックすると [デバイス設定 : Synaptics TouchPad ～] 画面が開きます。この画面上で、主に次のような機能を設定できます。

・ クリックボタンの左右の機能を入れ替える

ヒント

・ [ボタン] タブ上でも同様の設定ができますが、双方で設定を行うと左右の機能が標準に戻る場合があります。必ずどちらか片方で行ってください。

・ ポインティングパッドを使用してウィンドウのスクロールをできるようにする (バーチャルスクロール機能)
・ ポインティングパッドをタッチしたときの各種動作を設定する (タップ機能)
・ そのほか、ポインター動作の各種設定

参照

・ 詳細は [デバイス設定 : Synaptics TouchPad ～] 画面上に表示されるヘルプをご参照ください。

ダブルクリックの速度を変える

1 **[マウスのプロパティ] 画面の [ボタン] タブをクリックする。**

2 **[ダブルクリックの速さ] の ▌ を [遅い] または [速い] の方向にドラッグする。**

3 **フォルダーアイコンをダブルクリックする。**
変更した速さでダブルクリックすると、フォルダーアイコンが開く。

4 **[OK] ボタンをクリックする。**
ダブルクリックの速度が変わる。

マウスポインターの動く速さを変える

1 **[マウスのプロパティ] 画面の [ポインタオプション] タブをクリックする。**

2 **[速度] の ▌ を [遅く] または [速く] の方向にドラッグする。**
マウスポインターの動く速さが変わる。

3 **[OK] ボタンをクリックする。**
指定したマウスポインターの動く速さに設定される。

USB マウスとポインティングパッドを同時に使用する

USB マウスを接続すると、ポインティングパッド機能は無効になります。同時に使用したい場合には、次の手順を行ってください。なお、次の手順はマウス接続後、設定してください。

1 **[マウスのプロパティ] 画面を開き、[デバイス設定] タブをクリックする。**

2 **[USB マウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする] のチェックを外す。**

3 **[OK] ボタンをクリックする。**

ヒント

- 上記の設定を行っていても、[Fn] + [F12] キーを押すことでポインティングパッドを無効にできます。
- PS/2 マウスを接続されている場合は、本設定に関わらずポインティングパッドが自動で無効になります。
  なお、パソコンの電源が入ったままの状態で PS/2 マウスの接続、取り外しは行わないでください。
  マウスが正常に動作しない場合があります。

参照

- ホットキーの使い方→「ホットキーの使い方」(P.42)

・ パソコンが立ち上がっていても、ユーザーがログオンしていない状態では、USB マウスを接続した状態でもポインティングパッド機能は有効になっています。無効にできるのはログオンしている状態の場合です。

タッチ感度を変更する

1 **[マウスのプロパティ] 画面を開き、[デバイス設定] タブをクリックする。**

2 **[デバイス] 欄から [Synaptics TouchPad ～] を選択して、[設定] ボタンをクリックする。**

3 **[アイテムの選択] 内の [感度] ー [タッチ感度] をクリックする。**

4 **ポインティングパッドが意図せず動くなどの場合は、スライドバーを「重く」、ポインティングパッドが反応しにくい場合は、「軽く」の方向へ調整する。**

5 **[OK] ボタンをクリックする。**

6 **[マウスのプロパティ] 画面の [OK] ボタンをクリックする。**

[バーチャルスクロール] 機能の調節をする

ポインティングパッドの縁をなぞって、開いているウィンドウのスクロールを行える機能（バーチャルスクロール）があります。
ご購入時は有効になっていますが、ポインティングパッド上でスクロール操作のできる範囲を変更できます。使いにくい場合は調節してください。

1. **[マウスのプロパティ] 画面を開き、[デバイス設定] タブをクリックする。**
2. **[デバイス] 欄から [Synaptics TouchPad ～] を選択して、[設定] ボタンをクリックする。**
3. **[アイテムの選択] 内の [バーチャル スクロール] − [スクロール範囲] をクリックする。**
4. **[スクロール範囲] の図の緑色の幅をマウスカーソルでドラッグして調節する。**
5. **[OK] ボタンをクリックする。**
6. **[マウスのプロパティ] 画面の [OK] ボタンをクリックする。**

ヒント

・ [アイテムの選択] 内の [バーチャル スクロール] 画面で「垂直スクロールを使用する」、「水平スクロールを使用する」のそれぞれにチェックが付いていないとバーチャルスクロールは無効になります。スクロール範囲の設定もできません。
・ [スクロール範囲] の幅を大きくしすぎると、通常のポインティングパッド操作時に頻繁にバーチャルスクロールモードになってしまい、ポインティングパッドの操作性が悪くなります。使いやすい範囲に設定してください。

文字を入力する

日本語入力をオン／オフする

文字には半角文字と全角文字があります。半角文字は直接入力することができますが、全角文字を入力するには、日本語入力をオンにします。

ヒント

- 半角（英数字）文字：
  abcdefg1234・・・・・
- 全角（日本語）文字：
  ａｂｃｄｅｆｇ あいうえお日本語・・・・

・[半角／全角] キーを押す。
・IME タスクバーの［あ］または［A］をクリックし、[ひらがな] または [直接入力] をクリックする。

特殊文字を入力する

ツールバーのアイコン [IME パッド] をクリックし、[文字一覧］をクリックして表示させます。

ローマ字／かな入力を切り替える

[Alt] キーを押したまま [カタカナ ひらがな] キーを押します。
押すたびに、ローマ字入力とかな入力が交互に切り替わります。
かな入力のときは、MS-IME のツールバーの右に [KANA] が浮き沈みします。

キー上の文字を打ち分ける

文字を打ち分けるには、[Shift] キーを使います。

[Shift] キーを押しながら文字キーを押す

上の段の文字を入力できます。
文字キーをそのまま押すと下の段の文字を入力できます。
アルファベットが刻印されているキーは大文字と小文字が切り替わります。

[Shift］キーを押しながら、［＾］［＼］キーを押す

それぞれ、" ～ " や " ＿ " の記号が入力できます。

参照

- 特殊文字の入力について→「文字を入力する」(P.144)

英大文字と英小文字を切り替える

完全に切り替える [Caps Lock] キー

・キャプスロックをオンにすると大文字を入力できます。
・キャプスロックをオン／オフするには、[Shift] キーを押したまま [Caps Lock] キーを押します。

一時的に切り替える [Shift] キー

・キャプスロックがオフの状態で [Shift] キーを押すと、押している間は大文字を入力することができます。
・キャプスロックがオンの状態で [Shift] キーを押すと、押している間は小文字を入力することができます。

ヒント

・言語バーのヘルプボタンをクリックし、[目次とキーワード] をクリックすると、文字の入力や変換方法の詳しい解説が参照できます。

ディスプレイの明るさ、表示を変える

ここではディスプレイの明るさや表示を変更する方法を説明します。

ディスプレイの明るさを変える

暗くする

● [Fn] + [F8]
[Fn] キーを押しながら、[F8] キーを押すと画面が暗くなります。
押すたびに暗くなります。

明るくする

● [Fn] + [F9]
[Fn] キーを押しながら、[F9] キーを押すと画面が明るくなります。
押すたびに明るくなります。

ヒント

・ 暗くするとバッテリーの消費が少なくなり、明るくするとバッテリーの消費が多くなります。

ディスプレイの表示を変える

ディスプレイの表示を細かく設定することで、見やすく目の疲れにくい画面表示にできます。
設定は、[画面のプロパティ] で行います。

[画面のプロパティ] の開き方

1 **[スタート] ボタン－[コントロールパネル] をクリックする。**
[コントロールパネル] 画面が表示される。

ヒント

・ [コントロールパネル] 画面は、「クラシック表示」で説明しています。

2 **[画面] アイコンをダブルクリックする。**
[画面のプロパティ] 画面が表示される。

画面の領域、色、フォントの設定

重 要

・ 設定はアプリケーションを終了させてから行ってください。実行中に行うと、正しく動作しないことがあります。

ヒント

・ [デスクトップ] タブでデスクトップの背景を変更できます。

1 **[画面のプロパティ] 画面の [設定] タブで、画面の解像度や画面の色を、[デザイン] タブでフォントサイズを設定する。次の表の組み合わせに従い設定後、[適用] ボタン、[OK] ボタンをクリックする。**

画面の解像度	画面の色 ＊ 1	フォントサイズ (DPI 設定)
800 × 600	中 (16 ビット)	標準 *2 大きいフォント 特大フォント
	最高 (32 ビット)	
1024 × 768 *2	中 (16 ビット)	
	最高 (32 ビット)*2	
1280 × 1024 *3	中 (16 ビット)	
	最高 (32 ビット)	
1400 × 1050 *3	中 (16 ビット)	
	最高 (32 ビット)	

＊ 1: 中 (16 ビット) は 65536 色、最高 (32 ビット) は 1677 万色です。ただし、ディスプレイによっては、最高 (32 ビット) に設定しても実際は 1677 万色以下になります。
＊ 2: ご購入時のパソコンは、この標準値に設定されています。
＊ 3: 15 型 SXGA+ モデルのみ使用できます。

2 **以降、表示されるメッセージに従って操作する。**

画面の表示モードが設定される。

ヒント

・ 表示モードによってはディスプレイの表示領域の位置やサイズが異なります。ディスプレイ側で画面を調整してください。調整の方法については、ディスプレイ付属のマニュアルをご参照ください。
・ アプリケーションによっては、スクロールしたりウィンドウの移動を行ったりしたときに表示の一部が欠けたり乱れたりすることがあります。この時は、再表示してください。
・ パソコンのディスプレイと外付けのディスプレイに同時表示する場合、表示できる最大領域は、双方のうちの低解像度のディスプレイのものに合わせられます。

リフレッシュレートの設定

外付けディスプレイにのみ表示して使用しているときは、必要に応じて外付けディスプレイのリフレッシュレートを設定できます。リフレッシュレートとは、1 秒間にディスプレイの画面を書き換える回数を指します。この数値が高いほどちらつきが少なく、目に負担を与えない画面表示になります。

重 要

- 同時表示、または内蔵ディスプレイのみ表示する場合は、60Hz でお使いください。
- 外付けの液晶ディスプレイを使用するときは、60Hz に設定してください。そのほかのディスプレイについては、ディスプレイ付属のマニュアルをご参照ください。

1 **[画面のプロパティ] 画面の [設定] タブで、[詳細設定] ボタンをクリックし、プロパティーを開く。**

2 **[モニタ] タブの [モニタの設定] でリフレッシュレートを選択し、[OK] ボタンまたは、[適用] ボタンをクリックする。**

3 **[モニタの設定] が表示されるので [はい] ボタンをクリックする。**

リフレッシュレートの詳細な設定についてはディスプレイに付属のマニュアルをご参照ください。

ビデオメモリーの容量を増やす

BIOS メニューの設定で、ビデオメモリーの容量を増やすことができます。

ヒント

- BIOS メニューにより、容量（32、64、128MB）に変更可能です。ただし搭載されるメモリーの容量が 256、512MB の場合は 128MB には変更できません。出荷時設定は搭載されるメモリーの容量により異なり、256 ～ 768MB 搭載時は 32MB、1024MB 搭載時は 128MB となります。また、メモリーが 1024MB の場合は、128MB に固定されます。

1 **パソコンの電源を入れ、パソコンの立ち上げ中、画面中央に「HITACHI」と表示されたら、[F2] キーを押す。**
BIOS メニューが表示される。

2 **[←]、[→] キーで、[Advanced] を選択する。**
[Advanced] 画面が表示される。

3 **[↑]、[↓] キーで、[Embedded Share Memory] を選択し、[Enter] キーを押す。**

4 **[↑]、[↓] キーで、設定したいビデオメモリー容量を選択し、[Enter] キーを押す。**

5 **[F10] キーを押す。**
設定内容の保存確認のメッセージが表示される。

6 **[Yes] を選び、[Enter] キーを押す。**
設定した内容が保存され、パソコンが立ち上げ直される。

音量を調整する

ここでは内蔵スピーカーの音量を調整する方法を説明します。外部スピーカーを接続している場合は、外部スピーカーのマニュアルもあわせてご参照ください。

キーボードのキーを使って調整する

キーボードのキーを押して、音量を調整できます。

●音量を上げる ([Fn] + [F6])
[Fn] キーを押しながら、[F6] キーを押すと、音量が上がります。

●音量を下げる ([Fn] + [F5])
[Fn] キーを押しながら、[F5] キーを押すと、音量が下がります。

キーボードのキーを使って音を消す

キーボードのキーを押して、音を消すことができます。

●音を消す ([Fn] + [F3])
[Fn] キーを押しながら、[F3] キーを押すと音が鳴りません。もう一度押すと元に戻ります。

[音量] アイコンで調整する

1. **タスクバーの [音量] アイコンをクリックする。**
   [音量] を調整するスライドバーが表示される。
2. **スライドバーを上下にドラッグして、音量を調整する。**

ヒント

・ [ミュート] にチェック (☑) が付いていると、音が鳴りません。

[マスタ音量] で調整する

Windows の [マスタ音量] を使うと、CD プレーヤーの音量や、録音レベルも調整できます。

1 **タスクバーの [音量] アイコンをダブルクリックする。**
[マスタ音量] 画面が表示される。

ヒント

・ [スタート] ボタン－[すべてのプログラム]－[アクセサリ]－[エンターテイメント]－[ボリュームコントロール] の順にクリックしても、[マスタ音量] 画面が表示できます。

2 **音量やバランスを調整したい箇所のスライドバーをドラッグする。**

ヒント

・ Windows Media Player を使用して音楽 CD を再生している場合、[マスタ音量] 上では、CD の音量も「WAVE」のスライドバーで調節します。
・ [ミュート] にチェック (☑) が付いていると、音が鳴りません。
・ モデムの音量、バランスは個別に調整できません。
モデムの音を消したい場合は、[ネットワーク接続] 画面上で作成した各ダイヤルアップ接続のプロパティーを開き、[全般] タブ－[構成] を選択して、「モデムの構成」画面上で「モデムスピーカーを使う」のチェックを外してください。

タスクバーに [音量] アイコンが表示されていないときは

1 **[スタート] ボタン－[コントロールパネル] をクリックする。**
[コントロールパネル] 画面が表示される。

ヒント

・ [コントロールパネル] 画面は、「クラシック表示」で説明しています。

2 **[サウンドとオーディオデバイス] アイコンをダブルクリックする。**
[サウンドとオーディオデバイスのプロパティ] 画面が表示される。

3 **[音量] タブの「タスクバーに音量アイコンを配置する」にチェックを付け、[適用] ボタンを押す。**

4 **[OK] ボタンをクリックする。**

マイクの感度を調整する

1 **[マスタ音量] 画面を開き、[オプション] メニュー－ [トーン調整］ をクリックする。**

2 **[マイク] の [トーン] をクリックする。**

[マイクの詳細設定] 画面が表示される。

3 **マイクの感度を高くする場合は、[1 マイク ブースト] にチェックを付ける。低くする場合は、チェックを外す。**

CD/DVD ドライブを設定する

DVD-Video を再生する

(DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、DVD スーパーマルチドライブ内蔵パソコンの場合)

このパソコンで DVD-Video を再生するときは、同梱の DVD 再生ソフトウエアを追加セットアップする必要があります。
セットアップ方法や詳しい使い方については、DVD 再生ソフトウエアに付属のマニュアルをご参照ください。

重 要

・ DVD-Video によっては正常に再生されない場合があります。

DMA 転送モード

DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、DVD スーパーマルチドライブの DMA 転送モードを使用すると、DVD-Video の再生能力が向上します。ご購入時は DMA 転送モードになっています。

地域コード

DVD-Video と DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、DVD スーパーマルチドライブには、再生可能地域を限定する地域コード (Region Code) が設定されています。
DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、DVD スーパーマルチドライブと DVD-Video の地域コードが同じ設定でないと、DVD-Video を再生することはできません。

重 要

・ 地域コードの変更回数は最大 4 回です。4 回設定を変更すると、それ以降変更ができなくなり、設定以外の地域コードを持つ DVD-Video は再生できなくなります。

ヒント

・ 出荷時は、地域コードは「2」に設定されています。
・ DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、DVD スーパーマルチドライブの地域コードは変更することができます。ほかの地域コードを持つ DVD-Video を再生する場合は、DVD 再生ソフトウエア付属のマニュアルをご参照ください。
・ 地域コードは、[デバイスマネージャ] で設定できます。

BIOS の設定を戻す

BIOS(バイオス) は、パソコンのメモリーや HDD などハードウェアの環境を設定するソフトウェアです。マニュアルで説明する項目以外の設定は、変更しないでください。

ヒント

・ パソコンが正しく動かなくなってお問い合わせされたときに、BIOS 設定の確認や変更をお願いする場合があります。

BIOS メニューを表示する

BIOS メニューの立ち上げ方と終わり方について説明します。

立ち上げる

1　パソコンの電源を入れ、パソコンの立ち上げ中、画面中央に「HITACHI」と表示されたら、[F2] キーを押す。

BIOS メニューが表示される。

終了する

1　BIOS メニューで [F10] キーを押す。

設定内容の保存確認のメッセージが表示される。

ヒント

・ 変更した内容を保存しないときは、[Esc] キーを押してください。

2　[Yes] を選び、[Enter] キーを押す。

BIOS メニューが終了し、パソコンが立ち上げ直される。設定を変更しているときは、その内容は保存される。

BIOS 設定を初期化する

BIOS の設定をご購入時の状態に戻す (初期化する) ことで解決できる問題もあります。ご購入時の状態から設定を変更している場合は、設定内容をあらかじめ控えておき、BIOS を初期化したあとに設定し直してください。

重要

- BIOS の設定を初期化しても内蔵タイマーの日付と時刻は変更されません。
- BIOS 設定を初期化した場合、Security Chip の設定は有効になります。

ヒント

- PC カードを取り付けているときは、取り付けた PC カードをパソコンから取り外してください。外さないと正しく動作しない場合があります。

参照

- PC カードの取り外しについて→「取り外し手順」(P.102)

1　パソコンの電源を入れ、パソコンの立ち上げ中、画面中央に「HITACHI」と表示されたら、[F2] キーを押す。

BIOS メニューが表示される。

2　[F9] キーを押す。

設定内容を初期化する確認のメッセージが表示される。

3　[Yes] を選び、[Enter] キーを押す。

BIOS メニューに戻る。

4　[F10] キーを押す。

設定内容を保存する確認のメッセージが表示される。

5　[Yes] を選び、[Enter] キーを押す。

設定した内容が保存され、セットアップメニューが終了し、パソコンが立ち上げ直される。

パスワードで保護する

ここではパスワードの設定方法を説明します。パスワードは必要なときにだけ設定してください。パスワードを設定すると、正しいパスワードを入力した人がパソコンを立ち上げたり、BIOS メニューの内容を変更したりできます。

重要

・ パスワードを設定したときは、パスワードをメモにとり安全な場所に保管し、忘れないようにしてください。もし忘れてしまった場合は、お問い合わせください。有償で対処します。ただしハードディスクパスワードの場合は、HDD を有償で交換し、OS を再インストールする場合があります。

参照

・ お問い合わせについて→「お問い合わせ先」(P.6)

設定できるパスワード

設定できるパスワードには、次のものがあります。

・BIOS メニューのパスワード

・ハードディスクパスワード

BIOS メニューのパスワード

BIOS メニューのパスワードを設定すると、不正な使用を防ぐことができます。

BIOS メニューのパスワードには、次のものがあります。

・管理者用パスワード (Supervisor Password)

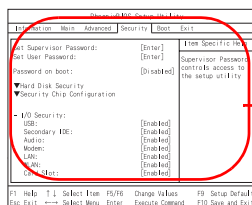
・使用者用パスワード (User Password)

重要

・ パスワードを設定すると、BIOS メニュー立ち上げ時にパスワードの入力画面が表示されます。このとき誤ったパスワードを 3 回入力すると、パソコンが操作できなくなります。この場合は、いったん電源スイッチを押し、パソコンの電源を切ってやり直してください。

管理者用パスワード (Supervisor Password)

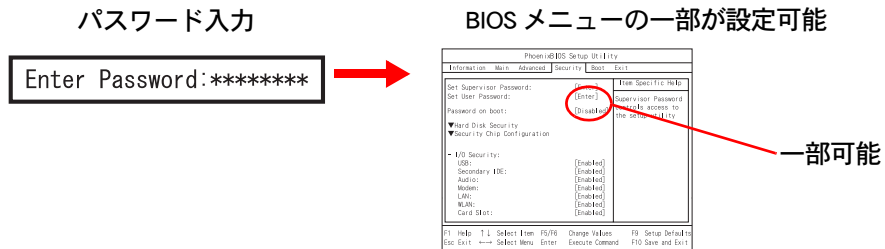
BIOS メニューの設定を変更できる人を制限したり、パソコンを使用できる人を制限するためのパスワードです。設定すると、管理者用パスワードを知っている人だけが、BIOS メニューのすべての設定を変更できるようになります。

● BIOS メニューを表示する場合

参照

・ 管理者用パスワードの設定について→「管理者用または使用者用パスワードを設定／変更する」（P.159）

使用者用パスワード (User Password)

BIOS メニューのすべての設定を変更する権限はありませんが、パソコンを使用する権限を与えるパスワードです。管理者用パスワードを設定したあとで設定できます。設定すると、使用者用パスワードを知っている人だけが、BIOS メニューの一部の設定を変更できるようになります。

● BIOS メニューを表示する場合

BIOS メニューで設定可能／不可能な項目は、次のとおりです。

[Main] 画面	[System Time]、[System Date]、[Boot Display]、[Screen Expansion] のみ設定できます。
[Advanced] 画面	すべて設定できません。
[Security] 画面	[Set User Password]、[Set HD User Password] ＊のみ設定できます。
[Boot] 画面	すべて設定できません。
[Exit] 画面	[Exit Saving Changes] 、[Exit Discarding Changes]、[Discard Changes] のみ設定できます。

＊：使用者用パスワード権限で HD ユーザーパスワードを設定／変更する場合、[Authorize HD Password] を [User] に設定する必要があります。BIOS メニューの [Security] 画面を開き、[Hard Disk Security] メニューの [Authorize HD Password] を設定します。出荷時は、[Authorize HD Password] は [Supervisor] に設定されています。管理者用パスワード権限で設定／変更する場合は [Authorize HD Password] の設定に関係なく、HD ユーザーパスワードを設定／変更できます。

参照

・ 使用者用パスワードの設定について→「管理者用または使用者用パスワードを設定／変更する」（P.159）
・ HD ユーザーパスワードについて→「HD ユーザーパスワード（HD User Password）」（P.157）

ハードディスクパスワード

ハードディスクパスワードには、次のものがあります。
・HD マスターパスワード（HD Master Password）
・HD ユーザーパスワード（HD User Password）

不正な使用を防いだり、情報漏えい防止をはかる場合は、HD ユーザーパスワードを設定します。HD ユーザーパスワードを保守する場合は、HD マスターパスワードを設定します。
HD マスターパスワードを使用する際には、HD マスターパスワードの設定が不正に変更されないように管理者用パスワードを設定することをお勧めします。

重要
・HD ユーザーパスワードを設定すると、パソコンの立ち上げ時にパスワードの入力画面が表示されます。このとき誤ったパスワードを 3 回入力すると、パソコンが操作できなくなります。この場合は、いったん電源スイッチを押し、パソコンの電源を切ってやり直してください。
・パソコン立ち上げ時のパスワード入力で、HD マスターパスワードは使用できません。必ず HD ユーザーパスワードを入力してください。

HD マスターパスワード（HD Master Password）

パソコンの管理者が設定するパスワードです。
HD マスターパスワードを解除することにより、HD ユーザーパスワードを解除できます。

● HD ユーザーパスワードを解除する場合

重要
・HD マスターパスワードを設定する場合は、HD ユーザーパスワードの設定よりも先に HD マスターパスワードを設定してください。

参照
・HD マスターパスワードの設定について→「HD マスターパスワードを設定／変更する」（P.161）

HD ユーザーパスワード（HD User Password）

パソコンの使用者が設定するパスワードです。
HD ユーザーパスワードを設定すると、パソコンの立ち上げ時に HD ユーザーパスワードを入力する必要があります。また、設定後に HD マスターパスワードを解除すると、同時に HD ユーザーパスワードも解除されます。

●パソコンを立ち上げる場合

重要

・ 使用者用パスワード権限で HD ユーザーパスワードを設定／変更する場合、先に [Authorize HD Password] を [User] に設定してください。BIOS メニューの [Security] 画面を開き、[Hard Disk Security] メニューの [Authorize HD Password] を設定します。出荷時は、[Authorize HD Password] は [Supervisor] に設定されています。管理者用パスワード権限で設定／変更する場合は [Authorize HD Password] の設定に関係なく、HD ユーザーパスワードを設定／変更できます。
・ HD ユーザーパスワードを設定した後は、HD マスターパスワードの設定ができません。HD マスターパスワードを設定する場合は、HD ユーザーパスワードの設定よりも先に HD マスターパスワードを設定してください。
・ パスワードで保護する場合は、HD マスターパスワードを設定後に、必ず HD ユーザーパスワードを設定してください。HD マスターパスワードを設定しただけでは HDD を保護できません。

参照

・ HD ユーザーパスワードの設定について→「HD ユーザーパスワードを設定／変更する」（P.162）

ハードディスクパスワードとの関連

管理者用／使用者用パスワード権限で、ハードディスクパスワードを設定する際の注意事項についてまとめます。

権限別とハードディスクパスワード

設定するパスワード	HD マスターパスワード	HD ユーザーパスワード
管理者用パスワードでログイン時	・HD ユーザーパスワードを先に設定すると、設定できません。 ・解除すると、HD ユーザーパスワードも解除します。	設定／変更する場合、[Authorize HD Password] の設定に関係なく、設定／変更できます。
使用者用パスワードでログイン時	設定できません。	設定／変更する場合、[Authorize HD Password] を [User] に設定する必要があります。 BIOS メニューの [Security] 画面を開き、[Hard Disk Security] メニューの [Authorize HD Password] を設定します。

```
PhoenixBIOS Setup Utility
Information  Main  Advanced  Security  Boot  Exit
              Hard Disk Security
HD User Password:           Not Installed     Set HD User Password
HD Master Password:         None

  Set HD User Password      [Enter]
  Set HD Master Password    [Enter]
  Authorize HD Password     [Supervisor]

F1  Help  ↑↓ Select Item  F5/F6  Change Values     F9  Setup Defaults
Esc Exit  ←→ Select Menu  Enter  Execute Command   F10 Save and Exit
```

Authorize HD Password

管理者用または使用者用パスワードを設定／変更する

BIOS メニュー立ち上げ時に、管理者用または使用者用のパスワードを入力するかどうかを設定します。

重要

・ 使用者用パスワードは、管理者用パスワードを設定したときに設定できます。先に管理者用パスワードを設定してください。
・ パスワードはメモなどを取り、安全な場所に保管し、忘れないようにしてください。もし忘れてしまった場合はお問い合わせください。有償にて対応いたします。

参照

・ お問い合わせについて→「お問い合わせ先」(P.6)

ヒント

・ パスワードの設定を途中でやめるときは、[Esc] キーを押します。

1　BIOS メニューを表示する。

参照

・ BIOS メニューの表示について→「BIOS メニューを表示する」(P.153)

2　[←]、[→] キーで、[Security] を選ぶ。

[Security] 画面が表示される。

3　[↑]、[↓] キーで、[Set Supervisor Password] または [Set User Password] を選び、[Enter] キーを押す。

パスワード入力画面が表示される。

ヒント

・ パスワードを変更する場合は、すでに設定しているパスワードを先に入力します。

4　半角 8 桁以内の数値または文字でパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。

カーソルが [Confirm New Password] に移動する。

ヒント

・ パスワードには数字の 0 ～ 9 とアルファベットの小文字の a ～ z が使えます。
・ パスワードを入力すると画面に「*** ･･･････」と表示されます。

5　再度同じパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。

6 **[Enter] キーを押す。**

[Security] 画面に戻る。

ヒント

・ 再度入力したパスワードが間違っていると、警告の画面が表示されるので [Enter] キーを押し、手順 3 からやり直してください。

7 **[F10] キー押す。**

設定内容の保存確認のメッセージが表示される。

8 **[Yes] を選び、[Enter] キーを押す。**

パスワードが設定され、パソコンが立ち上げ直される。

管理者用または使用者用パスワードを解除する

管理者用または使用者用パスワードの解除方法を説明します。

1 **BIOS メニューを表示する。**

参照

・ BIOS メニューの表示について→「BIOS メニューを表示する」(P.153)

2 **[←]、[→] キーで、[Security] を選ぶ。**

[Security] 画面が表示される。

3 **[↑]、[↓] キーで、[Set Supervisor Password] または [Set User Password] を選び、[Enter] キーを押す。**

4 **[Enter Current Password] に、現在使用しているパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。**

カーソルが [Enter New Password] に移動する。

5 **各項目にパスワードを入力しないで [Enter] キーを押す。**

パスワードが解除される。

6 **[F10] キー押す。**

設定内容の保存確認のメッセージが表示される。

7 **[Yes] を選び、[Enter] キーを押す。**

パスワードが解除され、パソコンが立ち上げ直される。

HD マスターパスワードを設定／変更する

管理者用のパスワードを設定します。

重要

・ HD マスターパスワードが未設定で HD ユーザーパスワードのみが設定されている場合、HD マスターパスワードが設定できません。その場合は、HD ユーザーパスワードをいったん解除してから、HD マスターパスワードを設定してください。

参照

・ HD ユーザーパスワードの解除について→「HD ユーザーパスワードを解除する」（P.164）

重要

・ パスワードはメモなどを取り、安全な場所に保管し、忘れないようにしてください。もし忘れてしまった場合はお問い合わせください。その場合、HDD を有償で交換し、OS を再インストールする場合があります。

参照

・ お問い合わせについて→「お問い合わせ先」（P.6）

ヒント

・ パスワードの設定を途中でやめるときは、[Esc] キーを押します。

1　BIOS メニューを表示する。

参照

・ BIOS メニューの表示について→「BIOS メニューを表示する」（P.153）

2　[←]、[→] キーで、[Security] を選ぶ。

[Security] 画面が表示される。

3　[↑]、[↓] キーで、[Hard Disk Security] を選択し、[Enter] キーを押す。

4　[↑]、[↓] キーで、[Set HD Master Password] を選び、[Enter] キーを押す。

パスワード入力画面が表示される。

ヒント

・ パスワードを変更する場合は、すでに設定しているパスワードを先に入力します。

5　半角 8 桁以内の数値または文字でパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。

カーソルが [Confirm New Password] に移動する。

ヒント

・ パスワードには数字の 0 ～ 9 とアルファベットの小文字の a ～ z が使えます。
・ パスワードを入力すると画面に「*** ･･････」と表示されます。

6　再度同じパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。

7　[Enter] キーを押す。

[Hard Disk Security] 画面に戻る。

ヒント

・ 再度入力したパスワードが間違っていると、警告の画面が表示されるので [Enter] キーを押し、手順 3 からやり直してください。

8 [F10] キー押す。

設定内容の保存確認のメッセージが表示される。

9 [Yes] を選び、[Enter] キーを押す。

パスワードが設定され、パソコンが立ち上げ直される。

HD ユーザーパスワードを設定／変更する

使用者用のパスワードを設定します。

重要

・ 使用者用パスワード権限で HD ユーザーパスワードを設定／変更する場合、先に [Authorize HD Password] を [User] に設定してください。BIOS メニューの [Security] 画面を開き、[Hard Disk Security] メニューの [Authorize HD Password] を設定します。出荷時は、[Authorize HD Password] は [Supervisor] に設定されています。管理者用パスワード権限で設定／変更する場合は [Authorize HD Password] の設定に関係なく、HD ユーザーパスワードを設定／変更できます。
・ パスワードはメモなどを取り、安全な場所に保管し、忘れないようにしてください。もし忘れてしまった場合はお問い合わせください。その場合、HDD を有償で交換し、OS を再インストールする場合があります。

参照

・ お問い合わせについて→「お問い合わせ先」(P.6)

ヒント

・ パスワードの設定を途中でやめるときは、[Esc] キーを押します。

1 BIOS メニューを表示する。

参照

・ BIOS メニューの表示について→「BIOS メニューを表示する」(P.153)

2 [←]、[→] キーで、[Security] を選ぶ。

[Security] 画面が表示される。

3 [↑]、[↓] キーで、[Hard Disk Security] を選択し、[Enter] キーを押す。

4 [↑]、[↓] キーで、[Set HD User Password] を選び、[Enter] キーを押す。

パスワード入力画面が表示される。

ヒント

・ パスワードを変更する場合は、すでに設定しているパスワードを先に入力します。

5 半角 8 桁以内の数値または文字でパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。

カーソルが [Confirm New Password] に移動する。

ヒント

・ パスワードには数字の 0 ～ 9 とアルファベットの小文字の a ～ z が使えます。
・ パスワードを入力すると画面に「*** ・・・・・・・」と表示されます。

6 再度同じパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。

7 [Enter] キーを押す。

[Hard Disk Security] 画面に戻る。

ヒント

・ 再度入力したパスワードが間違っていると、警告の画面が表示されるので [Enter] キーを押し、手順 3 からやり直してください。

8 [F10] キー押す。

設定内容の保存確認のメッセージが表示される。

9 [Yes] を選び、[Enter] キーを押す。

パスワードが設定され、パソコンが立ち上げ直される。

HD マスターパスワードを解除する

重要

・ HD ユーザーパスワードを設定している場合、HD マスターパスワードを解除すると、HD ユーザーパスワードも解除されます。

1 BIOS メニューを表示する。

参照

・ BIOS メニューの表示について→「BIOS メニューを表示する」(P.153)

2 [←]、[→] キーで、[Security] を選ぶ。

[Security] 画面が表示される。

3 [↑]、[↓] キーで、[Hard Disk Security] を選択し、[Enter] キーを押す。

4 [↑]、[↓] キーで、[Set HD Master Password] を選び、[Enter] キーを押す。

5 [Enter Current Password] に、現在使用しているパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。

カーソルが [Enter New Password] に移動する。

重要

・ HD ユーザーパスワードを設定していない場合、[Enter Current Password] 画面は表示されません。

6 各項目にパスワードを入力しないで [Enter] キーを押す。

パスワードが解除される。

7 **[F10] キー押す。**

設定内容の保存確認のメッセージが表示される。

8 **[Yes] を選び、[Enter] キーを押す。**

パスワードが解除され、パソコンが立ち上げ直される。

HD ユーザーパスワードを解除する

重要

・ HD マスターパスワードを設定している場合、HD マスターパスワードを解除することで、HD ユーザーパスワードも解除できます。

1 **BIOS メニューを表示する。**

参照

・ BIOS メニューの表示について→「BIOS メニューを表示する」(P.153)

2 **[←]、[→] キーで、[Security] を選ぶ。**

[Security] 画面が表示される。

3 **[↑]、[↓] キーで、[Hard Disk Security] を選択し、[Enter] キーを押す。**

4 **[↑]、[↓] キーで、[Set HD User Password] を選び、[Enter] キーを押す。**

5 **[Enter Current Password] に、現在使用しているパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。**

カーソルが [Enter New Password] に移動する。

6 **各項目にパスワードを入力しないで [Enter] キーを押す。**

パスワードが解除される。

7 **[F10] キー押す。**

設定内容の保存確認のメッセージが表示される。

8 **[Yes] を選び、[Enter] キーを押す。**

パスワードが解除され、パソコンが立ち上げ直される。

Wake On LAN を設定する

ネットワークからパソコンを立ち上げる信号が流れたときに、パソコンを立ち上げることができます。これを Wake On LAN といいます。

Wake On LAN できる状態

次の状態のとき、パソコンを立ち上げられます。
・スタンバイ状態
・休止状態
・電源オフ状態

重要

- Windows を終了して電源を切っても、LAN などの一部のデバイスには電力が供給されます。
- この機能を使うときは、AC アダプターでお使いください。バッテリーでは電源オフ状態、および休止状態からは立ち上がりません。
- 電源スイッチを 4 秒以上押して、Windows を強制終了しているときは、パソコンは立ち上がりません。
- 休止状態、電源オフ状態の場合に、AC アダプターを抜き差しすると、この機能は使用できません。

Wake On LAN の設定

- Wake On Lan の設定は次の手順で行ってください。
  [Realtek RTL8168/8111 PCI-E Gigabit Ethernet NIC のプロパティ]─ [S5 Wake-On-Lan] の設定は使用しないでください。

Windows メニューの設定

標準では電源 OFF からの Wake On LAN はできますが、スタンバイおよび休止状態からの Wake On LAN ができる設定にはなっていません。スタンバイおよび休止状態からの Wake On LAN を可能にするには、次のとおりに設定を変更してください。

1 **パソコンの電源を入れ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2 **[スタート] ボタン－[コントロールパネル] をクリックする。**
[コントロールパネル] 画面が表示される。

3 **[システム] アイコンをダブルクリックする。**
[システムのプロパティ] 画面が表示される。

4 **[ハードウェア] タブの [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする。**
[デバイスマネージャ] 画面が表示される。

5 **[ネットワークアダプタ] の [Realtek RTL8168/8111 PCI-E Gigabit Ethernet NIC] をダブルクリックする。**

[Realtek RTL8168/8111 PCI-E Gigabit Ethernet NIC のプロパティ] が表示される。

6 **[電源の管理] タブの [電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする] および [このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする]、[管理ステーションでのみ、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする] をチェックし、[OK] ボタンをクリックする。**

BIOS メニューの設定

標準で使えるように設定されています。

1 **パソコンの電源を入れ、パソコンの立ち上げ中、画面中央に「HITACHI」と表示されたら、[F2] キーを押す。**

BIOS メニューが表示される。

2 **[←]、[→] キーで、[Advanced] メニューを選び、[↑]、[↓] キーで [Wake on LAN from S5] を選んで [Enter] キーを押す。**

[Disabled] または [Enabled] を選択する画面が表示される。

3 **[↑]、[↓] キーを押して、設定値を [Enabled] にし、[Enter] キーを押す。**

4 **[F10] キーを押す。**

設定内容の保存確認のメッセージが表示される。

5 **[Yes] を選び、[Enter] キーを押す。**

別のディスクから立ち上げる

パソコンの立ち上げ時にどのドライブから立ち上げるかを設定します。

1 **パソコンの電源を入れ、パソコンの立ち上げ中、画面中央に「HITACHI」と表示されたら、[F12] キーを押す。**

[Boot Menu] 画面が表示される。

ヒント

・ CD-ROM リカバリーモデルは、画面上に「Recovery」は表示されません。

2 **立ち上げたいドライブを [↑]、[↓] キーで選択し、[Enter] キーを押す。**

・ 選択したデバイスがないとき、または選択したデバイスに CD-ROM が入っていないときは、BIOS メニューの [Boot] の [Boot Sequence] で設定した優先順位で立ち上がります。

Security Chip を使う

Security Chip を使うには、最初に BIOS での設定が必要です。

重要

- Security Chip を使用する際には、Security Chip の設定が不正に変更されないように、管理者パスワードを設定することをお勧めします。
- 修理により部品 (メインボード、HDD) 交換を行った場合は、Personal Secure Drive にアクセスできなくなります。

参照

- 管理者用パスワードの設定方法→「管理者用または使用者用パスワードを設定／変更する」(P.159)

ヒント

- Security Chip を使用するには、BIOS 以外にもユーティリティーのインストールや設定が必要です。詳細は、『Security Chip 取扱説明書』をご参照ください。

Security Chip の設定を有効にする

重要

- マニュアルで説明している項目以外の設定は、変更しないでください。

1. **パソコンの電源を入れ、パソコンの立ち上げ中、画面中央に「HITACHI」と表示されたら、[F2] キーを押す。**
   BIOS メニューが表示される。
2. **[←]、[→] キーを押して [Security] を選ぶ。**
3. **[↑]、[↓] キーを押して [Security Chip Configuration] を選択し、[Enter] キーを押す。**
   [Security Chip Configuration] 画面が表示される。
4. **[↑]、[↓] キーを押して [Security Chip] を選択し、[Enter] キーを押す。**
   設定値の変更画面が表示される。
5. **設定値に [Enabled] を選択し、[Enter] キーを押す。**

   ヒント

   - ご購入時の状態では、[Security Chip] の設定は [Enabled] になっています。

6. **[F10] キーを押す。**
7. **[Yes] を選び、[Enter] キーを押す。**
   設定された内容が保存され、パソコンが立ち上げ直される。
8. **もう一度、手順 1 ～ 3 の操作を行う。**
9. **[↑]、[↓] キーを押して [Security Platform] を選択し、[Enter] キーを押す。**

10 **設定値に [Enabled] を選択し、[Enter] キーを押す。**

ヒント
・ Security Chip の設定を無効にするには、[Disabled] を選択します。

11 **[F10] キーを押す。**

12 **[Yes] を選び、[Enter] キーを押す。**

設定された内容が保存され、パソコンが立ち上げ直される。

13 **Security Chip ユーティリティーのインストール設定を行う。**

ヒント
・ Security Chip ドライバーは、工場出荷時にインストールされています。
・ Security Chip ユーティリティーのインストール手順は、『Security Chip 取扱説明書』をご参照ください。

Security Chip をクリアする

パソコンを処分する場合や、Security Chip ユーティリティーで設定したパスワードを忘れてしまった場合は、Security Chip のクリアを行ってください。

1 **Security Chip の設定が無効の場合、「Security Chip の設定を有効にする」の手順 1 ～ 12 を行う。**

2 **パソコンの立ち上げ中、画面中央に「HITACHI」と表示されたら、[F2] キーを押す。**

BIOS メニューが表示される。

3 **[←]、[→] キーを押して [Security] を選ぶ。**

4 **[↑]、[↓] キーを押して [Security Chip Configuration] を選択し、[Enter] キーを押す。**

[Security Chip Configuration] 画面が表示される。

5 **[↑]、[↓] キーを押して [Clear Security Chip] を選択し、[Enter] キーを押す。**

警告メッセージが表示される。

6 **[Continue] を選択し、[Enter] キーを押す。**

Security Chip がクリアされ、パソコンが立ち上げ直される。

ヒント
・ Security Chip をクリアすると、[Security Platform] は [Disabled] になります。

重要
・ Security Chip をクリアした場合、Security Chip ユーティリティーで設定した暗号化ファイルや、Personal Secure Drive にアクセスすることができなくなります。

無線 LAN を設定する

無線 LAN を使用する場合に設定します。(無線 LAN 内蔵モデルの場合)

初めて無線 LAN を使用する場合

初めて無線 LAN を使用する場合は、次の手順で無線 LAN を設定してください。

1 パソコンの電源を入れ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。

2 [Fn] ＋ [F2] キーを押して無線 LAN を有効にする。

無線 LAN を有効にすると画面右下に [ワイヤレス ネットワークが検出されました] のメッセージが表示される。

3 タスクトレイに表示されている [ワイヤレス ネットワーク接続] アイコンをクリックする。

[ワイヤレス ネットワーク接続] 画面が表示され、無線 LAN アクセスポイントが検出される。

ヒント

・ 無線 LAN アクセスポイントで、ビーコンに SSID を含むように設定してください。SSID を含まないように設定していると、スキャンできません。

4 検出された無線 LAN アクセスポイント上でダブルクリックする。

ヒント

・ 128bit（ASCII 文字 13 文字、または 16 進数 26 桁）を使用した通信が可能です。その場合、必ず無線 LAN アクセスポイントの WEP 設定を 128bit にしてください。

5 設定されているネットワークキー（WEP キー）を入力して、[接続] ボタンをクリックする。

指定した無線 LAN アクセスポイントに接続される。

参照

・ 無線 LAN ドライバーのセットアップについて→「無線 LAN ドライバー」(P.194)

重要

・ 無線 LAN の設定画面で、[このネットワークで IEEE802.1X 認証を有効にする] にチェックが付いている場合、非通信状態が続くとネットワークが切断される場合があります。ネットワークを使用する場合は、チェックを外してご使用ください。次の手順でチェックを外すことができます。
1. [ワイヤレスネットワーク接続] － [詳細設定の変更] をクリックする。
   [ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面が表示される。
2. [ワイヤレスネットワーク] タブの [優先ネットワーク] から、接続しているアクセスポイントを選択し、[プロパティ] ボタンをクリックする。
   アクセスポイントのプロパティーが表示される。
3. [認証] タブ－ [このネットワークで IEEE802.1X 認証を有効にする] のチェックを外し、[OK] ボタンをクリックする。

・ ［詳細設定の変更］ － ［構成］ － ［詳細設定］ タブ、[NetBand] の [802.11a]、 [802.11b]、 [802.11b/g] をそれぞれ選択することで、接続するモードを設定することができます。
・ ［詳細設定の変更］ － ［構成］ － ［詳細設定］ タブの [NetBand] 以外の項目は出荷時設定から変更しないでください。
・ 無線 LAN ネットワークに接続した際、接続が正常に行われている場合でも、ワイヤレスネットワークの状態の表示が「ネットワークアドレス取得中」のままになっていることがあります。実際に通信できていれば問題ありませんので、そのままお使いください。

接続先を変更する場合

1 **パソコンの電源を入れ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2 **[Fn] ＋ [F2] キーを押して無線 LAN を有効にする。**

3 **タスクトレイに表示されている [ワイヤレスネットワーク接続] アイコンをクリックする。**

ワイヤレスネットワーク接続の状態が表示される。

4 **[ワイヤレス ネットワークの表示] ボタンをクリックする。**

[ワイヤレス ネットワーク接続] 画面が表示される。

5 **接続したいアクセスポイント上でダブルクリックする。**

無線 LAN アクセスポイントに WEP あるいは WPA などのセキュリティーを設定している場合は、ネットワークキー入力画面が表示される。

6 **設定されているネットワークキー（WEP キー）を入力して、[接続] ボタンをクリックする。**

指定した無線 LAN アクセスポイントに接続される。

11 章　消費電力を節約する

この章では、パソコンの消費電力を節約する方法について説明します。

節電機能とは

CPU や HDD、ディスプレイの働きを一時的に停止させることで、消費電力を節約できます。この機能を節電機能といいます。節約している状態を節電状態と呼びます。

節電機能の種類

機能	内容	ランプの状態
パソコンの節電 (スタンバイ)	・CPU クロックを一時的に停止する ・接続した周辺機器への供給電力を減らす ・ディスプレイを消す ・HDD のモーターを停止する	・電源ランプ消灯 ・スタンバイランプ点灯
パソコン全体の節電 (休止状態)	・現在の使用状況を HDD に保存し、パソコンの電源を切る	・電源ランプ消灯
ディスプレイの節電	・ディスプレイを消す	・電源ランプ点灯
HDD の節電	・HDD のモーターを停止する	

重 要

・ アプリケーションによってはその使用中に節電機能にならなかったり、節電機能が働くまでに時間がかかることがあります。
・ USB スピーカーを接続しているときは、スタンバイは使用できません。

節電する

消費電力を自動で節約したり、特定のボタンを押して節約できます。

自動で節電する

パソコンをしばらく操作しないでいると、自動で消費電力が節約されます。
どのくらいの時間で節電されるかは、[コントロールパネル] の [電源の管理オプション] 画面で設定します。

標準の状態 (AC 電源での使用時)

・15 分操作しないと・・・・ディスプレイが節電される
・20 分操作しないと・・・・パソコンの節電 (スタンバイ状態) になる

時間を設定する

1　[スタート] ボタン－[コントロールパネル] をクリックして、[コントロールパネル] 画面を開き、[電源オプション] アイコンをダブルクリックする。

[電源オプションのプロパティ] 画面が表示される。

重要

・ [コントロールパネル] 画面がカテゴリの表示になっているときは、[パフォーマンスとメンテナンス] アイコンをダブルクリックすると、[電源オプション] を選択できるようになります。

ヒント

・ [コントロールパネル] 画面は、「クラシック表示」で説明しています。

2　[電源設定] タブで、各項目にどのくらいパソコンを操作しないでいると節電状態になるかを設定する。

・モニタの電源を切る	：ディスプレイの節電
・ハードディスクの電源を切る	：HDD の節電
・システムスタンバイ	：パソコンの節電 (スタンバイ)
・システム休止状態	：パソコンの節電 (休止状態)

重要

・ 「システムスタンバイ」を設定しても、時間どおりに節電状態にならないことがあります。
・ 「システムスタンバイ」と「モニタの電源を切る」を同じ時間に設定にしないでください。パソコンが正しく動かないことがあります。
・ AC 駆動時、バッテリー駆動時、それぞれの時間を設定できます。
・ 「システム休止状態」が表示されないときは、「休止状態」タブで「休止状態をサポートする」にチェック (☑) を付けて [適用] ボタンをクリックしてください。標準では、チェックは付いています。
・ 「システムスタンバイ」と「システム休止状態」の設定をした場合、「システムスタンバイ」に移行したあと「システム休止状態」に移行している途中で、ディスプレイが白い画面になることがあります。そのあと画面が消えて「システム休止状態」に移行しますので、問題ありません。

3 **[適用] ボタンをクリックする。**

すぐ節電する

パソコンから離れるときなどに、次のようにして消費電力を節約できます。

重要

・ 音声や動画ファイルを再生中は、ここで説明する方法は行わないでください。節電状態から復帰したとき、正しく音声や動画ファイルを再生できないことがあります。
・ スタンバイ状態にするときはスタンバイランプが点灯するまで、また、休止状態にするときは電源ランプが消灯するまで、キーボードのキーを押したり、マウスを動かさないでください。復帰したときに、キーボードやマウスが動作しなくなることがあります。

[スタート] ボタンから節電

1 **[スタート] ボタンをクリックし、[終了オプション] をクリックする。**

[コンピュータの電源を切る] が表示される。

2 **[スタンバイ] をクリック、または [Shift] キーを押しながら [休止状態] をクリックする。**

スタンバイまたは休止状態になる。

電源スイッチで節電

[Fn] キーを押しながら [F4] キーを押すと、スタンバイ状態になります。
この設定は [コントロールパネル] の [電源オプション] 画面で行います。[電源オプション] の設定を変えると、ディスプレイを閉じたり、電源スイッチを押したときに節電状態になります。

ヒント

・ ポインティングパッドに指などが触れていると、[Fn] ＋ [F4] キーを押しても、節電状態にならないことがあります。
・ 「電源オフ」は、[Windows の終了シャットダウン] から Windows を終了するのと同様に、4 秒未満電源スイッチや [Fn] ＋ [F4] キーを押すことで電源を切る機能です。[Fn] ＋ [F4] キーを押す場合は、[電源オプション] の設定を変更する必要があります。

●標準の状態

・ディスプレイを閉じたとき　　：なし (画面表示が消える)
・電源スイッチを押したとき　　：シャットダウン
・[Fn] ＋ [F4] キーを押したとき　　：スタンバイ

設定方法

1 **[スタート] ボタン－[コントロールパネル] をクリックして、[コントロールパネル] 画面を開き、[電源オプション] アイコンをダブルクリックする。**

[電源オプションのプロパティ] 画面が表示される。

ヒント

- [コントロールパネル] 画面は、「クラシック表示」で説明しています。

2 **[詳細] タブで、各項目を「スタンバイ」や「休止状態」に設定する。**

- ポータブルコンピュータを閉じたとき (ディスプレイを閉じたとき)
- コンピュータの電源ボタンを押したとき (電源スイッチを押したとき)
- コンピュータのスリープボタンを押したとき ([Fn] ＋ [F4] キーを押したとき)

ヒント

- 「なし」に設定しても、ディスプレイを閉じた場合は画面表示は消えます。
- 「休止状態」が表示されないときは、「休止状態」タブで「休止状態をサポートする」にチェック (☑) を付けて [適用] ボタンをクリックしてください。標準では、チェックは付いています。

3 **[適用] ボタンをクリックする。**

CPU を節電する（Core Duo 搭載モデルのみ）

CPU の消費電力を節約できます。
Core Duo 搭載モデルでは、使用する電源（AC、バッテリー）に応じて、CPU の消費電力を節約できます。標準で節電するように設定されています。バッテリー起動で使用する場合には、CPU の節電機能をご利用ください。

節電する

1 **［スタート］ボタン－［コントロールパネル］をクリックして、［コントロールパネル］画面を開き、［電源オプション］アイコンをダブルクリックする。**

ヒント

・［コントロールパネル］画面は、「クラシック表示」で説明しています。

2 **次の表を参考にして、［電源設定］タブの［電源設定］リストの項目を変更し、パフォーマンスの設定をする。**

電源設定リスト	CPU パフォーマンス	
	AC 電源	バッテリー
自宅または会社のデスク	High	Auto
ポータブル / ラップトップ	Auto	Auto
プレゼンテーション	Auto	Low
常にオン	High	High
最小の電源管理	Auto	Auto
バッテリーの最大利用	Auto	Low
パワーマネージメント OFF	Auto	Auto
新しい電源設定 ＊	Auto	Auto

High：CPU の消費電力と周波数を最大パフォーマンスで使用します。
Low：CPU の消費電力と周波数をバッテリーに合わせたパフォーマンスで使用します。
Auto：CPU の使用状況により、CPU のパフォーマンスを切り替えます。CPU の負荷が高い場合は最大パフォーマンス、CPU の負荷が低い場合はバッテリーに合わせたパフォーマンスで動作します。
＊：既存の電源設定を変更し、別の名前で保存した項目。

節電状態から復帰する

節電状態から復帰させるには、次のように操作してください。

重要

- 節電状態から復帰させるときは、20 秒以上時間をおいてください。20 秒未満で復帰させると、キーボードやマウスが正しく動かないことがあります。

ディスプレイの節電状態からの復帰

- [Shift] などのキーを押す
- ポインティングパッドやマウスを操作する

HDD の節電状態からの復帰

- HDD にアクセスする操作を行う

スタンバイからの復帰

- ディスプレイを閉じているときはディスプレイを開く
- パソコンの電源スイッチを押す

休止状態

- パソコンの電源スイッチを押す

重要

- スタンバイ状態中にキー入力を行うと、入力したキーが復帰後に有効になることがあります。
- パソコンの電源スイッチは 4 秒以上押さないでください。電源が強制的に切れます。
- ソフトウェアの環境によってスタンバイから復帰できないことがあります。この場合は、スタンバイ以外の節電をご使用ください。
- 休止状態で、FD や CD-ROM などのディスクをドライブに入れないでください。休止状態から復帰したとき、ディスクから立ち上がらなかったり、エラーメッセージが表示されることがあります。このときは、ディスクを取り出し、[Ctrl] と [Alt] キーを押しながら [Delete] キーを押して立ち上げ直してください。
- 休止状態からの復帰時に数秒画面が乱れる場合がありますが、動作に問題はありません。
- スタンバイ、休止状態から復帰したとき、特定の PC カードが正常に動作しない場合があります。
- 接続している USB 機器によっては、スタンバイや休止状態から復帰しない、復帰後やパソコンを立ち上げ直したあとに、動作が不安定になることがあります。その場合、スタンバイや休止状態は使用しないようにしてください。
  なお、機器によっては、パソコン本体へ接続しているケーブルを抜き差しすることで動作が改善されることがあります。
- 本パソコンでは、USB マウスの操作によるスタンバイからの復帰はサポートしておりません。

節電機能を使わないようにする

節電状態になるとパソコンが正しく動かなかったり、データが壊れることがあります。ここでは、どんなときに使わないようにするか、またその設定の仕方を説明します。

節電機能を使わないようにするとき

次のときは、スタンバイにならないようにしてください。これらの機能·プログラムでデータを扱っている最中に節電機能が働くと、データが失われることがあります。

・ 再セットアップ中
・ システムやアプリケーションの立ち上げ中
・ ディスク(HDD、FD、CD-ROM など)の読み書き中
・ 通信カード、通信ソフトで通信中
・ プリンターの印字中

節電機能を使わないようにするには

次の手順で、節電機能が働かないようにできます。

1 **[スタート]ボタン－[コントロールパネル]をクリックして、[コントロールパネル]画面を開き、[電源オプション]アイコンをダブルクリックする。**

[電源オプションのプロパティ]画面が表示される。

ヒント

・ [コントロールパネル]画面の[パフォーマンスとメンテナンス]アイコンをクリックすると[電源オプション]を選択できるようになります。
・ [コントロールパネル]画面は、「クラシック表示」で説明しています。

2 **[電源設定]タブの各項目を「なし」に設定する。**

・ [モニタの電源を切る]
・ [ハードディスクの電源を切る]
・ [システムスタンバイ]
・ [システム休止状態]

3 **[詳細設定]タブの各項目を「何もしない」に設定する。**

12 章　付属ソフトウェアについて

この章では、付属ソフトウェアの使い方やセットアップ方法を説明します。

ドライバーについて

次のドライバーは個別にセットアップすることができます。

重 要

・ 付属ソフトウェアは、このパソコン以外では使用しないでください。動作を保証できません。
また、ドライバーなどによっては、ハードウェア故障の原因になります。

ドライバー名	一括セットアップ ○：可能 ×：不可	購入時 ○：セットアップ済み ×：セットアップなし
表示ドライバー	○	○
3 モード FD ドライバー	×	×
サウンドドライバー	○	○
LAN ドライバー	○	○
モデムドライバー	○	○
タッチパッドドライバー	○	○
ホイールマウスドライバー	×	×
DVD-RAM ドライバー / フォーマットユーティリティー	×	×
DMA 設定	○	○
BEAMSTAR 用ドライバー	×	×
Security Chip ドライバー	○	○
無線 LAN ドライバー	○	○

重 要

・ 個別セットアップを行うと、一括セットアップで組み込まれた場合と設定値が異なることがあります。

ヒント

・ 表の「一括セットアップ」に○印があるドライバーは、一括セットアップを行うとセットアップされます。
・ ドライバーのインストール中に、「Windows XP との互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していません。」というメッセージが表示されることがあります。[続行] ボタンをクリックし、そのままインストールを続けてください。

表示ドライバー

表示ドライバーは、ディスプレイの画面表示を行うためのドライバーです。

インストール手順

1. **パソコンの電源を入れ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**
2. **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
   [ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。
3. **c:¥hitachi¥drivers¥svga¥common¥setup と入力して、[OK] ボタンをクリックする。**
   [ATI ソフトウェア セットアップへようこそ] 画面が表示される。
4. **[次へ] ボタンをクリックする。**
   [使用許諾契約] 画面が表示される。
5. **[はい] ボタンをクリックする。**
   [コンポーネントの選択] が表示される。
6. **[標準] ボタンをクリックする。**
   ファイルのコピー終了後、[セットアップ完了] 画面が表示される。
7. **[はい、直ちにコンピュータを再起動します。] を選択し、[完了] ボタンをクリックする。**
   パソコンが立ち上げ直される。

3 モード FD ドライバー

1.44MB、720KB 以外 (1.25MB など) のフォーマットの読み込み、書き込みを可能にするドライバーです。ただし、フォーマットはできません。

インストール手順

1. **パソコンの電源を入れ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**
2. **[スタート] ボタン－[コントロールパネル] をクリックして、[コントロールパネル] 画面を開き、[システム] アイコンをダブルクリックする。**
   [システムのプロパティ] 画面が表示される。

   ヒント
   ・ [コントロールパネル] 画面は、「クラシック表示」で説明しています。

3. **[ハードウェア] タブの [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする。**
   [デバイスマネージャ] 画面が表示される。

4 **[フロッピーディスクコントローラ] の [標準フロッピーディスクコントローラー] をダブルクリックする。**

[標準フロッピーディスクコントローラのプロパティ] が表示される。

5 **[ドライバ] タブをクリックして、[ドライバの更新] ボタンをクリックする。**

[ハードウェアの更新ウィザードの開始] 画面が表示される。

6 **[いいえ、今回は接続しません] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**

7 **[一覧または特定の場所からインストールする] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**

8 **[検索しないで、インストールするドライバを選択する] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**

9 **[ディスク使用] ボタンをクリックする。**

[フロッピーディスクからインストール] 画面が表示される。

10 **[製造元のファイルのコピー元] に c:¥hitachi¥drivers¥3mode¥common と入力して [OK] ボタンをクリックする。**

11 **[Hitachi 3mode Floppy Disk Controller (TypeI)] を選択して、[次へ] ボタンをクリックする。**

[ハードウェアの更新ウィザードの完了] 画面が表示される。

12 **[完了] ボタンをクリックする。**

[Hitachi 3mode Floppy Disk Controller (TypeI) のプロパティ] 画面が表示される。

13 **[閉じる] ボタンをクリックする。**

[デバイスマネージャ] 画面が表示される。

14 **[フロッピーディスクドライブ] の [フロッピーディスクドライブ] をダブルクリックする。**

[フロッピーディスクドライブのプロパティ] 画面が表示される。

15 **[ドライバ] タブをクリックして、[ドライバ更新] ボタンをクリックする。**

[ハードウェアの更新ウィザードの開始] 画面が表示される。

16 **[いいえ、今回は接続しません] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**

17 **[一覧または特定の場所からインストールする] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**

18 **[検索しないで、インストールするドライバを選択する] を選択し、[次へ] ボタンをクリクする。**

19 **[ディスク使用] ボタンをクリックする。**

[フロッピーディスクからインストール] 画面が表示される。

20 **[製造元のファイルのコピー元] に、c:¥hitachi¥drivers¥3mode¥common と入力して [OK] ボタンをクリックする。**

21 **[Hitachi 3mode Floppy Disk Drive] を選択して、[次へ] ボタンをクリックする。**
[ハードウェアの更新ウィザードの完了] 画面が表示される。

ヒント
・ [ハードウェアのインストール] 画面が表示され、「Windows ロゴテストに合格していません。」というメッセージが表示されますが、[続行] ボタンをクリックし、インストールを続けてください。

22 **[完了] ボタンをクリックする。**
[フロッピーディスクドライブのプロパティ] 画面が表示され、[ドライバ] タブの「プロバイダ」に「Hitachi」が表示される。

23 **[閉じる] ボタンをクリックする。**

24 **パソコンを立ち上げ直す。**

サウンドドライバー

サウンド機能を使用する場合に必要なドライバーです。

インストール手順

1 **パソコンの電源を入れ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2 **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3 **c:¥hitachi¥drivers¥sound¥common¥setup と入力して [OK] ボタンをクリックする。**
[Realtek High Definition Audio Driver の InstallShield ウィザードへようこそ] 画面が表示される。

4 **[次へ] ボタンをクリックする。**
[メンテナンスの完了] 画面が表示される。

5 **「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」が選択されているのを確認し、[完了] ボタンをクリックする。**
パソコンが立ち上げ直される。

LAN ドライバー

LAN を使うためのドライバーです。自動的に通信速度やモードを認識して最適な通信環境を設定します。

インストール手順

1 **パソコンの電源を入れ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2 **[スタート] ボタン－ [ファイル名を指定して実行] をクリックする。**

[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3 **c:¥hitachi¥drivers¥lan¥common¥setup と入力し、[OK] ボタンをクリックする。**

[Realtek GbE & FE Ethernet PCI-E NIC Driver の InstallShield Wizard へようこそ] 画面が表示される。

4 **[次へ] ボタンをクリックする。**

[プログラムのインストールの準備完了] 画面が表示される。

5 **[インストール] ボタンをクリックする。**

ファイルがコピーされ、[InstallShield Wizard の完了] 画面が表示される。

6 **[完了] ボタンをクリックする。**

7 **手動でパソコンを立ち上げ直す。**

モデムドライバー

モデムを使うためのドライバーです。

インストール手順

1 **パソコンの電源を入れ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2 **[スタート] ボタン－ [ファイル名を指定して実行] をクリックする。**

[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3 **c:¥hitachi¥drivers¥modem¥common¥setup と入力して [OK] ボタンをクリックする。**

[デバイスドライバのインストールウィザードへようこそ] 画面が表示される。

4 **[OK] ボタンをクリックする。**

[デバイスドライバのインストールが完了しました] 画面が表示される。

5 **[OK] ボタンをクリックする。**

インストールが完了する。

タッチパッドドライバー

ポインティングパッドでスクロールなどの拡張機能を使えるようにするためのドライバーです。

マウスのプロパティにタッチパッドドライバー付属のユーティリティーが設定されています。「デバイス設定」タブからこのユーティリティーを開き、ポインティングパッドの機能設定を行うことができます。

ホイールマウスドライバーなど、ほかのマウスドライバーをインストールするときは、タッチパッドドライバーをアンインストールしてください。

参照

・ ポインティングパッドの機能設定について→「タッチ感度を変更する」(P.142)

インストール手順

1　パソコンの電源を入れ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。

2　[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックする。
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3　c:¥hitachi¥drivers¥touchpad¥common¥setup と入力し、[OK] ボタンをクリックする。
[ようこそ] 画面が表示される。

4　[次へ] ボタンをクリックする。
[重要なお知らせ] 画面が表示される。

5　[次へ] ボタンをクリックする。
[ファイルコピーの開始] 画面が表示される。

6　[次へ] ボタンをクリックする。
インストールが開始される。

7　インストール終了後、[セットアップ完了] 画面が表示されるので、[はい、今すぐコンピュータを再起動します。] にチェックをして、[完了] ボタンをクリックする。
パソコンが立ち上げ直される。

8　管理者権限のあるユーザーでログオンしたあと、[スタート] ボタン－[コントロールパネル] をクリックする。
[コントロールパネル] 画面が表示される。

ヒント
・ [コントロールパネル] 画面は、「クラシック表示」で説明しています。

9　[マウス] アイコンをダブルクリックする。
[マウスのプロパティ] 画面が表示される。

10　[デバイス設定] タブをクリックする。

11　[USB マウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする] にチェックを付ける。

引き続き、ポインティングパッドを正常に動作させるための「タッチパッド対策レジストリツール」を次のとおり実行します。

重 要
・ 一部のパソコンには本ツールが添付されておりません。その場合は、本パソコンに添付されている「FLORA 270W MF1 ご使用上の注意」を参照し、FLORA ホームページより本ツールをダウンロードしてから次の手順を行ってください。

12　[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックする。
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

13 **c:¥hitachi¥drivers¥tpreg¥common¥kbc.bat と入力し、[OK] ボタンをクリックする。**

[cmd] 画面が表示された後、「今すぐ再起動しますか ?」というメッセージが表示される。

14 **[OK] ボタンをクリックする。**

パソコンが立ち上げ直される。

アンインストール手順

1 **パソコンの電源を入れ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2 **[スタート] ボタン－[コントロールパネル] をクリックして、[コントロールパネル] 画面を開き、[プログラムの追加と削除] アイコンをダブルクリックする。**

[プログラムの追加と削除] 画面が表示される。

ヒント

・ [コントロールパネル] 画面は「クラシック表示」で説明しています。

3 **[現在インストールされているプログラム] の中から [Synaptics Pointing Device Driver] をクリックする。**

4 **[削除] ボタンをクリックする。**

[Synaptics ポインティングデバイス ソフトウェアを削除した後、～] が表示される。

5 **[OK] ボタンをクリックする。**

[開いているアプリケーションをすべて終了して、～] が表示される。

6 **[OK] ボタンをクリックする。**

7 **[プログラムの追加と削除] 画面を閉じて、パソコンを立ち上げ直す。**

ホイールマウスドライバー

ホイールマウスのスクロール機能や、ホイールボタンを使えるようにするためのドライバーです。タスクバーに表示されるマウスのアイコンをダブルクリックすると [マウスのプロパティ] が開き、各種設定が行えます。
なお、すべてのアプリケーションの動作を保証するものではありません。
マウスドライバーは、標準でタッチパッドドライバーがインストールされています。ホイールマウスドライバーをインストールする前に、タッチパッドドライバーをアンインストールしてください。
ほかのマウスドライバーに変更するときは、ホイールマウスドライバーをアンインストールしてください。

重 要

・ ホイールマウスドライバーをインストールすると、ポインティングパッドの拡張機能 (スクロール機能など) は使用できなくなります。マウス専用のドライバーとしてご使用ください。
・ マウスの抜き差しは、パソコンの電源を切ってから行ってください。
・ ホイール機能はアプリケーションによって使用できないものもあります。

インストール手順

1 **ホイールマウスを接続してからパソコンの電源を入れ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用百科』CD を CD/DVD ドライブに入れる。HDD リカバリーモデルの場合、手順 2 は不要です。手順 3 に進んでください。**

3 **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

4 **e:¥programs¥mouse¥setup と入力し、[OK] ボタンをクリックする。**
[設定言語の選択] 画面が表示される。
＊ HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

5 **「日本語」が選択されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする。**
[インストール先の選択] 画面が表示される。

6 **[次へ] ボタンをクリックする。**
[プログラムフォルダの選択] 画面が表示される。

7 **[次へ] ボタンをクリックする。**
ファイルコピー後、[InstallShield ウィザードの完了] 画面が表示される。

8 **「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択し、[完了] ボタンをクリックする。**
パソコンが立ち上げ直される。

アンインストール手順

1 **[コントロールパネル] 画面の [プログラムの追加と削除] をダブルクリックし、プロパティーを開く。**

2 **「MouseWare X.XX」を選択し、[追加と削除] ボタンをクリックする。**
[ファイル削除の確認] 画面が表示される。

3 **[OK] ボタンをクリックする。**
ファイルの削除後、[アンインストール] 画面が表示される。

4 **[OK] ボタンをクリックする。**
パソコンが立ち上げ直される。

DVD-RAM ドライバー / フォーマットユーティリティー

DVD スーパーマルチドライブ内蔵パソコンの場合、インストールが必要です。

インストール手順

1 **パソコンの電源を入れ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用百科』CD を CD/DVD ドライブに入れる。HDD リカバリーモデルの場合、手順 2 は不要です。手順 3 に進んでください。**

3 **[スタート] ボタンー [ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

4 **e:¥programs¥dvdram¥winxp¥setup と入力して、[OK] ボタンをクリックする。**
セットアップが開始される。
＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
　CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

5 **画面の指示に従ってインストールする。**
ファイルのコピー後、[Windows XP 用 ドライバーソフト 制限事項] 画面が表示される。

6 **[Windows XP 用 ドライバーソフト 制限事項] 画面を閉じる。**
[InstallShield ウィザードの完了] 画面が表示される。

7 **「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択して [完了] ボタンをクリックする。**
パソコンが立ち上げ直される。

DVD-RAM フォーマットユーティリティーの使用方法

DVD-RAM ディスクをフォーマットするためのフォーマットユーティリティーの使用方法について説明します。

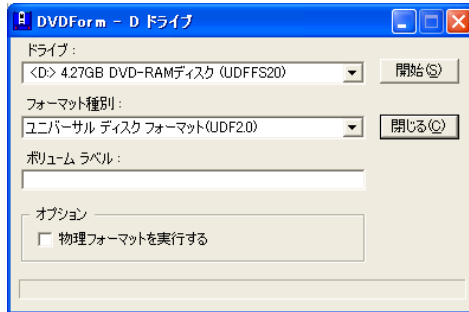
重要

- DVD-RAM フォーマットユーティリティー以外で DVD-RAM ディスクをフォーマットしないでください。DVD-RAM ディスクにアクセスできないことがあります。
- ほかの装置でフォーマットした DVD-RAM ディスクは読み込めない場合があります。この場合、フォーマット形式を変更してご使用ください。
  詳しくは、e:¥programs¥dvdram¥winxp¥DVD-RAM_XP.pdf をご参照ください。
  ＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
  　CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

DVD-RAM ディスクをフォーマットする

1　**パソコンの電源を入れ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2　**[スタート] ボタン－ [すべてのプログラム] － [DVD-RAM] － [DVD-RAM ドライバー] － [DVDForm] をクリックする。**

次の画面が表示される。

3　**DVD スーパーマルチドライブに DVD-RAM ディスクを入れる。**

4　**フォーマット種別でフォーマットタイプを選択する。**

UDF1.5：DVD-RAM の標準フォーマットです。Windows/Mac OS などの異なる OS 環境でデータ交換ができます。

UDF2.0：DVD フォーラム策定の「ビデオレコーディング規格」準拠の DVD ビデオレコーダーや、同規格準拠のパソコン用記録ソフトで使用するためのフォーマット形式です。

UDF2.5：RAM2(6 ～ 16 倍速の DVD-RAM) やブルーレイ /HD DVD で使用されるフォーマット形式です。UDF2.5 形式の DVD-RAM は、「ビデオレコーディング規格」準拠の DVD ビデオレコーダーや同規格準拠のパソコン用記録ソフトでは使用できません。

FAT32： Windows 95(OSR2)/98/Me/2000/XP で使用できるフォーマットです。

次の表を参考にして、フォーマットタイプを選択してください。

フォーマットに使用する OS	フォーマット形式	読み書きに使用する OS		
		Windows XP/ Windows 2000	Windows NT	Windows 98
Windows XP/ Windows 2000	FAT	×	×	× (*1)
	FAT32	△ (*2)	×	× (*1)
	NTFS	×	×	×
	UDF(1.5 、2.0)	○	○	○
	UDF(2.5)	△ (*3)	×	×

*1：この形式でフォーマットした DVD-RAM/R ディスクは、読み書きできる場合もありますが、Windows 98 では使用しないでください。

*2：FAT32 でのご使用も可能ですが、弊社としては各種 OS 間でのデータ互換が可能な UDF フォーマットのご使用を推奨しております。
特に、データを長期間保存する用途でご使用になる場合には UDF フォーマットをお使いください。
なお DVD の規格の中で UDF は標準ファイルシステムとして位置付けられています。

*3：DVD-RAM を UDF2.5 でフォーマットした場合、UDF2.5 に対応していない機器では DVD-RAM の読み込み / 書き込みは行えません。UDF2.5 に対応した機器をご使用ください。

5 **UDF 形式を選択した場合はボリュームラベルを入力する。**

フォーマットする DVD-RAM ディスクに半角 11 文字以内で名前を入力します。
すでに設定されている場合は、その名前が表示されます。

ヒント

- 何も入力しない場合、"UDF+ 西暦 + 月 + 日 " が自動的に設定されます。
- 必要に応じて「物理フォーマットを実行する」にチェックを入れてください。
  物理フォーマット：ディスクの全セクターを検査し、不良セクターの代替処理を行います。

6 **[開始] ボタンをクリックする。**

確認メッセージが表示される。

7 **[はい] ボタンをクリックする。**

フォーマットが開始される。

8 **フォーマット終了メッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする。**

9 **[閉じる] ボタンをクリックし、[DVDForm] を終了する。**

DVD-RAM ドライバーのアンインストール

1 **[コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除] アイコンをダブルクリックする。**

2 **「DVD-RAM ドライバー」 を選択し、[変更と削除] ボタンをクリックする。**

[ファイル削除の確認] が表示される。

3 **[OK] ボタンをクリックする。[共有ファイルの検出] ダイアログが表示された場合は、[はい] ボタンをクリックする。**

[コンピュータからプログラムを削除] が表示され、ファイルが削除される。

4 **[はい、今すぐコンピュータを再起動します。] を選択し、[完了] ボタンをクリックする。**

Windows が立ち上げ直される。

参照

- DVD-RAM ドライバーの再セットアップについて→「DVD-RAM ドライバー / フォーマットユーティリティー」(P.190)

DMA 設定

IDE デバイス装置に対し、転送モード (DMA または PIO) を指定します。DMA モードを選択すると、データの読み書きを速くします。
ご購入時の転送モードは、HDD と CD/DVD ドライブは DMA モードに設定されています。
転送モードを変更する場合、次の手順で行ってください。

インストール手順

1 **パソコンの電源を入れ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2 **[スタート] ボタン－[コントロールパネル] をクリックして、[コントロールパネル] 画面を開き、[システム] アイコンをダブルクリックする。**
[システムのプロパティ] 画面が表示される。

ヒント
・ [コントロールパネル] 画面は、「クラシック表示」で説明しています。

3 **[ハードウェア] タブの [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする。**
[デバイスマネージャ] 画面が表示される。

4 **[表示] ボタン－[デバイス (接続別)] をクリックする。**
接続別に表示される。

5 **[ACPI マルチプロセッサ PC] － [Microsoft ACPI-Compliant System] － [PCI バス] － [標準デュアルチャネル PCI IDE コントローラ] を選択する。**

ヒント
・ [標準デュアルチャネル PCI IDE コントローラ] は 2 つ表示されています。HDD の場合、上側を選択、CD/DVD ドライブの場合、下側を選択します。

6 **[プライマリ IDE チャネル] をダブルクリックする。**
[プライマリ IDE チャネルのプロパティ] が表示される。

7 **[詳細設定] タブをクリックし、[転送モード] を [DMA(利用可能な場合)] を選択し、[OK] ボタンをクリックする。**
[システムの設定変更] が表示される。
DMA を無効にする場合は、手順 7 の [転送モード] を [PIO のみ] を選択してください。

BEAMSTAR 用ドライバー

別売の BEAMSTAR を使うためのプリンタードライバーです。詳しい使い方は、ドライブ e(リカバリー領域) または『活用百科』CD 内にある ¥programs¥beamstar フォルダー内の pdf ファイル、txt ファイルをご参照ください。
＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
　 CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

Security Chip ドライバー

Security Chip を使えるようにするためのドライバーです。
インストール手順および詳しい使い方については、『Security Chip 取扱説明書』をご参照ください。

無線 LAN ドライバー

無線 LAN を使うためのドライバーです。(無線 LAN 内蔵モデルの場合)

ヒント

- WEP キーに 128bit（ASCII 文字 13 文字、または 16 進数 26 桁) を使用した通信が可能です。その場合、必ず無線 LAN アクセスポイントの WEP キー設定を 128bit にしてください。

参照

- 無線 LAN の設定について→「無線 LAN を設定する」(P.170)

インストール手順

1 パソコンの電源を入れ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。

2 [スタート] ボタン－ [ファイル名を指定して実行] をクリックする。

[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3 c:¥hitachi¥drivers¥wlan¥common¥setup と入力し、[OK] ボタンをクリックする。

[Wireless LAN Driver Installation Program] が表示される。

4 [NEXT] ボタンをクリックする。

[Choose Destination Location] が表示される。

5 [NEXT] ボタンをクリックする。

完了すると、[Wireless LAN Driver Installation Program] が自動的に閉じられる。

アプリケーションについて

次のアプリケーションは、個別にセットアップすることができます。

アプリケーション名	一括セットアップ ○：可能 ×：不可	購入時 ○：セットアップ済み ×：セットアップ無し
Java 2 Platform Standard Edition Runtime Environment	×	×
Norton AntiVirus 2006 (90 日版)	×	×
インターネットマーク	○	○
Norton Ghost 2003	×	×
B's Recorder GOLD8 BASIC for HITACHI ＊ 1 (DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、DVD スーパーマルチドライブ内蔵パソコン用)	×	×
PowerDVD 6 ＊ 1 (DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、DVD スーパーマルチドライブ内蔵パソコン用)	×	×
Office Personal 2003 ＊ 1	×	○
Adobe Reader	○	○
CLEAR-DA FLORA Edition	×	×
BACKUP-DA FLORA Edition	×	×
SECUREDA	×	×
SAVINGDA	×	×
POWER-DA ＊ 2	×	×
Security Chip ユーティリティー	×	×

＊ 1: ご購入時の選択によって、セットアップまたは付属しています。これらのセットアップ方法は、アプリケーションに付属のマニュアルをご参照ください。
＊ 2: 専用 Web サイトよりダウンロード提供。

重 要

・ アプリケーションによっては、セットアップ中に画面表示が数十秒間変化しない場合があります。しばらくお待ちください。
・ Office Personal 2003 の CD で Office Personal 2003 をセットアップし直した場合、ライセンス認証が必要です。ライセンス認証を受けない場合、Office Personal 2003 の立ち上げ回数が許諾回数を超えると、新規ファイルの作成更新などの一部の機能が使用できなくなります。ライセンス認証の方法は、Office Personal 2003 の『スタートガイド』をご参照ください。

ヒント

・ 表の「一括セットアップ」に○印があるアプリケーションは、一括インストールでもセットアップできます。
・ 表の「購入時」に○印のあるアプリケーションは、ご購入時にセットアップされています。

Java 2 Platform Standard Edition Runtime Environment

Java 言語で開発されたソフトウェアを実行するときに必要なアプリケーションです。

インストール手順

1. **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用百科』CD を CD/DVD ドライブに入れる。HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。**
2. **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
   [ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。
3. **e:¥programs¥java¥jre-1_5_0-windows-i586 と入力し、[OK] ボタンをクリックする。**
   [使用許諾契約] 画面が表示される。
   ＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
   CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。
4. **以降、画面の指示に従ってインストールする。**

Norton AntiVirus 2006（90 日版）

Windows で、コンピュータウイルスを検出するソフトウェアです。
標準ではセットアップされていません。必要に応じてセットアップしてください。

インストール手順

1. **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用百科』CD を CD/DVD ドライブに入れる。HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。**
2. **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
   [ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。
3. **e:¥programs¥nav¥navsetup と入力して [OK] ボタンをクリックする。**
   [更新が必要] 画面が表示される。
   ＊ HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
   CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。
4. **[はい] ボタンをクリックする。**
   [Norton AntiVirus 2006 セットアップ] 画面が表示される。
5. **[次へ] ボタンをクリックする。**
   [インストール前のスキャン] 画面が表示される。
6. **[スキャンをスキップ] ボタンをクリックする。**
   [インストール前の点検] 画面が表示される。

7 **[次へ] ボタンをクリックする。**

[インストール先フォルダを選択] 画面が表示される。

8 **[次へ] ボタンをクリックする。**

インストールが実行されたあと、[Norton AntiVirus 2006 のインストールが正常に完了しました] 画面が表示される。

9 **[完了] ボタンをクリックする。**

Norton AntiVirus 2006 のインストールが終了し、パソコンが立ち上げ直される。

10 **パソコンが立ち上げ直されたあと、[Norton AntiVirus] 画面が表示されるので、[次へ] ボタンをクリックする。**

[使用許諾契約] 画面が表示される。

11 **[使用許諾契約に同意します] を選択して、[次へ] ボタンをクリックする。**

[更新サービスの状態] 画面が表示される。

12 **内容を確認し、[次へ] ボタンをクリックする。**

[セキュリティ] 画面が表示される。

13 **内容を確認し、[次へ] ボタンをクリックする。**

[ありがとうございます] 画面が表示される。

14 **[完了] ボタンをクリックする。**

15 **引き続き [LiveUpdate] が立ち上がります。以降、画面の指示に従ってください。**

インターネットマーク

インターネットエクスプローラへのプラグインソフトです。閲覧中の Web コンテンツの真正性が確認できます。

インストール手順

1 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用百科』CD を CD/DVD ドライブに入れる。HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。**

2 **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックする。**

[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3 **e:¥programs¥internetmarks¥npime011 と入力し、[OK] ボタンをクリックする。**

[ようこそ] 画面が表示される。

＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
　CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

4 **以降、画面の指示に従ってインストールする。**

Norton Ghost 2003

パソコンの HDD の内容をその他のディスクにバックアップしたり、バックアップした内容を復元するユーティリティーです。
標準ではセットアップされていません。必要に応じてセットアップしてください。

重要

- 機能によっては、使用できない場合があります。ご使用に際しては、事前に十分な検証をお願いいたします。
- Symantec Corporation では、お問い合わせを直接受け付けていません。

参照

- Norton Ghost 2003 の詳しい使い方については、ドライブ e(リカバリー領域) または『活用百科』CD 内の ¥programs¥ghost¥Readme.txt や ¥programs¥ghost¥manual の pdf ファイルをご参照ください。
  ＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
  CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

インストール手順

1 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用百科』CD を CD/DVD ドライブに入れる。**
HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。

2 **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3 **e:¥programs¥ghost¥install¥setup と入力し [OK] ボタンをクリックする。**
[Norton Ghost 2003 用の Install Shield ウィザードへようこそ] が表示される。
＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

4 **[次へ] ボタンをクリックする。**
[使用許諾契約] 画面が表示される。

5 **以降、画面の指示に従ってインストールする。**

B's Recorder GOLD8 BASIC for HITACHI

DVD-ROM&CD-R/RW ドライブまたは DVD スーパーマルチドライブで、CD/DVD ディスクに書き込みするためのユーティリティーです。パソコンのデータをディスクにバックアップする目的などに使用します。使用方法は、プログラムのヘルプをご参照ください。

インストール手順

1 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用百科』CD を CD/DVD ドライブに入れる。**
HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。

2 **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3 **e:¥programs¥bsgold¥setup と入力して、[OK] ボタンをクリックする。**
[B.H.A Setup Launcher] 画面が表示される。

4 **[B's Recorder GOLD8 BASIC] ボタンをクリックする。**
[B's Recorder GOLD8 BASIC for HITACHI セットアップ] 画面が表示される。

5 **以降、画面の指示に従ってインストールする。**
シリアル番号は、「HT68AB-AACP-5805-1759」と入力してください。

重要

・ このシリアル番号は、サポートセンターへのお問い合わせ時に必ずご用意ください。詳しくはユーザーズマニュアルの「サポートサービスについて」をご参照ください。
・ サポートサービスのご利用には、ユーザー登録が必要です。次の URL よりご登録ください。
→ http://www.bha.co.jp/entry/

PowerDVD 6

DVD-ROM&CD-R/RW ドライブまたは DVD スーパーマルチドライブで、DVD-Video の再生を行うためのアプリケーションです。

インストール手順

1 **『PowerDVD 6 OEM 版』CD-ROM を CD/DVD ドライブに入れる。**
[CyberLink PowerDVD V6.0 セットアップ] 画面が表示される。

ヒント

・ 画面が表示されないときは、『PowerDVD 6 OEM 版』CD-ROM 内の「setup.exe」を実行してください。

2 **以降、画面の指示に従ってインストールする。**

Office Personal 2003

購入時の選択によってセットアップされるアプリケーションセットです。
使い方や再セットアップ方法などは、付属のマニュアルをご参照ください。

お客様がパソコンにメモリーボードや拡張ボードの増設などのハードウェア環境に変更を加えた場合、その後の Office Personal 2003 のアプリケーションソフトウェア (Word、Excel、Outlook など) の初回起動時、「Microsoft Office 2003 ライセンス認証ウィザード」が表示されることがあります。この状態では各アプリケーションの機能が制限されます。ウィザードのメッセージに従い、Office Personal 2003 のパッケージに付属の「Microsoft Office 2003」CD-ROM を CD/DVD ドライブに挿入して、メッセージに従い操作してください。

重要

- 添付の Office Personal 2003 の CD で Office Personal 2003 をセットアップし直した場合、ライセンス認証が必要です。ライセンス認証を受けない場合、Office Personal 2003 の立ち上げ回数が許諾回数を超えると、新規ファイルの作成更新など一部の機能が使用できなくなります。ライセンス認証の方法は、Office Personal 2003 の『スタートガイド』をご参照ください。
- Office Personal 2003 の修正プログラムがマイクロソフト社より公開されています。
  ご使用になる場合は、次の URL よりダウンロードし適用してください。
  URL ：http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;JA;828041
  次の不具合を回避することができます。
  ・ドキュメントを開くことができず、エラーメッセージが表示される。
  ・ドキュメントは開けるが、OfficeArt の図形が欠落し、エラーメッセージが表示される。
  ・ドキュメントは開けるが、OfficeArt の図形が欠落する。

Adobe Reader

PDF 形式のファイルを参照するためのアプリケーションです。

インストール手順

1. **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用百科』CD を CD/DVD ドライブに入れる。**
   HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。
2. **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
   [ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。
3. **e:¥programs¥adobereader¥adberdr70_jpn_full と入力し、[OK] ボタンをクリックする。**
   [Adobe Reader 7.0 のセットアップ] 画面が表示される。
   ＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
   　CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。
4. **画面の指示に従ってインストールする。**
   [セットアップウィザードの完了] 画面が表示される。
5. **[完了] ボタンをクリックする。**

CLEAR-DA FLORA Edition

パソコンのハードディスクドライブ (以降、HDD) 内に記録されたデータを消去するアプリケーションです。消去したデータは復元不可能になります。データを消去するときは、ご注意ください。
使用方法や制限事項などについては、取扱説明書をご参照ください。取扱説明書は、インストール後、アプリケーションの格納先に保存されます。

インストール手順

1. **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用百科』CD を CD/DVD ドライブに入れる。HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。**

2. **[スタート] ボタン－ [ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
   [ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3. **e:¥programs¥clearda¥setup と入力して [OK] ボタンをクリックする。**
   [セットアップ] 画面が表示され、しばらくすると [ようこそ] 画面が表示される。
   ＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
   CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

4. **[次へ] ボタンをクリックする。**
   [製品ライセンス契約] 画面が表示される。

5. **内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする。**
   [インストール先の選択] 画面が表示される。

6. **インストール先を確認し、[次へ] ボタンをクリックする。**
   インストールが完了すると、[セットアップの完了] 画面が表示される。

7. **[完了] ボタンをクリックする。**

BACKUP-DA FLORA Edition

パソコンのデータをバックアップするアプリケーションです。
使用方法や制限事項などについては、取扱説明書をご参照ください。取扱説明書は、インストール後、アプリケーションの格納先に保存されます。

重 要

・ 再インストールの場合、BACKUP-DA FLORA Edition を使用している状態ではインストールできません。BACKUP-DA FLORA Edition を終了してからインストールしてください。
画面右下の通知領域またはタスクトレイに、[BDA] アイコンがあると BACKUP-DA FLORA Edition が使用されています。アイコンを右クリックし、メニューから「終了」を選択してください。

インストール手順

1. **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用百科』CD を CD/DVD ドライブに入れる。HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。**

2 **［スタート］ボタン－［ファイル名を指定して実行］をクリックする。**

［ファイル名を指定して実行］画面が表示される。

3 **e:¥programs¥backupda¥setup と入力して［OK］ボタンをクリックする。**

［セットアップ］画面が表示され、しばらくすると［ようこそ］画面が表示される。

＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

4 **［次へ］ボタンをクリックする。**

［製品ライセンス契約］画面が表示される。

5 **内容を確認し、［はい］ボタンをクリックする。**

［インストール先の選択］画面が表示される。

6 **インストール先を確認し、［次へ］ボタンをクリックする。**

インストールが完了すると、[BACKUP-DA] 画面が表示される。

7 **［完了］ボタンをクリックする。**

[BACKUP-DA 初期設定］画面が表示される。

8 **バックアップの保存先のフォルダーを指定し、[OK] ボタンをクリックする。**

[BACKUP-DA フォルダ設定］画面が表示される。

9 **バックアップを行うファイルが入っているフォルダーを指定し、［設定終了］ボタンをクリックする。**

［コピー中］画面が表示され、初期バックアップが開始される。

ヒント

・ BACKUP-DA FLORA Edition では、バックアップを行いたいファイルを指定する場合、ファイルの保存されているフォルダーを指定します。そのため、指定したフォルダーに格納されているサブフォルダーを含め、フォルダー内すべてのデータがバックアップの対象となります。

10 **初期バックアップが終了し、[BackupDA] 画面が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする。**

SECUREDA

パソコンのシステム環境に一定の制限をかけ、情報漏えいを防ぐセキュリティーツールです。
システムの管理者が、一般ユーザーのパソコンに制限をかけることができます。
使用方法や制限事項などについては、取扱説明書をご参照ください。取扱説明書は、インストール後、アプリケーションの格納先に保存されます。

管理者用設定ソフトウェアのインストール手順

管理者のパソコンにインストールします。

1 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用百科』CD を CD/DVD ドライブに入れる。HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。**

2 **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3 **e:¥programs¥secureda¥securedaadminsetup と入力して [OK] ボタンをクリックする。**
[セットアップ] 画面が表示され、しばらくすると [ようこそ] 画面が表示される。
＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

4 **内容を確認し、[次へ] ボタンをクリックする。**
[インストール先の選択] 画面が表示される。

5 **インストール先を確認し、[次へ] ボタンをクリックする。**
インストールが完了すると、[セットアップの完了] 画面が表示される。

6 **[完了] ボタンをクリックする。**

SECUREDA クライアントのインストール手順

制限をかけるパソコンにインストールします。

1 **パソコンの電源を入れ、Windows を立ち上げ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用百科』CD を CD/DVD ドライブに入れる。HDD リカバリーモデルの場合、手順 2 は不要です。手順 3 に進んでください。**

3 **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

4 **e:¥programs¥secureda¥securedaInst と入力して [OK] ボタンをクリックする。**
インストール先を指定する画面が表示される。
＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

5 **インストール先を指定し、[インストール] ボタンをクリックする。**
インストールが完了すると、インストール完了のメッセージが表示される。

6 **[OK] ボタンをクリックする。**

SAVINGDA

パソコンの省電力機能（省電力モード）を効率よく活用して、節電効果を上げるための省電力支援ツールです。
使用方法や制限事項などについては、取扱説明書をご参照ください。取扱説明書は、インストール後、アプリケーションの格納先に保存されます。

インストール手順

1 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用百科』CD を CD/DVD ドライブに入れる。**
HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。

2 **[スタート] ボタン－ [ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3 **e:¥programs¥savingda¥setup と入力して [OK] ボタンをクリックする。**
[セットアップ] 画面が表示され、しばらくすると [ようこそ] 画面が表示される。
＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

4 **内容を確認し、[次へ] ボタンをクリックする。**
[使用許諾契約書] 画面が表示される。

5 **内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする。**
インストール先を指定する画面が表示される。

6 **インストール先を確認し、[次へ] ボタンをクリックする。**
インストールが完了すると、[インストールの終了] 画面が表示される。

7 **[完了] ボタンをクリックする。**
初期設定の画面が表示されるので、[PC の種類]、[モニタ] をそれぞれ選択する。

POWER-DA

電源制御を行うためのツールです。
インストール手順や使用方法、制限事項については、次の Web サイトでご確認ください。
→ http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/flora/prod/soft/powerda/index.html

Security Chip ユーティリティー

Security Chip を使えるようにするためのユーティリティーです。
インストール手順および詳しい使い方については、『Security Chip 取扱説明書』をご参照ください。

Windows ファイルを追加セットアップする

Windows 固有のソフトウェアは次の手順でセットアップできます。必要に応じてセットアップしてください。

1 **[スタート] ボタン－[コントロールパネル] をクリックする。**

ヒント

・[コントロールパネル] 画面は、「クラシック表示」で説明します。

2 **[コントロール パネル] 画面の [プログラムの追加と削除] アイコンをダブルクリックし、プロパティーを開く。**

3 **[Windows コンポーネントの追加と削除] タブの [コンポーネント] で、必要なソフトウェアにチェックを付ける。**

4 **1 つの項目に複数のソフトウェアが含まれている場合があります。全部をセットアップしない場合は [詳細] ボタンをクリックし、必要のないソフトウェアのチェックを消して [OK] ボタンをクリックする。**

5 **[次へ] ボタンをクリックする。追加するファイルによっては、立ち上げ直すメッセージが表示される。その場合は、立ち上げ直すとセットアップが終了する。**

ソフトウェアの重要事項

ここでは、ソフトウェアを使用するときの重要な項目について説明します。

Windows の使用について

サウンドの使用について

・マルチメディアファイル再生中は、ファイルを転送など、HDD に読み書きしないでください。音が途切れたり、再生中のファイルが止まったりします。一度すべてのファイルを停止してから再生し直してください。シークバーが正しく表示されない場合があります。この場合は、マルチメディアファイルを一度終了させてください。
・音を鳴らした状態で音源のボリューム操作を繰り返したり、[マスタ音量] を長時間表示したままにしないでください。パソコンの動作が不安定になることがあります。
・Wave ファイル再生中に音声が停止したり、異常な音が鳴り続ける場合は、いったん再生を停止し、そのあと再生し直してください。

インターネット エクスプローラの使用について

・使用するアプリケーションによっては、画面が正常に表示されないことがあります。このときは、アプリケーションを最小化するなどして画面を再描画させてください。
・使用するアプリケーションによっては、アプリケーションエラーが起きることがあります。このときは、アプリケーションを起動し直すか、パソコンを立ち上げ直してください。
・CD-ROM、CD-R/RW、DVD-ROM 内の文字列は正しく検索できません。検索するファイルを HDD にコピーしてから、コピーしたファイルを検索してください。
・デスクトップのアイコン表示：表示モードを変更した場合やコマンドプロンプトをフルスクリーンで表示したあと、デスクトップのアイコンが正しく表示されないことがあります。この場合は、パソコンを立ち上げ直してください。
・NTFS の圧縮 : 圧縮や圧縮の無効など、圧縮状態を変更するときは、各サブフォルダーごとに行ってください。HDD 全体に対して変更すると、パソコンの動作が不安定になることがあります。ただし、HDD をフォーマットするときは、あらかじめ [圧縮を有効にする] にチェックを付けて圧縮できます。
・[タスクバーのプロパティ] ダイアログの [[スタート] メニューの設定] タブの [削除] をクリックしないでください。Explorer.exe で一般保護違反 (GPF) が発生する場合があります。[スタート] メニューのフォルダーを削除する場合は、[[スタート] メニューの設定] タブの [詳細] をクリックし、立ち上げられるエクスプローラ上で削除してください。

フォント

・全角が表示できるフォントを使用しているときに、スタイルをイタリックにすると、サイズによっては文字化けすることがあります。ほかのスタイルでは発生しません。

アプリケーション

・Windows 3.1 や MS-DOS 5.0/V、MS-DOS 6.2/V のアプリケーションを使用しないでください。マウスが正常に動作しなかったり表示色がおかしくなることがあります。
・アプリケーションを複数動作させる場合は、不要なファイルを HDD から削除するなどして、空容量を十分に確保してください。アプリケーションによっては、スワップファイルを多く表示させるものもあり、HDD の空容量が不足していると、アプリケーションが正常に動作しないことがあります。
・アプリケーションによっては、ヘルプ画面を開こうとすると、エラーメッセージを表示する場合があります。
・Microsoft PowerPoint など、アプリケーションによっては、アイコンの表示が部分的に残る場合があります。
・Microsoft PowerPoint など、アプリケーションによっては、印刷時に文字化けする場合があります。
・Microsoft Excel を使用して、最小印刷の設定を行った状態で「印刷プレビュー」を行うと、STOP メッセージが表示されてパソコンが動作しなくなることがあります。「印刷プレビュー」を行う場合には、データの保存を必ず行ってください。
・Microsoft Office の 一部の機能は正常に動作しません。

プリンター

・LIPS III モードで「コマンドプロント」からテキストファイルを印刷すると、全角文字が正常に印刷されません。リモート印刷時も同様です。
・ESC/P モードで「コマンドプロント」からテキストファイルを印刷する場合は、プリンターの設定を、次の手順で変更してください。リモート印刷時も同様です。
ただし、設定しても印刷の文字がかすれて見づらい場合があります。
1. [スタート] ボタン－[プリンタと FAX] をクリックする。
2. 対象のプリンターを選んでプロパティーを開く。
3. [全般] タブの「プリントプロセッサ」を選ぶ。
4. [プリントプロセッサ] の次の項目を変更する。

変更項目	デフォルトの設定	変更後の設定
規定のデータの種類	RAW	TEXT

・Microsoft Word で文章を印刷すると、「 Win32 スプーラ」で「書き込みエラー：要求された資源は使用中です」と表示されることがあります。そのときは、「再試行」をクリックすると印刷できます。

クリップブック

・ローカルクリップブックのページを削除すると、クリップボードの内容が削除される場合があります。
・クリップボードの内容をファイルに保存すると、クリップボードの表示色が変化する場合があります。
・クリップボードの内容をクリップブックのページにはり付けたとき、ロックされていないのに鍵のマークが出る場合があります。

画面表示

・タスクの切り替えなどで画面の表示を切り替えると、タイミングによって前の表示が残る場合があります。この場合、その箇所を再描画させると、正常に表示されます。
・使用状況によっては、メッセージボックスが、ほかのウインドウの裏面に隠れて見えないことがあります。
・表示色などを変更するときは、アプリケーションを終了してください。アプリケーションの表示がおかしくなることがあります。この場合、画面を切り替えるなどして再描画すると正常に表示されます。
・メディアプレーヤーなどで動画再生時、動画によっては再生画面が正しく表示されないことがあります。このときは、メディアプレーヤーの [ツール] ー [オプション] ー [パフォーマンス] タブで、[詳細設定] ボタンをクリックし、[ビデオアクセラレータ] 項目の [オーバーレイ] のチェックを外すと正常に表示される場合があります。
・アプリケーションによっては、起動直後にスクロールを行うと、図形などが正常に表示されない場合があります。その場合には、再描画させてください。

外字変換

・Windows 3.1、または Windows NT 4.0 より以前のシステムで作成した外字データを、TrueType 外字エディターで参照するとフォントが崩れて表示される場合があります。TrueType 外字エディターで修正し、使用してください。

ネットワーク関連

・TELNET: バッファーサイズを変更すると、表示が崩れる場合があります。
・DHCP Client では、次の場合、正常に表示されない場合があります。
(1)DHCP Manager でアドレスのリース期間を無制限にした場合、IPCONFIG による IP アドレス情報が正しく表示されません。
(2)予約クライアントのリース期限情報がサーバー側とクライアント側で異なります。
・NetWare Compatible Client Service:NET USE で接続した NetWare プリンターに対して、VDM よりリダイレクト (>LPT1) すると文字化けすることがあります。
・RAS サーバーとなる装置のドメイン名、またはワークグループ名が漢字など DBCS の場合、接続できません。
・ネットワークモニターは補助的なもので、ローカルのパソコンの送受信データのみをキャプチャーできます。本格的なネットワーク解析に使用すると、キャプチャーデータの表示中にアプリケーションエラーとなる場合があります。
・NetWare for Hitachi/W および NetWare for Hitachi3050 には接続できません。
・NWLink IPX/SPX サービスの追加時、1 回の再立ち上げで NetWare サーバーに接続できない場合があります。その場合、もう一度、立ち上げ直してください。
・NET USER コマンドの「 /Homedirreq 」オプションは使用できません。
・ネットワークドライブをログオン時に再接続する設定にしておいても再接続されない場合があります。この場合は再度ログオンし直してください。
・有線 LAN のジャンボフレームの設定は、ご購入時は無効になっています。次の設定を行うことにより、ジャンボフレームを有効にできます。
1.[スタート] ボタンー [コントロールパネル] をクリックして、[コントロールパネル] 画面を開き、[システム] アイコンをダブルクリックする。
2.[ハードウェア] タブの [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする。
3.[ネットワークアダプタ] の [Realtek RTL8169/8110 Family Gigabit Ethernet NIC のプロパティ] をダブルクリックする。

4.[詳細設定] タブをクリックする。
5.[プロパティ] の [Jumbo Frame] を選択し、[OK] ボタンをクリックする。
ただし、本項目で 2KB MTU ～ 7KB MTU までの設定を選択できますが、どのサイズを選択しても実通信時の MTU は 4800 バイトになります。

イベントビューア

・パソコン立ち上げ時にイベントが発生した場合、発生時間に関わらず、イベントログサービスの「立ち上げイベント情報」が表示される前に、そのイベントが表示されることがあります。

Microsoft IME

・Microsoft IME では、実際の入力モードとツールバーで表示される入力モードが異なる場合があります。

エクスプローラ

・ネットワークコンピューターのフォルダーを表示させた場合、中にフォルダーがなくてもサブフォルダーがあることを示す「＋」が表示されることがあります。

リムーバブルディスクを使用する場合

・リムーバブルディスクを NTFS にフォーマットした場合、リムーバブルドライブのイジェクトボタンを押してもディスクを取り出すことができません。Windows が動いている間に取り出すときは、[マイコンピュータ] や [エクスプローラ] を使用します。デバイスにマウスカーソルを置いて、マウスの右ボタンをクリックし、メニューの [取り出し] をクリックします。ただし、この操作は、Administrators グループに登録されていないメンバーは行えません。

その他

・ログオンした直後に、シャットダウン、再立ち上げ、ログオフを行わないでください。パソコンの動作が不安定になることがあります。
・スクリーンセーバーや省電力の設定をしているとき、ポインティングパッドのバーチャルスクロール (ポインティングパッドの右端・下端を使ってウィンドウのスクロールを操作する拡張機能) だけを行っていると、スクリーンセーバーや省電力状態になってしまうことがあります。

動画の再生について

・動画ファイルを再生するアプリケーションによっては、再生を停止しても画面が残ったままになることがあります。このときは、別のウィンドウを最大化するなど画面の切り替えを行ってください。

・Windows Media Player9 で WMV 形式のファイルが正常に再生できない場合があります。グラフィックハードウェアアクセラレータの設定を変更するか、Windows Media Player10 にアップデートすると正常に再生できるようになります。
グラフィックハードウェアアクセラレータの変更は次の手順で行います。

1. [スタート] ボタン－[コントロールパネル] をクリックして、[コントロールパネル] 画面を開き、[画面] アイコンをダブルクリックする。
2. [設定] タブをクリックする。
3. [詳細設定] ボタンをクリックする。
4. [トラブルシューティング] タブをクリックする。
5. 「ハードウェアアクセラレータ」の目盛りを 3 つ以上左に動かし、[OK] ボタンをクリックする。

13 章　トラブルを解決するには

この章では、パソコンのトラブルと、その対処方法を紹介しています。
トラブルが起こったら、まずここをお読みください。

電源を入れたときの異常

ビープ音が鳴ったり、エラーメッセージが表示されたら

パソコンの電源を入れたときにエラーメッセージが表示された場合は、次のように対処してください。

ビープ音

鳴る回数	推測される原因	対処方法
4 回	バッテリー駆動でパソコンを立ち上げようとしたが、バッテリーの残量がほとんどない	＊ 1

＊ 1: 一度電源を切ってバッテリーを充電するか、AC アダプターを接続して立ち上げ直してください。

エラーメッセージ

エラーメッセージ	推測される原因	対処方法
・System CMOS checksum bad-Default configuration used ・Check date and time settings	セットアップ情報が正しくありません	＊ 1
System Disabled	誤ったパスワードを入力したため、システムが停止した (3 回入力失敗時)	＊ 2
HDD Password Failed!! HDD Password Failed!! Cause HDD No Function!!	HDD パスワードがエラーです (3 回入力失敗時)	＊ 3

＊ 1: 「BIOS 設定を初期化する」(P.154) を参照し、セットアップメニューを正しい情報に設定してください。
それでもエラーになるときは、お買い求め先にご連絡ください。
＊ 2: 一度電源を切って、パスワードを入力し直してください。パスワードを忘れたときは、お問い合わせ先にご連絡ください。その場合、有償で対処することになります。
＊ 3: パスワードを忘れたときは、HDD が使用できなくなります。お問い合わせ先にご連絡ください。その場合、HDD を有償で交換し、OS を再インストールする場合があります。

参照

・ お問い合わせ先について→「お問い合わせ先」(P.6)

こんな状態の時は

ここでは、パソコンや周辺機器などが正しく動作しなくなった状態とその対処方法をまとめてあります。
次の対処方法を行っても症状が改善されないときは、お問い合わせ先にお問い合わせください。

参照

・　お問い合わせ先について→「お問い合わせ先」（P.6）

パソコン

Q パソコンが異常に熱い、煙が出た、異臭がする

A

万一異常が発生した場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーパックを本装置から取り外してください。そのまま使用すると、感電、火災の原因になります。また、すぐに電源プラグを抜けるように、コンセントの周りにはものを置かないでください。お問い合わせ先にご連絡ください。

Q 操作していないのに、カリカリと音がする

A

Windows には、一定時間操作しないとき、HDD を最適な状態にするプログラムを自動的に起動させる機能があります。いつも操作しているときと同じ程度の音が聞こえても、心配はありません。
あまりにも大きな音がしたり、音がしだいに大きくなっていくような場合は、すぐに電源を切り、購入店かお問い合わせ先にご連絡ください。

Q 使用中に突然、回転音がする

A

パソコン内部を冷却するためにファンが回転しています。また、内部温度によってファンの回転数を変更しますので、音が大きくなったり、小さくなったりしますが、故障ではありません。

Q Windows のセットアップの途中で電源を切ってしまった

A

1 分程度待ってから電源を入れ直し、最初からセットアップを行ってください。

Q ハードウェアの検出中に画面が動かなくなってしまった

A

ハードウェアの検出には、数分から十数分かかることがあります。あわてて電源を切らず、しばらくお待ちください。
十数分以上待っても画面が変わらないときは、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切ります。1 分程度待ってから電源を入れ直し、セットアップを行ってください。

Q パソコンに飲み物をこぼしてしまった

A

すぐに Windows を終了し、パソコンの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。バッテリーパックを使用している場合は、バッテリーパックを取り外してください。そのあと、お問い合わせ先にご連絡ください。キーボードやマウスに飲み物をこぼした場合も、同様にしてください。

参照

・ お問い合わせ先について→「お問い合わせ先」(P.6)

Q スタンバイ状態からもとに戻らない

A

アプリケーションや周辺機器がスタンバイ機能に対応していません。いったん電源を切ってから、スタンバイ機能をオフにしてお使いください。

参照

・ スタンバイ状態からの復帰について→「節電状態から復帰する」(P.179)

ディスプレイ

Q ディスプレイに何も表示されない

A

・ ディスプレイのコントラストが暗くなりすぎていませんか？(外付けディスプレイの場合)
・ ディスプレイの明るさが暗くなりすぎていませんか？
・ 外付けディスプレイの表示になっているかもしれません。[Fn]＋[F7] キーで表示を切り替えてください。
・ 節電状態になっていませんか？　節電状態から復帰するには、キーを押したり、マウスを操作してください。それでも復帰しないときは、スタンバイ状態になっています。電源スイッチを押して復帰してください。
・ バッテリーを電源として使用しているときに消灯しましたか？　バッテリーの残量がなくなりシステムスタンバイ状態になっています。AC アダプターを接続してからパソコンを復帰させてください。
・ 電源コードや AC アダプターが、パソコンに正しく接続されていますか？
・ 電源コードは AC100V のコンセントに接続してありますか？
・ 純正品以外のメモリーボードが付いていませんか？　純正品のメモリーボードに付けかえてください。

Q 表示される画像が乱れる(外付けディスプレイの場合)

A

・ パソコンの周囲に、電源の入っている精密機器を置いていませんか？
・ パソコンの使用中に、パソコンやディスプレイの位置を変えていませんか？ディスプレイに地磁気の影響や色ムラが発生することがあります。一度電源を切り、30 分以上時間をおいてから再びご使用ください。

ヒント

・ まれに内蔵ディスプレイで画像が乱れる場合があります。その場合はパソコンを立ち上げ直してください。

・ Windows の解像度設定と、外付けディスプレイのサポートしている解像度が一致していない場合があります。外付けディスプレイがサポートしている解像度に設定し直してください。

Q ディスプレイの表示が読めない、または歪んでいる (外付けディスプレイの場合)

A

リフレッシュレートの設定がディスプレイの仕様を超えていませんか ?
外付けディスプレイがサポートしているリフレッシュレートに設定し直してください。

Q カーソルだけが表示される

A

原因が特定できません。お問い合わせ先にご連絡ください。

Q 電源が切れているのに、何か表示されている

A

故障の可能性があります。お問い合わせ先にご連絡ください。

Q 表示色がおかしい、色数が少ない

A

・ プリンター、パソコンの順に電源を入れると、ディスプレイの表示色がおかしくなることがあります。そのときは両方の電源を切り、パソコン、プリンターの順に電源を入れ直します。
・ 画面の表示色を正しく設定します。[コントロール パネル] 画面の [画面] アイコンをダブルクリックしてプロパティーを開き、[設定] タブで、画面の表示色を調整します。ディスプレイを接続し、電源を入れたあと、画面の領域、色を設定し直してください。

参照

・ 設定方法について→「ディスプレイの表示を変える」(P.146)

Q 表示がちらついたり色がずれたりする

A

・ テレビなど、近くに強い磁気を発生するものがあります。ディスプレイから離してご使用ください。
・ ケーブルを正しく接続し直します。
・ 明るさなどを正しく設定します。
・ リフレッシュレートを正しく設定します。

Q ディスプレイが熱くなる

A

ディスプレイの周囲に置いてある物を取り除きます。ディスプレイの放熱を妨げる物は、周囲に置かないようにしてください。

Qおかしな文字が表示される

A

- Windows やアプリケーションを正しくインストールします。各ソフトに付属のマニュアルやヘルプを参照して、設定や制限事項などを確認します。
- 文字が英文フォントに設定されている場合、おかしな文字を選択し、日本語のフォントに変更します。
- [コマンドプロンプト] 画面の場合、表示が日本語モード、英語モードのどちらに設定されているか確認します。

Qタスクバーが表示されない

A

- 画面の端に隠れるほど、タスクバーの幅を細くしています。画面の下端などにマウスを動かし、マウスポインターが矢印に変わったら、ドラッグしてタスクバーの幅を広げます。
- タスクバーの設定を変えています。[スタート] ボタン－[タスクバーと [スタート] メニュー] をクリックしてプロパティーを開き、[全般] タブの [自動的に隠す] のチェックを消してください。

Qデスクトップがアイコンで乱雑になった

A

- アイコンを自動整列します。

1　デスクトップでアイコンのないところを右クリックし、[アイコンの整列] － [アイコンの自動整列] を選択する。

- 不要なアイコンを削除します。

1　削除するアイコンを右クリックし、[削除] を選択し、[はい] ボタンをクリックする。

Q画面の文字が小さい

A

- 画面に表示するフォントサイズを大きくします。

1　デスクトップのアイコンのないところを右クリックし、[プロパティ] を選択する。
2　[デザイン] タブをクリックし、[フォントサイズ] で [大きいフォント] を選択する。
3　[OK] ボタンをクリックし、[閉じる] ボタンをクリックする。
4　立ち上げ直しのメッセージで [はい] ボタンをクリックする。

- 画面の解像度をさげます。

1　デスクトップのアイコンのないところを右クリックし、[プロパティ] を選択する。
2　[設定] タブをクリックし、[画面の解像度] で「小」に変更する。

Q動画の再生が終わっても、画像が残ったままになる

A

再生するアプリケーションによっては、再生を停止しても画面が残ったままになることがあります。このときは、別のウィンドウを最大化するなど画面の切り替えを行います。なお、動画ファイルを再生しているときは、コマンドプロンプトを起動してから Windows 側に切り替えたり、コマンドプロンプトのウィンドウを最大化してから終了しないでください。これらの操作を行うと、パソコンの動作が異常になることがあります。

マウス、ポインティングパッド

Q マウスカーソルが動かない

A

・マウスが正しく接続されていますか？　接続し直す場合は、一度パソコンの電源を切ってからマウスケーブルを接続してください。

重要

・ PS/2 タイプの場合、パソコンの電源が入っている状態で、マウスケーブルを取り付けたり取り外したりしないでください。

参照

・ マウスケーブルの接続について→「マウスで操作したい方は」(P.48)

・コマンドプロンプトまたは、Safe モードで立ち上げていませんか？
USB マウスの場合、Safe モードで立ち上げると、マウスが動かなくなることがあります。キーボードのキーで操作するか、パソコンを立ち上げ直して、通常のモードでお使いください。

・Windows か、実行中のアプリケーションに何らかの異常が発生しているかもしれません。
次のようにして、異常が発生していると思われるプログラムを終了してください。

重要

・ [プログラムの強制終了] で強制終了した場合、直前の作業内容は保存されていません。

[Ctrl] キーと [Alt] キーを押しながら、[Delete] キーを押します。
[Windows タスクマネージャー] が開きます。異常が発生していると思われるプログラムを選び、[タスクの終了] ボタンをクリックします。

・そのまま、しばらく待ってください。アプリケーションの動作中、通信中や印刷中にもマウスが動かないことがあります。

Q ポインティングパッドが使えない

A

[Fn] ＋ [F12] キーを押して、ポインティングパッドを使用不可にしていませんか。
もう一度 [Fn] ＋ [F12] キーを押すと、使用できるようになります。

Q キー入力時にマウスカーソルが勝手に動く

A

キー入力時に、ポインティングパッドに触れている可能性があります。[コントロールパネル] －[マウスのプロパティ] －[デバイス設定] でポインティングパッドの感度を調整してください。

Q マウスカーソルが動かしたい方に動かず、突然移動する

A

・マウスのボールにゴミが付着している場合があります。マウスをクリーニングしてください。

参照

・ マウスのクリーニングについて→「8 章　日常のお手入れ」(P.115)

・AC 電源に問題があるかもしれません。系統の違う AC コンセントに変更するか、ノイズフィルター付き OA タップをご使用ください。
・周囲または体が静電気を帯びているかもしれません。静電気を取り除いてからご使用ください。

Q マウスがなめらかに動かない

A

マウスの内部や内部のローラーに異物が入っているか、マウスのボールが汚れています。汚れていた場合はボールを取り出し、中性洗剤を薄めた水で洗います。

参照

・ マウスのボールのお手入れについて→「お手入れ」(P.116)

Q マウスカーソルの動きが遅い

A

マウスカーソルの速度を速くします。

1 [スタート] ボタン－[コントロールパネル] をクリックする。
2 [マウス] アイコンをダブルクリックする。
3 [ポインタオプション] タブをクリックし、[速度] でマウスカーソルの動きを速くする。

Q マウスカーソルが小さい

A

マウスカーソルのサイズを大きくします。

1 [スタート] ボタン－[コントロールパネル] をクリックする。
2 [マウス] アイコンをダブルクリックする。
3 [ポインタ] タブをクリックする。
4 [デザイン] の Windows スタンダード (大きいフォント) などを選択する。
5 [OK] ボタンをクリックする。

キーボード

Q キーを押しても入力できない

A

・[Fn]+[Insert] キーを押します。[Fn]+[Insert] キーが押されていないと、テンキーで数字の入力ができません。
・大容量のデータのコピー中であったり、ダイアログボックスを開いてマウスで設定している場合は、一時的にキーボードからの入力を受け付けなくなります。

Q 正しい文字入力ができない

A

・キーボードを正しく設定します。

1 [コントロールパネル] 画面の [キーボード] アイコンをダブルクリックして開き、[ハードウェア] タブをクリックします。
2 [デバイス] が「日本語キーボード (106/109) 」に設定されているか確認します。
3 違っていた場合は [トラブルシューティング] ボタンをクリックし、メッセージに従って対応するキーボードを選びます。

4　メッセージに従ってパソコンを立ち上げ直すと、キーボードの種類が変更され、入力できるようになります。

電源

Q 電源スイッチを入れたが、電源が入らない

A

・AC アダプター、電源コードが正しく接続されていますか？
・AC アダプターのコネクターが接触不良を起こしていませんか？
・コンセントは正常に通電していますか？　ほかの電源が必要な器具を接続してご確認ください。
・バッテリーパックを使用している場合、バッテリーパックが正しく接続されていますか？
・バッテリーパックを使用している場合、バッテリー残量は十分にありますか？

Q 電源スイッチを入れたら、「Non-System disk 〜」と表示されてパソコンが立ち上がらない

A

・前回のパソコンの使用中にセットした FD が、FDD に入れたままになっていませんか？
FD を抜いたあと、[Enter] キーを押してください。

Q エラーメッセージが表示された

A

・エラーメッセージの内容をご確認ください。

参照

・　エラーメッセージについて→「電源を入れたときの異常」(P.212)

・BIOS メニューの設定に問題があるかもしれません。BIOS メニューを開いて、ご購入時の状態に戻してください。

参照

・　詳しくは→「BIOS 設定を初期化する」(P.154)

・ディスプレイ、プリンターなどの周辺機器を正しく接続していますか？

システムの動作がおかしい

Q Windows の動作が不安定

A

・Safe モードで立ち上げ、チェックディスクを実行します。

1　パソコンの電源を入れ、起動画面が表示されたらすぐに、アラーム音が鳴るまで [F8] キーを押す。
2　「Safe モード」を選択し、[Enter] キーを押す。
3　「Microsoft Windows XP Professional」を選択し、[Enter] キーを押す。
4　ユーザーを選択しログオンすると、Safe モードで起動するメッセージが表示されるので、[はい] ボタンをクリックする。
5　[スタート] ボタン－[マイコンピュータ] を選択する。
6　[ローカルディスク (C：)] アイコンを右クリックして、[プロパティ] をクリックする。

7　［ツール］タブをクリックし、［エラーチェック］の［チェックする］ボタンをクリックする。
8　［ファイルシステムエラーを自動的に修復する］と［不良セクタをスキャンし、回復する］をチェックし、［開始］ボタンをクリックする。
9　「次回のコンピュータの再起動後に、このディスクの検査を実行しますか？」と表示されるので、［はい］ボタンをクリックする。
10　Windows を立ち上げ直す。

Q Windows やアプリケーションが終了できない

A

・アプリケーションを強制終了させます。
　アプリケーションを立ち上げている場合は、タスクバーを右ボタンでクリックし、ショートカットメニューの［タスクマネージャ］をクリックします。［アプリケーション］タブをクリックし、終了させたいアプリケーションを選び、［タスクの終了］ボタンをクリックします。そのあと、［タスクマネージャ］を［×］ボタンで終了します。
・パソコンを強制終了させます。
　タスクバーを右ボタンでクリックし、ショートカットメニューの［タスクマネージャ］から［シャットダウン］ボタンをクリックし、Windows を終了します。それでも立ち上げ直すことができない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切ります。
・FD から Windows が立ち上がらないときは、FD が FDD に正しくセットされているか、起動 FD かご確認ください。
・Windows を再セットアップします。

参照

・再セットアップについて→「5 章　ご購入時の状態に戻すには」（P.59）

Q 立ち上げ時、ピーといって立ち上がらない

A

・キーボードの上に物が載っています。物を取り除いてください。
・キーを押しつづけています。キーから手を離してください。

Q キーボードなどを操作しても画面の表示が変わらない

A

・アプリケーションを強制終了させます。
　アプリケーションを立ち上げている場合は、タスクバーを右ボタンでクリックし、ショートカットメニューの［タスクマネージャ］をクリックします。［アプリケーション］タブをクリックし、終了させたいアプリケーションを選び、［タスクの終了］ボタンをクリックします。そのあと、［タスクマネージャ］を［×］ボタンで終了します。
・パソコンを強制終了させます。
　タスクバーを右ボタンでクリックし、ショートカットメニューの［タスクマネージャ］から［シャットダウン］ボタンをクリックし、Windows を終了します。それでも立ち上げ直すことができない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切ります。
・ドライブ C のファイルを削除して空き容量を増やします。
・メモリーを増やします。
・決まったアプリケーションを使用しているときに起きる場合は、そのアプリケーションを削除し、再インストールします。
・HDD を修復します。

Q 電源を入れたら「ドライブのエラーをチェックしています」と表示された

A

ドライブのエラーをチェックするためにチェックディスクが立ち上がっています。数分で終了するので、終了するまではパソコンを操作したり、電源を切ったりせずにそのまま待ちます。

Q Windows を立ち上げるたびにチェックディスクツールが実行される

A

・ドライブのエラーが修復されないまま残っています。チェックディスクを実行してエラーを修復します。
・付属や市販のコンピューターウィルスソフトでウィルスチェックします。
・Windows を再セットアップします。

参照

・　再セットアップについて→「5 章　ご購入時の状態に戻すには」(P.59)

・パソコンを修理に出します。

Q コマンドプロンプト画面が全画面表示になってしまった

A

[Alt] キーを押したまま [Enter] キーを押します。

音が聞こえない、録音できない

Q スピーカーから音が出ない

A

・スピーカーに電力を供給します。パソコンと別に電源が必要なタイプのスピーカーの場合、電源に接続しているか、スピーカーの電源が入っているかを確認します。(外付けスピーカーの場合)
・スピーカーの音量が低くなっています。ボリュームコントロールで音量を調整します。

参照

・　音量の調整について→「音量を調整する」(P.149)

・再生しようとする音声ファイルの録音レベルが低くなっています。適切な録音レベルに調整して録音します。
・サウンドドライバーを正常に動作させます。

1　[コントロールパネル] 画面の [システム] アイコンをダブルクリックする。
2　[システムのプロパティ] の [ハードウェア] タブの [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする。
3　リストの [サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ] のドライバーに「！」が付いていないか確認する。「！」が付いていた場合は、ドライバーを再セットアップする。

参照

・　サウンドドライバーの再セットアップについて→「サウンドドライバー」(P.185)

Q マイクで録音できない

A

・マイクのジャックが、パソコンに正しく接続されていません。マイク入力端子にマイクのジャックが正しく接続されているか確認します。

参照

・ マイクの接続について→「ヘッドホン、マイクを接続する」(P.98)

・マイクの録音レベルが低くなっています。[ボリュームコントロール]でマイクの録音レベルを適切に調整して録音します。

参照

・ 録音レベルの調整について→「音量を調整する」(P.149)

Q 音声認識アプリケーションのマイク調整が適切に設定できない

A

マイクの感度設定が不適切です。[ボリュームコントロール]でマイクの感度を調整します。

Q タスクバーにスピーカーのアイコンが表示されない

A

スピーカーのアイコンをタスクバーに表示する設定にします。

1 [コントロール パネル]画面の[サウンドとオーディオデバイス]アイコンをダブルクリックする。
2 [音量]タブをクリックする。[タスクバーに音量アイコンを配置する]に、チェックが付いているか確認する。チェックが付いている場合は、Windows を立ち上げ直す。

Q 音声が途切れたり、繰り返したりする

A

ディスクに読み書きしています。ディスクに読み書きしている状態で、再生時間の長い音を再生すると、音が途切れたり、繰り返したりする場合がありますが問題はありません。パソコンの立ち上げ音が途切れる場合は、次の操作を行ってください。

・[コントロールパネル]画面の[サウンドとマルチメディア]の[サウンド]タブで、再生時間の短い音を設定するか、サウンド名を「なし」に設定します。

プリンターで印刷できない

Q プリンターが使えない

A

・プリンターの電源を入れます。
・パソコンとプリンターの電源を切り、プリンターの電源を入れたあとで、パソコンの電源を入れます。
・プリンターに異物や用紙が詰まっています。プリンターの表示ランプを確認します。
・プリンターケーブルを正しく接続します。
・プリンターケーブルが絡んでいます。信号妨害のないように、ケーブルどうしはできるだけ離しておきます。

・プリンターをパソコンに接続したあと、[プリンタと FAX] 画面の [プリンタのインストール] でプリンターを使用できるようにします。
・複数のプリンターを使用しています。使用するプリンターのアイコンを右クリックして、[通常使うプリンタに設定] にチェックが付いているか確認します。
・スタンバイ、休止状態から復帰したとき、プリンターのパネル操作が有効にならない場合があります。この場合は、パソコンより印刷してください。パソコン操作が有効になります。

Q 正しくプリントできない

A

正しいプリンターを選びます。アプリケーションの [ファイル]－[印刷] ダイアログボックスなどで、正しいプリンターが選ばれているか確認します。

Q 途中までしか印刷しない

A

用紙がなくなっていないかを確認します。

CD/DVD ドライブの異常

Q DVD-RAM/DVD-ROM/CD-ROM を読み込めない

A

・その DVD-RAM/DVD-ROM/CD-ROM の規格を確認します。Macintosh 用の CD-ROM は読み込めません。
・このパソコンに付属の CD-ROM をセットし、読み込んでみてください。読み込めない場合は、ドライブ内部のピックアップレンズが汚れているかもしれません。クリーニングしてください。

参照

・　クリーニング方法について→「お手入れ」(P.116)

・CD-R 、CD-RW ですか？このパソコンで作成しましたか？ ほかのパソコンで作成すると、CD-R や CD-RW は読み込めないことがあります。

Q CD-ROM/DVD-ROM/DVD-RAMディスクをドライブに入れると「Not Ready」など準備ができていないことを示すエラーメッセージが表示される

A

ドライブの準備ができていないときに表示されることがあります。ディスクアクセスランプが消えるまでそのまま待ちます。

Q DVD-Video が再生できない

A

・DVD-Video 再生ソフトがインストールされていないと、DVD-Video を再生できません。
・ご使用のドライブが DVD 対応ドライブでないと、DVD-Video を再生できません。
・海外製の DVD-Video は、地域コードを変更しないと再生できません。地域コードは一定回数以上変更すると変更できなくなり、設定以外の地域コードを持つ DVD-Video は再生できなくなります。

- DVD-Video のディスクが壊れていませんか ? ほかの DVD プレーヤーで再生できるかご確認ください。
- DVD-Video の種類によっては、再生できないものがあります。

Q CD-R/RW に書き込みできない

A

- CD 書き込みソフトがインストールされていないと、CD-R/RW への書き込みができません。
- ご使用のドライブが CD-R/RW 書き込み対応ドライブでないと、CD-R/RW への書き込みはできません。
- すでにほかのパソコンで書き込んだ CD-R/RW ですか ? ほかのパソコンで書き込んだ CD-R/RW には追記できないことがあります。
- CD-R/RW に残り容量以上の書き込みをしようとしていませんか ? 別の CD-R/RW を使用してください。
- CD-R/RW のディスクが壊れていませんか ? ほかのパソコンで読み込みできるか、ディスク面に傷が無いか確認してください。
- CD-R/RW のディスクは推奨ディスクですか ? 推奨ディスク以外のディスクでは、正常に書き込みできないことがあります。

FD の異常

Q FD にデータが書き込めない

A

- ディスクのライトプロテクトノッチが、「書き込み禁止」側に入っています。
  「書き込み可能」側に倒します。

参照

・ 書き込み禁止について→「書き込みを禁止する」(P.93)

- ディスクの容量がいっぱいになっています。[マイ コンピュータ] の [3.5 インチ FD] のプロパティーを開き、ディスクの容量がいっぱいになっていないか確認します。

Q FD からデータが読み込めない

A

- このパソコンで読み込めない種類の FD です。読み込めるのは、720KB ／ 1.25MB ／ 1.44MB の FD です。
- Macintosh でフォーマットされた FD は、読み込めません。
- 弊社のパソコン以外でフォーマットした FD だと、読み込めないことがあります。
- FD がフォーマットされていません。新しい FD には、そのままでは使用できないものもあります。

アクセスランプ

Q ディスクアクセスランプが点灯したままになっている

A

・HDD が壊れていませんか ? [チェックディスク] を実行して HDD にエラーがないかチェックしてください。[チェックディスク] は、ディスクのプロパティーで [ツール] タブの [チェックする] ボタンをクリックすると立ち上がります。
・実行しようとしたアプリケーションが壊れていませんか ? 別のアプリケーションを実行してみてください。

HDD のトラブル

Q HDD の空き容量が少なくなった

A

・不要なファイルを削除します。
・不要なアプリケーションを削除します。
・ハードディスクを増設し、ファイルを移動します。
・MO ドライブ装置などのファイル装置を増設し、ファイルを移動します。

Q 1 台のハードディスクに、複数のドライブを作りたい

A

再セットアップの際に複数の領域 (パーティション) を作成し、フォーマットすると、複数のドライブができます。

重要

・　パーティションを作成すると、HDD 内のデータはすべて消去されます。

参照

・　複数の領域の作成について→「一括セットアップする」(P.63)、Windows のヘルプ

その他の周辺機器のトラブル

Q 取り付けたあと、周辺機器が使えない

A

・いったん周辺機器を取り外し、正しく取り付けます。
・パソコンと周辺機器の電源を切り、周辺機器の電源を入れたあとでパソコンの電源を入れます。
・ケーブルなどを正しく接続します。
・周辺機器の取扱説明書をご参照ください。

参照

・　周辺機器の接続について→「6 章　パソコンに機器を接続する」(P.83)

Q 増設したメモリー容量が増えていない、起動時に表示されるメモリー容量が異常である

A

・メモリーボードを正しく取り付けます。

参照

・ メモリーボードの取り付けについて→「取り付け手順」(P.112)

・[マイコンピュータ] アイコンを右クリックし、プロパティを選択します。表示される [システムのプロパティ] 画面でメモリー容量を確認します。

Q LAN で通信できない

A

・接続する HUB と通信モード (速度や全二重 / 半二重の設定) を合わせます。接続する HUB にオートネゴシエーション機能がない場合は、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T などの設定を正しく合わせます。
・接続している HUB の電源を入れます。
・サーバーが起動していることを確認します。
・ケーブルなどを正しく接続します。
・100BASE-TX で使用しているときは、100BASE-TX で動作可能なケーブルをご使用ください。
・1000BASE-T で使用しているときは、1000BASE-T で動作可能なケーブルをご使用ください。
・LAN ドライバーがインストールされているかご確認ください。
・ネットワークで使用するプロトコルが組み込まれているかご確認ください。
・NetWare サーバーとの接続に失敗する場合は、パソコンで IPX/SPX 互換プロトコルのフレームタイプを NetWare サーバーで使用しているフレームタイプに合わせてください。標準では「 auto 」です。

Q 10BASE5/10BASE-T を組み合わせたネットワークで通信できない、または遅い

A

ネットワークのトランシーバーや HUB の設定が正しくありません。10BASE5 のイエローケーブルと 10BASE-T の HUB を接続するトランシーバーの SQE スイッチが OFF に設定されているかご確認ください。その場合、トランシーバーケーブルにパソコンを直接接続しているならば、トランシーバーの SQE スイッチは ON に設定してください。
ただし、SQE スイッチを ON に設定すると、複数のメーカーのパソコンが 10BASE-T を使用している場合、LAN 機能の特性の違いで通信できないパソコンがあります。HUB の多段接続を行った場合、1 段目と 2 段目で通信状態が変わることがあります。

Q データの送受信が遅くなる

A

・HUB のコリジョンランプが点灯していませんか ? よく点灯する場合は、スイッチング HUB をご使用ください。
・Windows のコマンドプロンプトで、ファイルを転送していませんか ? コマンドプロンプトで、ファイル転送などを長時間行っていると、データの送受信が遅くなることがあります。

BIOS メニュー

Q BIOS メニューの設定を変更したら、正しく動作しなくなった

A
BIOS メニューの設定値を出荷時の状態に戻します。増設した PC カードがある場合は取り外し、BIOS メニューの [Exit] 画面で [Load Setup Defaults] を実行し、設定値を出荷時の状態に戻します。

参照
・　詳細について→「BIOS 設定を初期化する」(P.154)

Q セットアップの実行エラーが表示される

A
パソコン内部に設置されているリチウム電池が消耗しています。お問い合わせの上、リチウム電池の交換を依頼してください。お客様自身で交換することはできません。なお、リチウム電池を取り外すと、メモリーに入っている BIOS メニューで設定した情報が消えます。設定内容はあらかじめ控えておいてください。

参照
・　お問い合わせ先について→「お問い合わせ先」(P.6)

時計精度

Q 時計が遅れるときは (リチウム電池の交換)

A
- パソコンのリチウム電池が消耗すると、パソコンの時計が遅れたり、BIOS メニューの設定が正しく表示されなくなります。また、「セットアップの実行エラー」が繰り返し表示されたり、「 Check date and time setting 」などと表示されます。このようなときは、リチウム電池を交換する必要があります。
- 寿命で交換する場合はお問い合わせ先までご連絡ください。お客様自身で交換できません。なお、リチウム電池を取り外すとメモリーに入っている BIOS メニューで設定した情報が消えます。設定内容はあらかじめ控えておいてください。

ヒント
・　「セットアップの実行エラー」は、リチウム電池が正しく接続されていない場合にも表示されます。

参照
・　リチウム電池の寿命について→「有寿命部品」(P.133)

Q
タイムサーバーと同期をとりたい

A
[スタート] ボタン－ [コントロールパネル]－ [日付、時刻]－ [インターネット時刻] でタイムサーバーを設定できます。設定方法の詳細は「ヘルプとサポート」で「インターネット時刻」の項目をご参照ください。

電子マニュアル

Q 電子マニュアルが立ち上がらない

A

次のいずれかの手順で Adobe Reader をインストールします。

・HDD リカバリーモデルの場合
 e:¥programs¥adobereader フォルダー中の [adberdr70_jpn_full] をダブルクリックする。
 ＊ e はリカバリー領域のドライブ名です。

・CD-ROM リカバリーモデルの場合
 『活用百科』CD を CD/DVD ドライブに入れ、e:¥programs¥adobereader フォルダー中の [adberdr70_jpn_full] をダブルクリックする。
 ＊ e は CD/DVD ドライブ名です。

ファイルがうまく管理できない

Q エクスプローラで探しているファイルが見つからない

A

・正しいフォルダーを選択します。
・新規文書を保存すると、文書を作成したアプリケーションのフォルダーに入ることがあるので、このフォルダーを確認します。

Q CD-ROM/DVD-ROM からコピーしたファイルを上書きできない

A

ファイル属性の読み取り専用を解除します。

1 エクスプローラでファイルを右クリックし、[プロパティ] を選択する。
2 [読み取り専用] のチェックを外す。
3 [適用] ボタンをクリックし、[閉じる] ボタンをクリックする。
4 エクスプローラの画面右上の [×] ボタンをクリックして、エクスプローラを終了する。

インターネット使用中のトラブル

Q インターネットに接続できない

A

・外付けのモデムを使用しているときは、モデムの電源が入っているかを確認します。
・接続が混んでいる時間帯では、すぐに接続できないことがあります。しばらくしてからもう一度接続します。
・接続先のサーバーが停止していないかを確認します。
・接続先の電話番号が変わっていないか確認します。
・設定してある接続先の電話番号を確認します。

1 [スタート] ボタン－[コントロール パネル] をクリックし、[ネットワークとダイヤルアップの接続] アイコンをダブルクリックする。
2 使用している接続先のアイコンを選択し、[ファイル]－[プロパティ] を選択する。
3 [全般] タブをクリックし、市外局番と電話番号を確認する。

・ユーザー ID やパスワードを確認します。

1 デスクトップの [Internet Explorer] アイコンを右クリックし、[プロパティ] を選択する。

2　[接続] タブをクリックし、[ダイヤルアップの設定] で使用するダイヤルアップが選択されていることを確認し、[設定] ボタンをクリックする。
3　ユーザー名を確認し、正しいパスワードを入力する。パスワードを入力するときは小文字、大文字を確認する。

・ モデムの設定が正しいかを確認します。

1　[スタート] ボタン－ [コントロールパネル] をクリックする。
2　[電話とモデムのオプション] アイコンをダブルクリックする。
3　[ダイヤル情報] タブの [編集] ボタンをクリックし、国／地域、市外局番、ダイヤル方法を確認する。
4　[OK] ボタンをクリックし、[モデム] タブをクリックし、使用しているモデムが選択されているかを確認する。
5　[プロパティ] ボタンをクリックし、[プロパティ] の [詳細設定] タブをクリックする。
6　[既定の設定を変更] ボタンをクリックし、[詳細設定] タブをクリックしてハードウェアの設定を確認する。

・ ネームサーバーや IP アドレスなどの TCP/IP の設定を確認します。

1　[スタート] ボタン－ [コントロール パネル] をクリックする。
2　[ネットワーク接続] アイコンをダブルクリックする。
3　使用している接続先のアイコンを選択し、[ファイル] － [プロパティ] を選択する。
4　[ネットワーク] タブの [インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックする。
5　IP アドレス設定、ネームサーバーを確認する。

Q 接続中に突然回線が切れる

A

・ データを送受信していない状態が一定の時間以上続くと、自動的に回線が切れます。通信していない時間を長くするときは、次のようにします。

1　デスクトップの [Internet Explorer] アイコンを右クリックし、[プロパティ] を選択する。
2　[接続] タブをクリックし、[ダイヤルアップの設定] で使用するダイヤルアップが選択されていることを確認し、[設定] ボタンをクリックする。
3　「ダイヤルアップの設定」の [詳細設定] ボタンをクリックする。
4　[アイドル時間が次の場合、切断する] にチェックが入っていることを確認し、アイドル時間を長くする。

・ キャッチホンを使用すると、通信が切れます。キャッチホン II に切り替えると解消します。
・ 接続先のサーバーがダウンしました。
・ Outlook Express の使用時では、[送受信が終了したら切断する] をチェックしていると、メールの送受信後自動的に回線が切れます。
・ 回線にノイズが発生しました。
・ システムスタンバイをオフにします。

Q 接続中にパソコンの電源を切ってしまった

A

電話回線は強制的に切断されます。ダウンロード中のファイルがある場合は、正常に保存されないことがあります。

Q ホームページが開かない

A

・ URL の入力が正しいか確認します。
・ 指定した URL のホームページがなくなっています。
・ 指定した URL のホームページは、インターネットエクスプローラで設定したセキュリティーのレベルの範囲外です。次の手順を行って、セキュリティーレベルを調整します。

1 デスクトップの[Internet Explorer]アイコンを右クリックし、[プロパティ]を選択する。
2 [セキュリティ]タブをクリックし、[Webコンテンツのゾーンを選択してセキュリティのレベルを設定する]で、[インターネット]が選択されていることを確認する。
3 [このゾーンのセキュリティのレベル]に表示されているつまみをドラッグしてレベルを下げる。つまみが表示されていないときは、[既定のレベル]ボタンをクリックしてつまみを表示する。
4 「セキュリティのレベルを変更しますか？」という警告が表示される。
5 [はい]ボタンをクリックする。
6 [適用]ボタンをクリックし、[OK]ボタンをクリックする。

Q 転送スピードが遅い

A

・回線が混んでいます。時間帯によっては、転送スピードが遅くなる場合があります。しばらく時間をあけてからご使用ください。
・モデムの設定が間違っています。正しいモデムを選択します。
1 [スタート]ボタンー[コントロール パネル]をクリックする。
2 [電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックし、[モデム]タブで使用するモデムを選択する。

インターネットブラウザーのトラブル

Q 「お気に入り」が増えすぎた

A

・フォルダーを作成してお気に入りのページをフォルダーに移動します。
・お気に入りのページを削除します。
1 インターネットエクスプローラを起動し、[お気に入り]ー[お気に入りの整理]を選択する。
2 削除するホームページを選択し、[削除]ボタンをクリックし、[はい]ボタンをクリックする。

参照

・「お気に入り」の整理について→インターネットブラウザーのヘルプをご覧ください。

Q 開いたホームページが更新されていない

A

・キャッシュに保存されている一時ファイルを更新するように設定を変更します。
1 インターネットエクスプローラを起動し、[ツール]ー[インターネットオプション]を選択する。
2 [全般]タブをクリックし、[インターネット一時ファイル]の[設定]ボタンをクリックする。
3 [保存しているページの新しいバージョンの確認]で[ページを表示するごとに確認する]、[Internet Explorerを起動するごとに確認する]、[自動的に確認する]のいずれかを選択する。
・一時ファイルを削除します。
1 インターネットエクスプローラを起動し、[ツール]ー[インターネットオプション]を選択する。
2 [全般]タブをクリックし、[インターネット一時ファイル]の[ファイルの削除]ボタンをクリックし、[OK]ボタンをクリックする。

Q ホームページが文字化けする

A

・表示している文字の種類を日本語に変更します。

1　インターネットエクスプローラで、[表示] – [エンコード] – [日本語 (シフト JIS)] または [日本語 (自動選択)] を選択する。

・日本語を優先して表示する設定に変更します。

1　インターネットエクスプローラで、[ツール] – [インターネットオプション] を選択する。
2　[全般] タブをクリックし、[言語] ボタンをクリックする。
3　[日本語 [ja]] を選択し、[上へ] ボタンをクリックし、一番上に移動する。[日本語 [ja]] がないときは、[追加]ボタンをクリックし、[日本語[ja]]を選択し[OK]ボタンをクリックする。

Q ホームページの表示が遅い

A

・プロキシサーバーを利用します。

1　[スタート] メニューの「インターネット」を右クリックし、「インターネットのプロパティ」を選択する。
2　[接続] タブをクリックし、使用しているダイヤルアップが選択されていることを確認し、[設定] ボタンをクリックする。
3　[プロキシサーバーを使用する] をチェックし、アドレスとポートを入力する。

・画像の表示をやめます。

1　インターネットエクスプローラを起動し、[ツール] – [インターネットオプション] を選択する。
2　[詳細設定] タブをクリックし、「マルチメディア」の [画像を表示する] のチェックを外す。
3　[OK] ボタンをクリックする。

・ActiveX や Java を無効にします。

1　インターネットエクスプローラを起動し、[ツール] – [インターネットオプション] を選択する。
2　[セキュリティ] タブをクリックし、[レベルのカスタマイズ] ボタンをクリックする。
3　「ActiveX コントロールとプラグインの実行」の [無効にする] を選択し、「Java の許可」の [Java を無効にする] を選択する。
4　[OK] ボタンをクリックする。

Q ホームページがいつ更新されたかいちいち調べるのは大変

A

ホームページの内容が更新された通知をメールで受け取ることができます。ホームページをお気に入りに追加し、更新通知を送信するように設定します。

1　インターネットに接続し、更新された通知を送信させるホームページを表示する。
2　[お気に入り] – [お気に入りに追加] を選択し、フォルダーを選択して [OK] ボタンをクリックする。
3　[お気に入り] – [お気に入りの整理] を選択する。
4　更新通知を送信させるホームページを選択し、[オフラインで使用する] をチェックする。[プロパティ] ボタンが表示される。
5　[プロパティ] ボタンをクリックする。[XXX のプロパティ] 画面が表示される。
6　[ダウンロード] タブをクリックする。
7　[このページが変更された場合、電子メールを送信する] をチェックし、電子メールアドレスと電子メールサーバー名を入力し、[OK] ボタンをクリックする。
8　[閉じる] ボタンをクリックする。インターネットに接続し、同期化される。

メールの送受信がうまくいかない

Q メールの送受信ができない

A

- サーバーが停止しているかを確認します。
- 受信メール (POP3) サーバー、送信メール (SMTP) サーバー、アカウント名、パスワードが正しいか確認します。

1 Outlook Express を起動し、[ツール] − [アカウント] を選択する。
2 [メール] タブをクリックし、使用するアカウントが選択されていることを確認し、[プロパティ] ボタンをクリックする。
3 [サーバー] タブをクリックし、正しい受信メール (POP3) サーバー、送信メール (SMTP) サーバー、アカウント名、パスワードを入力する。
4 [OK] ボタンをクリックする。

Q 送信したメールが相手に届いていない

A

- 宛先のメールアドレスが正しいかを確認します。
- メールサーバーが停止しているかを確認します。
- 添付されているデータのサイズが大きすぎ、メールサーバーで受信できる範囲を超えています。添付したデータのサイズを小さくしてもう一度送信します。

Q 受信したメールが文字化けしている

A

- 表示するフォントを日本語にします。Outlook Express で、[表示] − [エンコード] − [日本語 (自動選択)] を選択します。
- 添付データの送信形式を MIME の「Base 64 形式」または「なし」で送信するように送信相手に依頼します。

Q 受信メールをいちいち手作業で分類するのは手間がかかる

A

受信メールを自動的に振り分けることができます。ここでは、Outlook Express で、指定した送信者からのメールを自動的に振り分ける場合を例に説明します。

1 [ツール] − [メッセージルール] − [メール] を選択する。[メッセージルール] の [メールルール] タブが表示される。
2 [1.ルールの条件を選択してください]の[送信者にユーザーが含まれている場合]をチェックする。
3 [3. ルールの説明] の「送信者にユーザーが含まれている場合」をクリックする。
4 [アドレス帳] ボタンをクリックし、送信者を選択し [送信者] ボタンをクリックし、[ルールのアドレス] に表示する。ほかの送信者も選択する場合は、同様にする。[OK] ボタンを 2 回クリックし、[新規のメールルール] に戻る。
5 [2. ルールのアクションを選択してください] の [指定したフォルダに移動する] をチェックし、[3. ルールの説明 (下線をクリックすると編集できます)] の「指定したフォルダ」をクリックする。
6 [アイテムの移動先] で受信メールを移動するフォルダーを選択し、[OK] ボタンをクリックする。
7 [4. ルール名] に分類する名称を入力し、[OK] ボタンを 2 回クリックする。

その他のソフトウェアのトラブル

Q アプリケーションが実行できない

A

このパソコンおよびインストールされている OS で使用できるアプリケーションですか ?

・そのアプリケーションの実行に必要なメモリー容量が実装されているか、Windows のバージョンを正式にサポートしているアプリケーションであるかなどをご確認ください。

・どのアプリケーションも正しく実行できなければ、Windows が壊れているかもしれません。FD やその他の媒体に必要なファイルのバックアップを取り、Windows を再セットアップしてください。

参照

・　Windows の再セットアップ→「5 章　ご購入時の状態に戻すには」(P.59)

Q アプリケーションのインストール時、バージョン競合のメッセージが表示された

A

通常は、[はい] ボタンをクリックして新しいファイルを使用します。アプリケーションによって個別に指示がある場合は、その指示に従います。

サポート＆サービスのご案内

1. 納入時の欠品や初期不良について

製品納入時には、製品および付属品の内容を必ずご確認ください。
納入時の欠品や初期不良 (納入後 1 週間以内) については、日立コールセンタまでご連絡ください。代品と交換させていただきます。なお、欠品や初期不良の内容によっては、欠品部品送付または修理対応となる場合があります。

2. 困ったときは

STEP1「マニュアル」を見る

製品同梱の紙マニュアルや電子マニュアルをご利用ください。

STEP2 最新情報を Web サイトで入手

FLORA ホームページで、Q&A や技術情報、ダウンロードなどの最新情報を提供しております。
FLORA ホームページの「サポート」をクリックしてください。

■ Q&A(よくある質問と回答)
電話や Web で寄せられるお問い合わせの中から、よくあるご質問とその回答を掲載しています。随時最新の情報を追加・更新しておりますので、電話や Web でお問い合わせいただく前に一度ご確認ください。

■ダウンロード
最新のドライバーやユーティリティー、BIOS アップデートプログラムを提供しています。必要に応じてご利用ください。

■ Web によるお問い合わせ
専用の入力フォームへ必要事項とお問い合わせの内容を入力していただきますと、後日メールで回答いたします。

＊ 回答のメールについて再度ご質問がある場合は、再度受付フォームから入力してください。回答メールの返信機能を利用することはできません。
＊ お問い合わせの内容によっては、回答までにお時間をいただく場合があります。

STEP3 お電話でお問い合わせください

■パソコンの操作や使いこなしについて
HCA センタへお問い合わせください。

■故障かな？と思ったら
【販売会社からご購入いただいた場合】
販売会社で修理を承ることがございます。販売会社へ修理の窓口をご確認ください。
【上記以外の場合】
日立コールセンタへお問い合わせください。

3. 製品保証について

■保証規定

保証書の裏面に記載されていますので、よくお読みください。

■保証期間

・製品の保証期間は、保証書に記載されています。
・本保証書に基づいて修理または交換した部品の保証期間は、修理完了後 90 日間または当該部品が組み込まれた装置の残余保証期間のうち、いずれか長い方とします。その期間内に修理または交換した部品に瑕疵があった場合、弊社は、再修理または交換の責任を負うものとします。なお、弊社は、当該瑕疵について、当該再修理または交換の責任以外、損害賠償その他一切の責任を負わないものとします。交換された旧部品および装置は弊社が任意に処分できるものとします。
・ディスプレイ装置以外の弊社標準オプション製品 (製品に内蔵または接続される弊社製のオプション製品) の場合は、当該オプション製品が内蔵または接続されている日立パーソナルコンピュータ製品の保証期間が適用されます。

■修理サービス

保証期間中の修理サービスは引取修理サービスです。お電話でトラブルの状況を確認し、修理が必要と判断された場合は、対象製品をお客様ご指定の場所まで宅配業者が引き取りにうかがい、修理完了後ご返却するサービスです。修理はハードウェア部分に限らせていただきます。また、ディスプレイ装置以外の弊社標準オプション製品の修理サービスについても、引取修理サービスです。
引き取り修理もしくは持ち込み修理以外の保守サービスをご希望の場合には、それに要する費用はお客様のご負担となります。持ち込み修理時の運搬費用についてもお客様のご負担とさせていただきます。

修理依頼時のご注意

（1）修理依頼品に必ず修理依頼票のコピーと保証書か保証書のコピーを添えて、ご依頼ください。
（2）FD、MOなどの記録媒体、および製品保証の対象とならない弊社製でない付加物などを事前に取り外してご準備ください。これらが本製品に付加された状態で引き渡された場合、弊社はこれらに対する責任を負いません。
（3）HDD内のプログラムやデータ、各種設定内容は保証いたしかねますので、必ずバックアップをお取りください。
（4）HDD交換後の回復サービス（OSリカバリー）については有料となります。ご依頼の際は、「Product Recovery CD-ROM」または「BackUP CD-ROM」を添付していただく必要があります。
詳しくは修理受付窓口へお問い合わせください。

修理受付窓口

【販売会社からご購入いただいた場合】
販売会社で修理を承ることがございますので、販売会社へ修理の窓口をご確認ください。
【上記以外の場合】
日立コールセンタへお問い合わせください。

受付時間と訪問日

修理受付窓口のテクニカルスタッフが修理を必要と判断した場合、原則翌営業日午後以降のご希望の時間帯に宅配業者が引き取りにうかがいます。

＊　離島や山間部、遠隔地については、翌々日以降となります。
＊　交通事情・天候などにより、ご希望の時間帯にうかがえない場合があります。

修理返却までの期間

装置のお引き取り後、修理完了品をお届けするまで約１週間かかります。なお、故障の内容によってはそれ以上かかる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

4.　有償サポートについて

■ (1) 契約保守

「当日オンサイト修理」、「翌日オンサイト修理」や「引き取り修理」などの契約保守サービスメニューがあります。ご契約いただきますとその契約範囲の保守サービスについて修理ごとの追加料金は発生しません。詳しくはご購入先か日立コールセンタへお問い合わせください。

■ (2) パーコール保守

修理のつど、その内容で所定の修理料金を申し受けます。

5.　保守部品について

本製品用保守部品の保有期間は製造終了後６年です。

6. FLORA シリーズ修理依頼書

FLORAシリーズ修理依頼書

管理 No

年　月　日

<table>
<tr><td>お名前</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>会社名</td><td colspan="2"></td><td>部署名</td><td></td></tr>
<tr><td>ご住所
お名前</td><td colspan="4">〒
お電話番号　　　　　　　FAX番号</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ご使用のパソコン</td><td>製品名(型名)</td><td></td><td>ご購入先</td><td></td></tr>
<tr><td>製造番号</td><td></td><td>ご購入日</td><td>年　月　日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">症状</td><td>どこが
(パソコン・ディスプレイなど)</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>いつ
(毎回・時々・まれに)</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>どのように</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="5">修理限度額(有償修理＊1時、この金額を超えそうな場合は事前に、連絡いたします。)</td></tr>
<tr><td colspan="5">修理会社記入欄(修理内容など)</td></tr>
</table>

ご注意：

1. 修理依頼品に<u>必ず本票のコピーと保証書か保証書のコピーを添えて</u>、ご依頼ください。＊2
2. 修理をご依頼の際、一切の増設機器およびケーブル類を外した状態でご準備ください。
3. HDD 内のプログラムやデータ、各種設定内容は保証いたしかねますので、必ずバックアップをお取りください。
4. HDD 交換後の回復サービス (OS リカバリー) については、有料となります。ご依頼の際は、「Product Recovery CD-ROM」または「BackUP CD-ROM」を必ず添付してください。
5. その他、保証書に記載の保証規定をご覧ください。

＊ 1: 有償修理となるのは次の場合です。

・保証期間を経過したあと

・保証規定の範囲外の原因による故障の場合 (天災や、お客様の不注意に起因する故障の場合など)

＊ 2: 本票は、保守会社や販売会社では不要の場合があります。あらかじめお問い合わせ先へご確認ください。

さくいん

他社製品の登録商標および商標についてのお知らせ

このマニュアルにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティー契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約に基づき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。

それ以外の場合は該当ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

- ENERGYSTAR はアメリカ合衆国の登録商標です。
- Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
- インテル、Core、Celeron は Intel Corporation の商標または登録商標です。
- Sun、Sun Microsystems、Java は米国 Sun Microsystems,Inc の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

FLORA 活用百科

第 2 版　2006 年 10 月

無断転載を禁止します。

株式会社　日立製作所
エンタープライズサーバ事業部

〒 259-1392 神奈川県秦野市堀山下 1 番地
お問い合わせ先：HCA センタ 0120-2580-91

MF0101000-2